皇朝律例彙纂

近藤圭造編著

卷三

ワ 13
6431
4

門 ワ13
6431
巻 34

皇朝律例彙纂巻三目録

職制律 計一十五條

遺失詔書
棄毀官文書

詔書有違
上書奏事錯誤
事應奏不奏
失誤朝賀
失儀
擅離職役
無故不朝参公座

皇朝律例彙纂巻三目録

職制律 計七條

棄毀官文書 三條

無故不朝参公座 一條

昭和十七年十一月三十六日購求

棄毀器物稼穡
立嫡違法　三條
逐婚嫁女
匿父母夫喪
子弟私擅用財　二條
逃亡　四條
奴婢逃亡
賊盜律　計二十二條
盜大祀神御物
盜乘輿服御物
盜官文書
衝突儀仗
至下馬牌不下
出納有違
那移出納
私借官物　二條
不覺被盜　一條
戶婚律　計十三條
差役不均
欺隱田糧　四條
盜賣田宅
重典賣田宅
賊盜律　計三十八條
盜大祀神御物　二條
盜乘輿服御物　一條

盜官印
盜兵器
盜園陵內草木
監守自盜
常人盜
强盜
劫囚
竊盜
盜官私牛馬
盜田野穀麥
親屬相盜
奴婢盜家長財物
恐喝取財
詐欺取財
略賣人
兇徒聚衆
夜無故入人家
盜賊窩主
共謀爲盜
雇人盜家長財物　二條
略賣人　六條
兇徒聚衆　四條
夜無故入人家　一條
盜賊窩主　四條

九年四月十四日第四十八号ヲ以テ職制律発止、但私借官物律例ハ改メテ賊盗律監守自盗ノ部ニ入ル

皇朝律例彙纂卷三

三河 近藤圭造 編著

職制律

遺失詔書

此條ハ。詔書ノ取扱ヒニ付テノ事ヲ記シタル。遺失ハ取リ忘レナクスルナリ。

凡詔書ヲ遺失シ。及ヒ誤毀手遏(モノ)ニテ。(キズ)スル類。(キズ)スル者ハ。杖一百。水火盗賊ニ因リ。毀失(キズ)(又ハナクスニ)シテ。顯跡(ケンセキ)(アラハレタルトコロ)

○鳥取縣、區長ノ送籍狀ヲ棄毀セシ伺
七年二月十二日指令
餘ノ文書ヲ以テ、論ス可シ、
○置賜縣々令等ノ捺印アル金穀受取証書ヲ誤毀セシ伺
同年月日指令
金穀受取證書ノ如キ、知事等ノ捺印アルモ、金穀課ノ印ト同ク、餘ノ文書ヲ以テ論ス、
○新川縣伺
判任官及等外辭令ヲ遺失スル者、且拾ヒ得ル者、處分如何致シ可然哉、
七年五月十七日指令
縣ノ文書ヲ遺失スルヲ以テ論ストイヘ圧、他人之ヲ拾得、遺失主ニ給セハ、罪ノ問ノ可キナシ、但シ辭令書ハ物貨ノ如キ價アル者ニアラス、拾得者ニ於テ處分ノ方法アラス、
○東京府伺
人民諸願筋之儀ニ付、許否之指令書ヲ遺失候モノハ、地券書遺失ト同樣ニ看做シ可然哉、
七年六月二日指令
伺ノ通
○神奈川縣、諸雜業鑑札及ヒ人力車荷車等ノ檢印ヲ遺失、毀損ノ伺、
七年八月二十九日指令
諸雜業免許鑑札、或ハ人力車荷車等ノ檢印ヲ遺失毀損スル者ハ、例第百一條ニ照依シ、贖ヲ聽ルス、
○同縣、諸願届等ノ指令書遺失セシ伺、
同年月日指令
諸願届許否ノ指令書ヲ、遺失

アル者ハ。坐セス。〔罪ニセヌナリ〕

棄毀官文書

〔公ケノ帳面類ヲ棄ルト。毀ルトノ二事ヲ云フ。〕

凡官ノ文書ヲ。故サラニ〔ワザト〕棄毀スル者ハ。杖一百。重事〔國家ノ大事ト云フ如シ〕ニ關スル文書ハ。一等ヲ加フ。規避スル所アル者ハ。〔タトヘバ。金錢ナドノ。埋沒ヲ覆ハシトメ。正數アル。帳面ヲヤブルノ類。〕重キニ從テ論ス。〔重キ罪ノ方ニ付テ。サバクナリ。タトヘハ。文書ヲ棄毀スル罪ト。金錢ナドヲ。埋沒セシ罪ト。較ベミテ。重キ方ニスルヿ。〕誤毀〔粗忽ニテ破ル〕スル者ハ。杖七十。遺失〔トリオトシナクスル也〕スル者モ。罪同。省臺寮司府藩縣ノ文書ハ。各二等ヲ減シ。餘ノ文書ハ。各五等ヲ減ス。若シ官物〔公ケノ品〕ヲ主守〔アヅカル〕レテ。簿書ヲ遺失シ。以テ錢糧數目〔米金ノ員數目方〕ノ錯亂ヲ致ス〔イリクマセ勘定ノ立ヌヤウニスル〕者ハ。杖八十。其水

スル者ハ、論スルヿ勿レ、

○和歌山縣伺

戸長縣廳ヨリ下付スル地券ヲ接受シ、陸運會社ニ托シ送致セシニ、其居村ニ會社ノ脚夫、途上ニ誤テ毀棄セシヿアリ、然ルニ其罪ヲ問フ規則ナク、及ヒ書替費用ヲ以テ、會社ヨリ一枚幾錢ノ割ヲ以テ償フヿ可申付哉、

七年九月二十五日指令

伺ノ通、

○白川縣伺

十月二十八日指令

公債證書ヲ遺失スル者ハ其罪ヲ問ハス、東京裁判所伺

追償ノ手續ヲ以テ、之ヲ遺失者ニ交付スヘシ、

七年十月二十九日指令

新川縣判任官及ヒ等外辭令書ヲ遺失スル者ハ、其處分伺

右ハ其拜受スル者遺失スル儀ニ可有之歟、當人死後子孫等ニ至テ之ヲ遺失スル者ニ係リテノ處分ハ、如何可致哉、

七年十月二十九日指令

本人死後遺失スル子孫ハ、罪ヲ問フヿ可キヤ、

○京都裁判所同上及ヒ地券取帳遺失ノ伺

七年十一月十九日指令

地券狀判取帳ヲ遺失スル者ハ罪ヲ問ハス、府縣限リ雜業者ヘ渡シ置クノ所ノ諸雜業者ヘ渡シ置クモ、府縣ニ照シ、贖ヲ聽ス可キヤ、

○島根縣家祿賜與ノ書付及ヒ官物遺失ノ伺

七年十一月二十日指令

百一藩ニ照シ、贖ヲ聽ス可キヤ、

○京都裁判所、府縣長官押印ノ指令書ヲ、誤毀遺失スル者ハ、各重キニ從テ論ス。

七年二月二十二日指令

其裁判所伺ハ、文部卿及租稅頭ト彫刻スル印ヲ棄毀スル者ハ。坐セス。

棄毀官文書條例

第百一條　凡官廳ノ通行印鑑ヲ遺失シ、及ヒ誤毀スル者ハ。懲役十日。

第百二條　凡官司ノ密事ヲ漏泄スル者（政ノ機事ヲ人ニ入ルヽハ。懲役一年。輕キ者（其事柄大事ニアラサルヿナキヿナリ）ハ。一等ヲ減ス。

火盜賊ニ因テ。毀失スル者ハ。坐セス。

斷決前拾得テ、事ニ於テ害無キハ、遺失ノ罪、不問ニ置クト雖モ、若シ斷決後拾得ルモ、改正ニ及ハス、

○和歌山縣家祿下賜ノ書付遺失ノ同
七年十二月八日指令
府縣ヨリ下付スル處ノ家祿下賜ノ書付ヲ遺失スル者ハ、府縣ノ文書ヲ遺失スルヲ以テ論ス、

○長崎裁判所地券遺失誤毀ノ事
七年十二月十八日指令
地券狀ハ、縣印アリト雖モ、人民ノ私有物ナリ、私有物ヲ遺失スルハ、罪ノ科ス可キナシ、公事ニ用ルノ文書ニシテ、縣印アル者ハ、縣ノ文書ナリ、

○同所娼妓俳優其他諸職業ノ鑑札遺失ノ伺、
同年月日指令
娼妓俳優其他諸職業鑑札ヲ遺失スル者ハ、律例第百一條ニ照シ、釀造等ノ鑑札ハ、本年第六十七號御布告ニ照シ處分スヘシ、

○同所官省府縣ノ通行印鑑遺失スル權衡ノ同
同年月日指令
官省府縣ノ印ヲ捺スルノ文書ハ、官省府縣ノ文書、餘印ヲ捺スルノ文書ハ、餘ノ文書ナリ、並ニ公事ニ用ルノ文書ヲ謂フ、誤毀遺失スル者、本條ニ明文アリ、

○三潴縣伺
權少屬某縣ノ文書ヲ盜取ラル、儀ト存候旨、申立ルニ付テハ、其稱スル所ニ據リ、同條其水火盜賊ニ因テ毀失スル者ハ坐セストアルニ依リ可然裁、尤遺失詔書條ニハ水火盜賊ニ因リ、

ノ指令〔長官ノ印ハ、省寮ノ印ニ依ルベシ〕タリ、新潟縣伺ヘ、部下ヨリ上申シタル長官捺印ノ文書ヲ誤毀遺失スルノ指令〔縣ノ餘ノ文書ヲ以テ論ス〕タリ、因テ之ヲ比較同視スヘキニ非ラス、但諸省寮司府縣長官ノ自印ヲ棄毀等スルハ、省寮府縣ノ印ヲ以テ、論スルノ限ニ在ラス、

○新潟縣、部民ヨリ出ス証書ヲ遺失シ、許算ニ錯誤セシ伺
七年四月十四日指令
部内ノ士民ヨリ差出ス証書類ヲ、其當該官吏遺失スル者ハ、餘ノ文書ヲ遺失スルヲ以テ論シ、懲役二十日ニ處ス、若シ其遺失ニ依リ、錢糧數目ノ錯亂ヲ致スハ、官物ヲ主守シテ、簿書ヲ遺失シ、以テ錢糧數目ヲ錯亂致ス者ニ異ナラサルハ、律ニ依リ、懲役八十日ニ處ス、

○山口縣、地券狀、及ヒ得度狀遺失ノ伺
七年四月二十五日指令
地券狀及ヒ得度牒ヲ遺失誤毀スル者ハ、論スルヿ勿レ、餘ノ文書ト稱スル者ハ、官省寮司府縣ノ名義ヲ以テ行フ、文書ノ外、縣廳四課ノ如キ、一局限リノ文書ヲ謂フ、通行印鑑ト稱スル者ハ、官廳諸門ノ出入ニ用ユルノ印鑑ヲ謂フ、

○兵庫裁判所縣廳捺印ノ添翰ヲ遺失セシ伺
七年五月七日指令
經鎮ノ事件ニ係ル文書ト雖モ、縣廳ノ名義ヲ以テ施行スル者ハ、縣ノ文書ヲ以テ論ス、

○權少判事大久保親正、公布ヲ揭示セシ板榜ヲ毀壞セ

毀失シテ顯跡アル者ハ、坐セスト有レ之、本條ニハ顯跡アルノ語無レ之候得共、同樣心得、顯跡ナケレハ遺失ト看做シ、其罪ヲ科シ可レ申裁、八年二月四日指令
本條縣ノ文書ヲ遺失スルハ、懲役五十日ノ所、盗賊ニテ毀失スル者ニ依リ、坐セス、

○石川縣伺
當縣貫屬家祿正米渡シ方云々、受取切手ヲ製シ、正米ト引換可レ相渡タメ、豫メ夫々相渡置候所、其切手ヲ遺失致候モノ有之候、右ハ其情狀ニ於テハ、地券狀及ヒ公債証書ヲ遺失スルヨリモ輕ク、罪ノ論スヘキナキ者ト被レ存候ヘモ、本年三潴縣伺御指令ニ、家祿渡方切手ヲ遺失スル者ハ、縣ノ餘ノ文書ヲ以テ論スルト有レ之候

シ伺、七年五月八日指令
人民便覽ノ為メ、御布告等掲示スル、板榜ヲ毀壊スル者ハ、情ヲ量リ、不應為ノ輕重ニ問フ、

○青森縣縣下限リノ鑑札、及ヒ縣印支廳四課ノ印等遺失ノ伺、七年七月三十一日指令
縣下限リノ鑑札ヲ遺失スル者ハ、例第百一條ニ照シ、縣印ハ同第百三條ニ照シ、支廳及ヒ四課ノ印ハ、同條餘ノ印ヲ遺失スルモノニ照シ、處分スヘシ、

○新瀉縣ヘ、長官押印ノ文書誤毀遺失セシ指令改正ノ達書、七年九月三十日〔別紙〕
部内ヨリ差出ス諸願伺ニ、縣

ニ付、右ヲ援引處斷スヘキ裁、八年三月二十四日指令
餘ノ文書ヲ遺失スルヲ以テ論ス、

○滋賀縣伺
官吏事アツテ、人民ヲ喚出スニ、喚狀ヲ誤冩シテ、他人ヲ喚出シ、或ハ甲縣ヘ可掛合事ヲ、縣名ヲ誤冩シテ、乙縣ニ掛合ノ類ハ、本條ニ因リ、誤冩シテ事ニ害アル者ヲ以テ論シ、因テ其郵遞ノ經費ヲ虚費スルハ、七贓圖中物料ヲ虚費云々トアルニ擬シ贓ニ計ヘ、坐贓ヲ以テ論シ、二罪倶發ノ例ニ因リ、重キニ従ヒ科斷致シ可然裁、但本文事發露セサルノ内、自ラ餘撿擧改正シテ事ニ害ナキ者ハ、自首ト同ク免罪スト雖モ其郵便税ヲ虚費スルノ如キ改正

ノ長官押印ノ指令書ヲ受ケ、誤毀或ハ遺失スル者ハ論スルヿ勿レ、

詔書有レ違

此條ハ。詔書ヲ違背スルヿヲ云フ。文面ニテ、詔書ニ違フ様ニ聞コレヽ。左ニテハナレ。

凡詔書ヲ奉シ。施行〔承リテ。扱フ。〕スルニ。官吏。故サラニ違フル〔違背スル〕者ハ。徒二年。失錯〔ソサウニテ。意味ヲ取違ヘ〕スル者ハ。杖八十。誤冩〔書損スル〕スル者ハ。笞四

七第内害出七費虚以二害

裁、譬ハルスヽシルヽ者、是亦本條入費ニ依後改正處分計俱其官吏又雖ト雖ノ事ノ例ニ雖

諸布告文ヲ誤寫ヲ以テ本年ニ依リ官ヲ誤寫テ事ヲ書ヲ者ハ、本條ニ依テ論ス。

一縣ノ二十二條文書ヲ以テ郵便ニ付スル者、其ノ告ヲ郵便ニ付スル者、其ノ罪ヲ一等ヲ減ス。

年一モ、首官ヨリ追償ルニヲ以テ因リテ可然ト雖モ、官吏ニ付キ又事ハ、相人民ノ、民ヲ義務ヲ其ノ誤刑ハヨニ可然ト雖モ、官吏ニ付キ又事ハ、相人民ノ、民ヲ義務ヲ其ノ誤刑ハヨニ

二十二條　書ヲ者ハ、其ノ罪ヲ一等ヲ減ス。

月ヲト償ナセシ、自ハ、首スキ官ト雖又其ノ罪ヲ一等ヲ減ス。

四日當誤官ヲ以テ郵便ニ付スル者、其ノ告ヲ郵便ニ付スル者、其ノ罪ヲ一等ヲ減ス。

虚發ヘシ、改正處分計俱其官吏又雖ト雖ノ事ノ例ニ雖

費ノ坐賦ノ例ス追償ルニヲ以テ因リテ可然ト雖モ、官吏ニ付キ又事ハ、相人民ノ、民ヲ義務ヲ其ノ誤刑ハヨニ

虚費以ニ害

ナ依テ費ヲ論ス給御布ノ者ヲ告ス號サアル縣一年モ、首官ヨリ追償ルニヲ以テ因リテ可然ト雖モ、官吏ニ付キ又事ハ、相人民ノ、民ヲ義務ヲ其ノ誤刑ハヨニ

キテ論ス、セル與ハ、其ノ罪ヲ一等ヲ減ス。

者ス、セル與ハ、其ノ罪ヲ一等ヲ減ス。

諸布告文ヲ誤寫ヲ以テ本年ニ依リ官ヲ誤寫テ事ヲ書ヲ者ハ、本條ニ依テ論ス。

諸、誤寫ヲ以テ本條ニ依テ論ス。

裁、譬ハルスヽシルヽ者、是亦本條入費ニ依後改正處分計俱其官吏又雖ト雖ノ事ノ例ニ雖

彫刻施行スル者ハ、杖一百。

一等ヲ減ス。害アラサル者。

及ヒ未タ施行セサル者ハ。

並ニ論スルヿ勿レ。（ズ。）

（沙汰ノ限ニ非ス。）

○千葉縣裁判所伺決監候ノ囚人擬シテ既ニ枚ヲ免ス。

裁判所ヨリ交付シタル罪人ノ簿冊ニ登記スル五十日ヲ限リ滿スレハ、官吏ハ、本條ニ依テ免ス。

役ノ十日ヲ過ス者ハ。笞二十。

役ノ六十日ヲ過ス者ハ。笞三十。

當ニ科シ其ノ罪ニ一等ヲ減ス。

スルヿ可キ事ニアラサルニ仍テ論シ可然ト雖モ、尚ホ坐贓ヲ以テ論ス。

然ル裁、又ハ其虚費スル所ノ郵便稅ヲ、全ク當ニ官吏ニ追償ス可キ首謀官吏ヲ與ヘ可然ト雖モ、同斷、甲ヲ喚出シ、乙ヲ喚出シ、誤テ旅費ヲ乙ル者ハ。笞五十。誤寫シテ。事ニ害アル（公ケノ事務）者ハ。笞三十。省臺寮司府藩縣ノ文書ニ。故サラニ違フル者ハ。並ニ杖七十。失錯スル者ハ。笞四十。誤寫シテ。事ニ害アル者ハ。笞二十。餘ノ文書ハ。各

十。未タ施行セサル者ハ。一等ヲ減ス。若シ官ノ文書ヲ施行スルニ。故サラニ違フル者ハ。杖八十。失錯スル者ハ。

第二條　罪ヲ本人ニ歸ス、筆者ヲ責ム可カラス、

第八
第一條文書ヲ以テ論ス、

年二月五日指令申スルノ

キテ、平、受ハ、錯誤有テ筆ヲ、執ル書ヲ、人ヲ害スル〔申立〕文書ハ。笞三十。省臺察司府藩縣ニ申スル文書ハ。並ニ笞二十。其餘ニ申スルノ文書ハ。笞一十。若シ申スルトコロ。錯誤アリト雖モ。文案行フ可クシテ。〔仮令〕書面ニ誤字等アル〔モ。妨ゲナキ分ナリ。〕事ニ害アラザル者ハ。論スルヿ勿レ。

ベシト云フノ類。皆〔事〕事ニ妨ゲアルヿナリ。

害アル者ハ。笞五十。官ニ申スル〔申立〕文書ハ。笞三十。省臺察司府藩縣ニ申スル文書ハ。並ニ笞二十。其餘ニ申スルノ文書ハ。笞一十。若シ申スルトコロ。錯誤アリト雖モ。文案行フ可クシテ。〔仮令〕書面ニ誤字等アル〔モ。妨ゲナキ分ナリ。〕事ニ害アラザル者ハ。論スルヿ勿レ。

○償

敦賀縣同ヲ、徵兵使巡行ノ時、臨丁壯ヲ、檢查有之ノ節、人別ニ、召寨ノ村名ヲ、表右ノ本條ニ、依リ、省臺ニ、伺ノ通、誤寫ノ罪ヲ、問ニ、追償ノ、限ニ、在ラス、

如キハ、乃チ事ニ害アレバ、本文ノ通リ誤寫ノ罪ヲ問ヒ、追償ノ限ニ在ラス、

朝律例彙纂　卷三

モ、其郵便稅ヲ虛費スル等ノ

付、更ニ拘役致サセス候テ可然哉、

七年三月十七日指令ノ通、

上書奏事錯誤

上書ハ建白書ノ類ナリ。奏事ハ面前申上ルヿナリ。

凡上書。及ヒ奏事ニ。錯誤シテ。原免ト言フ可クシテ。不免ト言ヒ。〔ハ罪ヲ免ス〕ト云フベキヲ。免サズ。〔千石ト言フ類ナリ。〕千石ト言フノ類。〔仮令バ。祿千石ヲ賜ルベシト云フヲ。千石ヲ賜ル

○三潴縣伺 六年八月二十日

指令

訣犯源吉カ、鎖鋼ヲ開脱スル、其情ヲ原ルニ、素ト食費ノ給スル無キニ出テ、他ノ故意アルニ非ラザレバ、故縦ヲ以テ論ス可カラズ、唯費ノ給マルナキニ當リ、官ニ申シ、處置ヲ請フ可キニ、申請セサルヲ以テ、　職制律　上司ニ申ス可クシテ申セスト云ニ擬シ、懲役三十日、贖ヲ聽ス、
　贖金二圓廿五錢　後藤悦藏

○宮崎縣遠隔邊僻ノ土地在住ノ者等、御布告并ニ諸規則ヲ誤解シ云々、伺
七年三月二十三日指令
御布告及ヒ諸規則等、各人民ニ公布スルノ後、違犯ノ者アレバ、各罰則ニ照シテ處分ス可シ、誤解ヲ以テ、罪ヲ免ルヽヲ得ス、地方官於テ、遺漏又ハ

事應奏不奏

凡軍務。兵馬ヲ出ス類。錢糧。金穀ヲ出納スル類。制度。擬ヲ定ムル類。死罪。死罪ハ。重キ罪ユヘ。申上ゲタル上ニテ。仕置スルナリ。災異。大旱大水等ニテ。米穀ヲ損メタル類。其他。事。奏ス可クシテ。奏セサル者ハ。杖七十。上司ニ申ス可クシテ。申セス。其支配頭ノ役所ヘ。取計ヒヲ伺フベクシテ。伺ハズ。下司ニ行ス可クシテ。行セサル。其支配下ノ役所ヘ。申達スベクノ。申達セスヿ。者ハ。笞三十。規

遲延シテ、公布セサレバ、各人民未タ知ラス、違犯スト雖モ、罪ヲ科ス可ラス、如此ハ其責地方官ニ在リ、御布告及ヒ諸規則等ハ、遺漏遲延ナク、公布ス可シ、且僻遠ノ小民、無知矇味誤解ノ者モ、之レ有ル可シ、右ノ輩ハ、懇ニ説諭ヲ加ヘ、了解遵守セシメ、犯者之レ無キ様ニ注意ス可シ、布達ヲ遺漏セシ官吏ハ、違令輕重ニ問ヒ贖ヲ聽ス、

○名東縣盗ニ逢フ者直ニ其由ヲ廳ニ告ケザル者伺、
七年十一月十日指令
盗難ヲ届出サル者ハ、呵責ニ處ス、

○司法省十等出仕河田景雄、皇女御逝去ノ節、拜禮ノ儀本省勅任官ヘ達落セシニ付、進退伺、

避スル所アル者ハ。重キニ從テ論ス。何ゾ蟠リタル心アリテ。其事ヲノザく致サネバ。重キ罪ニ付テ捌ク。若シ已ニ奏シ。已ニ申シテ。モハヤ申上ク伺立テ、アルナリ。回報下知ナリ。ヲ待タス。輙ク施行スル者ハ。並ニ不奏不申ノ罪ニ同伺ヲヘズ。専斷ノ罪ニナルユヘ。不奏不申ノ罪ニ同ジト云フ義ナリ。罪同ジト云フヿニテハナレ、

失誤朝賀 參朝ヲワスルヽナリ。

○京都裁判所伺

例第百二十條、官廳ニ陳告出セスシテ、私擅ニ他管ニ出テ五十日ヲ過ル者ハ、違令本條官吏云々擅ニ職役ヲ離レ、外ニ出ル者ハ、同管他管、并ニ數ノ多寡ヲ論セス、懲役三十日、若シ他管ニ出テ、五十日ヲ過レハ、伺ノ通、滋賀縣伺

當縣下區戸長ノ如キ、他行致度者ハ、公務上差支無之ヘスヘキ様、同僚申合セ置、他行致スヘキ差許置候所、若シ同僚ヘキ時ニ。拜ヤヌ類ヒ。擅離職役者ハ。笞一十。

七年三月十三日指令

擅ニ職役ヲ離レ可キ哉、

律云々擅ニ職役ヲ離レ、其儘他管ニ出ル者モ、重ニ問フトアルニ依リ、本條ニ勝手ニ役所ヲ。ハヅスヲ云フ。擅ハ。我儘ナリ。離ハ。席ヲ。ハヅスナリ。

凡官吏。疾病。公差等ノ故シサ。イ無クシテ。擅ニ職役ヲ離レ。外ニ出ル他行者ハ。笞三十。

若シ難ヲ避ケ。罪ヲ避ルトコロ者ハ。別ノ。難ハ。難儀ノコトナリ。年賦ニテ。難儀ノ取立テ。或ヒハ盗賊ノ追捕等ヲ類。因テ付テソレニ逃走ヘキ時ニ。拜ヤヌ類ヒ。擅離職役者ハ。笞一十。

例第百二十條、官廳ニ陳告出セスシテ、私擅ニ他管ニ出テ五十日ヲ過ル者ハ、違令本律云々擅ニ職役ヲ離レ、其儘他管ニ出ル者モ、重ニ問フトアルニ依リ、本條ニ勝手ニ役所ヲ。ハヅスヲ云フ。擅ハ。我儘ナリ。離ハ。席ヲ。ハヅスナリ。

凡官吏。疾病。公差等ノ故シサ。イ無クシテ。擅ニ職役ヲ離レ。外ニ出ル他行者ハ。笞三十。

若シ難ヲ避ケ。罪ヲ避ルトコロ者ハ。別ノ。難ハ。難儀ノコトナリ。年賦ニテ。難儀ノ取立テ。或ヒハ盗賊ノ追捕等ヲ類。因テ付テソレニ逃走ヘキ時ニ。拜ヤヌ類ヒ。擅離職役者ハ。笞一十。

七年一月廿四日指令

本律朝會慶賀ヲ所司告示セサルト云フヲ以テ論シ、懲役三十日、贖罪金三圓、

凡朝會慶賀祝拜賀ヲ。所司其掛リ役先キニ。前廣ニナリ。告示ヒセサル者ハ。笞三十。其已ニ告示ヲ承ケテ。失誤取ハヅシ。間違スル者モ。罪同。

失儀

此條ハ。無作法ノヲ云フ。

凡祭祀。神事及ヒ園陵ミサギナリ。ニ謁拜參詣禮拜スシ。若クハ朝會ニ。禮ヲ行ヒテ差錯間違ヘル及ヒ儀ヲ失スル拜スシ。

七正二人如フルス、

モ不申置商用等ニテ、擅ニ他管ニ出ルモ、其實際上、尋常官吏ト同ク本律ニハ照シ難キ場合有之、然ト雖モ又平民ト同ク論シ難シ、故ニ情ヲ量リ、違式輕重ニ擬レ五十日ヲ過ル者ハ、違令重ニ擬レ、復歸自首スレバ、首免ヲ與ヘ可然裁年十一月七日指令副區戸長ノ犯罪ハ、本年苐十八號御達ニ依リ、等内外ヲ以テ處斷ス、然シ本文ノキ事情輕キ者ハ、違式ニ問ト雖モ、重キ者ハ本律ニ依首免ヲ與フルノ限ニ在ラ

○島根縣伺
一ノ官吏アリ、疾病ト詐リ、不叅ヲ届ケ、其實ハ私事ニ奔走ス、之ヲ斷スルニ、上ニ

ロ。事重キ。タトヘバ。出納ノ役人。難儀ヲ避クル為メニ。公ケノ金穀出納ノ期限ヲハヅス類ハ。ソノ科重キ箇條ノ方ニツキテ。科ヲ申シ渡ス者ハ。各重キニ從テ論ス。若シ官吏。直宿(當番ト。泊リス)當番ナリ。可クシテ。直宿セサル者ハ。各笞一十。因テ事ヲ失フル者ハ。重キニ從テ論ス。(事務ヲ取リ付テ。公ケノ事務ヲ取リハヅス。)

無故不朝參公座

此條ハ。子細モナキニ。出仕等ヲセヌヿヲ云フ。

七本論

告ルニ詐テ實ヲ以テセザルノ輕キトナサハ、懲役八十日、茲ニ綱領詐稱病死傷條ニ凡官吏人等、疾病ト詐稱シ、事ニ臨テ難ヲ避クルモノハ、笞三十避クル所重キ者ハ杖七十トアリ、其難ヲ避ケン為メニスルキ、私事ニ奔走スルモ、疾病ト詐稱スルハ一ナリト雖モ、相伺候也、年十二月二十三日指令文ノ如キハ、本律ヲ照シテシ、贖ヲ聽ス、但シ例第二百四十七條對詔云々除ク外實ヲ以テセサルトハ、其本律ノ重事ヲ除キ、上告ノ輕事ヲ酌量スルフ例トナス、詐稱病死傷律ハ自己ノ擔當ノ職務等、辨シ難キヲ一時避ルカ如キモノヲ、責ルノ條ト心得

凡官員。故ナクシテ(病氣ヲ。申付ケラル、其外出役等ノ類。無クシテ。)朝參公座セス(コトヲサバクザニツカザル)。及ヒ給假ノ限滿テ。故無ク。職役ニ還ラサル(モトノ役場ヘ)者ハ。一日ニ笞一十。三日(日限ノタスミ)毎ニ一等ヲ加ヘ。罪杖八十ニ止ル(杖八十迄ニ申付ルナリ)。

無故不朝參公座條例

ベシ、

○九年二月十日東京府達

近來行幸之節御途中ニ於テ、突然儀仗内ヘ衝入シ、訴狀建言書之類差出候者往々有之、右ハ國律ニモ明載有之儀ニテ、甚以不相濟次第ニ候得共、小民共情切迫ノ餘リ心得違ニ依リ、終ニ罪科ニ觸レ候様ニテハ憫然之至ニ候條、向後右様心得違之者無之様可致旨正院ヨリ各府縣廳ヘ御達相成、右ハ全訴願建言等ハ規則ニ依リ其筋ヘ差出候得ハ、取上ケ可相成儀ヲモ不相辨處ヨリ心得違候事ニ可有之候條、區内無洩可及懇諭事

第百四條

衝突儀仗

此條ハ。行列ヲ切ルヿヲ云フ。

凡車駕。行幸ノ處至尊ノ行幸サキノ道スガラナリ。皇太后皇后ノ行啓モ。凡テ車駕ト稱スル類ハ。コモルヿナリ。ハ。近侍。御身近ノモノ。侍從ノ類。及ヒ護駕ノ官軍ケイゴノ役人。武官ナリ。ヲ除クノ外。其餘ノ軍民武官ヲ始メ諸民ナリ。ハ。並ニ廻避スヘシ。敢テ儀仗内ニ衝入ムザト。ワリコムナリ。スル者ハ。杖

○滋賀縣伺

區長戸長等、其區村内ノ諸勘定等、職務怠惰ヨリ精算セス、經ニ過不足ヲ生シ或ハ又私欲ノ為メニ非スト雖モ文案勘合ニ仍ラズ一

一百。

至下馬牌不下

此條ハ。下馬ヲ乗リ越スヿヲ云フ。

凡下馬牌下馬札ナリニ至リ。下ラスシテ過ル者ハ。笞四十。行宮定リタル皇居ニテハナク。ミユキ先ニテ臨時ニシツラヒシ。皇居ナリ。ハ。一等ヲ減ス。

出納有違

此條ハ。會計ノ役人。米金ノ受取渡シガ。法ニ違ヘルヲ云フ。

時操替等致ス者ハ一區一村ノ出納ナレハ仍ホ官物ト同ク、出納ノ違、那違出納等ノ條ニ仍リ、罪ヲ科シ可然哉、又ハ情ヲ量リ、違式輕重ニ問ヒ可然哉、

七年四月二十三日指令

本文ノ如キハ、出納有違、那移出納等ノ條ニ比又レテ罪ヲ科ス可シ、

○石川縣伺 六年八月三十日

指令擬律

該犯ノ官金ヲ操替ヘ其費用スルハ、官物私借ノ律ニ擬スベキ如シ、然ルニ當時驛遞事務ノ職ニアリ、深ク上司ノ意ヲ體認シ、民ノ為ニ便利ヲ覺ラシ、國益ヲ開カントノ意急ナルヲ以テ、專斷シテ罪此ニ至リ、其費用ノ金モ、亦完償シテ始メヨリ自己ノ利慾ニ渉ラザルヲ以テ、職制律那移出納條官吏文案勘合ニ依ラス、錢糧等ノ物ヲ那移出納スルト云ニ依リ坐贓ヲ以テ論シ、禁錮五十日〔贓金六十四圓餘〕

黒川雅之

○滋賀縣伺

貢納ス可キ金穀未タ官納ノ期ニ至ラサル前、各民ノ便宜ニ依リ、戸長ヨリシテ取立、手許ニ預リ置候ヲ、自己ノ融通ノ為メ、一時私借シ、追テ納期ニ至リ、辨償セントスル等ノ者、往々有之、右ハ未タ官ニ納メサル内ナレバ、各民ノ私有物ナリ、

凡官物ヲ出納〔公ケノ品受取渡シ。取扱フナリ。〕シテ。給收違フ有ル者ハ。虧餘スル所ノ物ヲ計ヘ。坐贓〔七贓ノ圖ニ出デタル坐贓ヲ云フ。〕ヲ以テ論ス。

那移出納

此條ハ。會計役。米金ヲノリカヘ。渡シヲスルヿヲ云フ。

凡官吏。錢糧〔金穀ナリ〕等ノ物ヲ出納スルニ。文案勘合〔割符押切ナリ〕アリテ。那移〔甲ノ入用金ヲ乙ノ入費ニクリ易ル類。〕ス可カラス。若シ文案勘合ニ依ラス。那移出納シ。還テ官用ニ充ル〔私ノ都合ニ操リ替ルヿデハナク。出シ入レ其儘公用ノ為メニ。員數ヲクリカヘタル罪坐贓ニ當ル科ナリ。〕者ハ。贓ニ計ヘ。坐贓ヲ以テ論ス。

私借官物

此條ハ。公ケノ品ヲ。私ニ借用スルヿヲ云フ。

凡監臨。主守。私ニ監守スル所ノ官物ヲ借用シ。若クハ

本律ニ依リ罪ヲ科シ、贓已ニ費用スレバ、資力限リ追徴ス可シ。法、民法ト盗贓追徴ノ法、刑法ト異ナレバ、揭示ノ法ヲ用ユルニ及ハス、身代限ノ法ヲ用ユルニ在ス、分配等ノ方法ヲ以テ論ス可シ。然レハ官物ヲ私借スルヲ以テ論シ難シ、故ニ費用受ケ難ク、因テ監守自盗ニ準シテ論ス可シ。然ラハ寄財産條ニ照シ、處斷ニ費用ヲ寄ケ置キ、可然ラハ存候得共、元來戸長ノ職掌上ニテ取集メ預リ居ル者ナレハ、只管大切ニ護監スヘキ筈ニテ、利欲ニ迷ヒ、私ニ借スル其情狀、客舍倉庫等ニ他人ノ寄託故物ヲ私借スルト相同シ。然ラハ監守自盗ニ準シテ論ス。罪。流三等（死罪ニハ。セヌナリ。）ニ止ル。證書アルハ。二等ヲ減ス。其監守人ニ非スシテ借ル者ハ。常人盜ニ。二等ヲ減シ。罪。徒三年ニ止ル。若シ自己ノ物ヲ以テ。官物ニ抵換ヘスル者。罪。亦同（持チ出シ科ニ已レノ物ヲ公ケノ品ト取換タル科ニ。又貸借用。及ヒ又貸モ。マタ同ジ。）

改正私借官物律

第百五條　凡監臨。主守。監守スル所ノ。官ノ財物ヲ。私ニ借用シ。若クハ人ニ轉借シ。及ヒ自己ノ物ヲ以テ。官物ニ抵換スル者。監守自盜ト罪同。其監守人ニ非スシテ借用シ。情ヲ知ル者ハ。罪同。知ラサル者ハ。坐セス。

監守自盜ハ。公ケノ品ヲ改メ預ル身分ニテ。

七貢納用途及ヒ利金取立指令ノ違ヘハ、追徴ニ及ハス、贓金ハ追徴ニ於テ、地方官ニ開拓使ヨリ、官財ヲ私借シ、年月ヲ違ヘテ返納セサル者ハ。其ノ官ノ長官ヲ。杖一百。貳年ヲ過ル毎ニ。一等ヲ加ヘ。罪。流三等ニ止ル。

七御借ノ○　官ニ交付シ、可然官財ヲ私借シ、年月ヲ違ヘテ返納セサル者ハ。其ノ官ノ長官ヲ。杖一百。貳年ヲ過ル毎ニ。一等ヲ加ヘ。罪。流三等ニ止ル。

七貢納用途及ヒ利金取立指令ノ違ヘハ、追徴ニ及ハス、贓金ハ追徴ニ於テ、地方官ニ開拓使ヨリ、官財ヲ私借シ、年月ヲ違ヘテ返納セサル者ハ。其ノ官ノ長官ヲ。杖一百。貳年ヲ過ル毎ニ。一等ヲ加ヘ。罪。流三等ニ止ル。

七御借ノ○　官ニ交付シ、可然官財ヲ私借シ、年月ヲ違ヘテ返納セサル者ハ。其ノ官ノ長官ヲ。杖一百。貳年ヲ過ル毎ニ。一等ヲ加ヘ。罪。流三等ニ止ル。

ヲ命スルニ、數度ニ及ヘトモ、遷延シテ、必ス引立ス、私借之ヲ審究スルヲ察シ、百圓ハ、本律ヲ以テ論シ、例ニ依テ、百六條共被ル、存候得ハ、例ニ未發ニ完ル、錢糧ヲ私借レハ、不應為ニ問ヒ、輕重ヲ分ツ。

第百六條　凡監臨。主守。監守スル所ノ錢糧ヲ。私ニ借用シ。若クハ人ニ轉借シ。及ヒ之ヲ借ル者。事未タ發覺セスシテ。完備スル者ハ。止タ犯情ヲ量リテ。不應為ニ問ヒ。輕重ヲ

自身ニ其品ヲ盜ムナリ。情ヲ知ルハ。其子細ヲ承知スルナリ。知ラサルトハ。子、細ヲ知ラサルナリ。

私ニ借官物ノ條例

七年十二月十七日指令

一、數度ニ及ヘトモ、遷延十月ニ至ルヲ察シ、引立ス、私借之ヲ審究スルヲ察シ、百圓ハ、本律ヲ以テ論シ、例ニ依テ、百六條共被ル、存候得ハ、例ニ未發ニ完ル、錢糧ヲ私借レハ、不應為ニ問ヒ、輕重ヲ分ツ。

錢糧ハ。金穀ナリ。之ヲ借ル者トハ。借リ主ナリ。完備スルハ。露顯ノ前ニ。元通リニ返シ。犯情始末ヲ量ルヲ云フ。

不覺被盜

此條ハ。預リ品ヲ油斷シテ。盜マレシヲ云。

凡倉〔米倉庫〕〔金錢道〕庫〔其庫〕內ノ物ヲ盜マレテ。主守。〔預リ後〕覺察ニ〔油斷ノ。見出〕者ハ。咎

八月ヲ過キ完納セサルニ百圓ハ、本律ヲ以テ論シ、例ニ依テ、百六條共被ル、存候得ハ、例ニ未發ニ完ル、錢糧ヲ私借レハ、不應為ニ問ヒ、輕重ヲ分ツ。

○違令輕ニ問ヒ、贖ヲ聽ス、

七年十二月十七日指令

例無之候、決而候、

○愛媛縣區長管守ヲ置カス、稅金ヲ盜マレシ同

七年四月七日指令

○事務所ニ主守者ナケレハ、本律ニ依テ、管守ノ責、區長ニアリ、其盜賊ノ得サルヲ問ハサルハ、則チ主守者ナリ、

○滋賀縣倉庫看守ノ委任ナキヲ宿直者覺察ニ失スル同

七年九月十九日指令

本條ノ主守トハ、倉庫ヲ看守

スル者ヲ云フ、尋常宿直ノ者ヲ云ハザルモ、宿直ニテ其看守スル所ノ物ヲ盜マレ、覺察ニ失スル時ハ、乃チ主守ト罪同シ、本文ノ如キ各所ニ宿直スルモ、倉庫ヲ看守スル委任ナキ者ハ、罪ノ問フ可キナシ、官物ヲ盜マルヽモ、亦同ジ、然レ財物ヲ貯積スル倉庫ニ、看守者無カル可カラズ、

○廣島縣伺 戸長ノ職ニアリ、村里ヨリ取立ル區長戸長等ノ月給金、並村入用金ニシテ、所謂民費ナル物ヲ預リ中、盜マルヽ戸長アリ、右ハ官金ヲ以テ論スルキハ、本條ニ依リ、又私金ヲ以テ論ズレバ、雜犯律費用受寄財產條、公私ノ間、何レニ照準可然哉

八年三月二十八日指令 本條ニ依、酌減シテ罪ヲ科ス、

○山口縣伺 本條、主守ト稱スル者ハ、官物主守ノミニ限ルヤ、或ハ官私一般、主守ノ任ヲ受タル者ニ係ル哉、官廳及ヒ會社等ノ當直、或ハ一時依托ヲ受ケ、民家ニ留守シテ不覺、被盜者モ、上條ニ准スル哉、

八年十月九日指令 第一二條 官物ノ主守ヲ云、私物ヲ主守スル者ニ及ハス、

○山口縣伺 前條ノ場合ニ於テ、區戸長郷宿等、管守ニ失スルノ責、第一條両般ノ一、何レニ據ルヘキ哉、

八年十月九日指令 區戸長郷宿ト雖モ、主守ノ責アル時ハ、不覺被盜ノ罪ニ坐ス、

四十。其強盜ニ遇ヒ。〔出遇フ〕防禦〔取戾サント、折ルナリ〕スト雖モ。力敵スルヿ能ハサル〔賊ガ強クメ、強手〕者ハ。論スルヿ勿レ。〔咎ニハアヌ。沙汰ノナㇾ。〕

第百七條 不覺被盜條例

凡垣牆〔圍ヒ〕内ニ在ル。木石等ヲ盜ミ。主守。覺察ニ失スル者〔油斷見出サズ。〕ハ。懲役二十日。

○埼玉裁判所伺 本條別ニ減半ノ法不相見候ヘ共、是亦捕亡律、主守不覺失囚者ノ權衡ニ照準シ三十日間捜索期限ヲ給シ其限内及ヒ限ヲ過ルモ、未滿決ノ時ニ在テ、其物ヲ還取スルカ、或ハ盜犯就縛及ヒ出首、及ヒ竊ニ投還スル等ニ因テ、能ク完足スルヲ得レハ、主守ノ罪二等ヲ減シ、科斷シテ如何可有之哉、

七年九月二十三日指令 盜犯出首投還等ニテ、其物偶完全スルヿヲ得ルモ、主守不覺ノ罪ハ、律例ノ通減等トク、斷ス可シ、

○京都裁判所伺 官林ヲ盜ム云々、其官林管主者アラハ、覺察ニ失スル罪例如何、

七年十月三日指令 例第百七條ニ一等ヲ減シ、懲役一十日、

○滋賀縣伺

本條ニ、凡稅糧ヲ納ムルニ、限ニ違ヲテ完セサル者ハ、明治五年第二百八十五號布令ニ依テ處分スト雖モ、既ニ律例ニ揭ケアル上ハ、限ニ違ヲテ完セサル者ヘ、律ノ法アリ。然ルニ其鄰保平均ナラサル者ハ。笞五十。財ヲ受ル者ハ。官ノ賄賂ヲ受ケ。夫役ノ割付方法ニ違ヒタル者ヲ謂フ。割付方法ニ違ヒタル者ハ。笞五十。財ヲ受ル者ハ。官ノ賄賂ヲ受ケ。夫役ノ割付方ニ。操縱スル為ノ。不平均ノ割付ヲ為スモノヲ謂フ。其罪ハ。贓ヲ計ヘ。杖一百。徒三年。重キ法ニ從テ論ス。

凡田糧ヲ欺隱シテ。版籍ニ

欺隱田糧　此條ハ。年貢物成等ヲ。詐リテ不足ニ納ルヲ言フナリ。

凡官吏里長等。官ノ重キ役ヲ下役ノ多キ者ニ。法ニ至リ。村長等。差役ヲ抑スルニ。貧富ヲ論セス。田地ノ多キ者ヲ。貧ニ違ヒ。人家ノ冨ニ。田地ノ少キ者ヲ。冨ニ依テ。各夫役ニ。

差役不均　差役トハ。官ヨリ申付ケ夫役ニ遣フヲ云フ。其夫役ノ割付方。平均ナラス不事ヲ言フナリ。

戸婚律　此律ハ。年貢夫役。及ヒ婚姻等ノ事ヲ言フナリ。

七年三月廿四日第廿九号御布告ヲ以テ第百八條廃止

第百七條

一年四月二十日指令

一條　偽テ田畑ノ荒蕪ヲ開キ、其本律ニ依テ免税ニ入ル者ハ、納ムヘキ税糧ノ限ニ在ラズ、田ニ依テ処断シ、其納ムヘキ税ヲ破壊流亡ニ至ル者ハ、其破壊流亡ノ田畑ト詐リ可然仕候田畑ト如何ヶ処分仕候哉ト問ニ対シ、如此ク定メ置候ヘハ、其後ノ年ニ至テ、罪ヲ犯ス人ト同罪ニ処ス。

一年四月二十日指令

一條　偽テ田畑ノ荒蕪ヲ開キ、其本律ニ依テ免税ニ入ル者ハ、納ムヘキ税糧ノ限ニ在ラズ、田ニ依テ処断シ、其納ムヘキ税ヲ破壊流亡ニ至ル者ハ、其破壊流亡ノ田畑ト詐リ可然仕候田畑ト如何ヶ処分仕候哉ト問ニ対シ、如此ク定メ置候ヘハ、其後ノ年ニ至テ、罪ヲ犯ス人ト同罪ニ処ス。

第百八條　凡税糧ヲ納ムル者ハ。明治五年第二百八十五號布令ニ依テ処分ス。

欺隠田糧條例

凡税糧ヲ納ムル者ハ。明治五年第二百八十五號布令ニ依テ処分ス。

○司法省伺書改定律例第百八條、凡税糧ヲ納ムル者ハ、明治五年第二百八十五號布令ニ依テ処分ス。

七年一月七日指令

○伺濱田縣伺

震災又ハ水災ノ変ニ乗シ、其里長利ヲ図シ欲シ、其災害ニ罹ラザル田畑ヲモ偽リ、破壊或ハ流亡セシト偽リ、免税ヲ乞フニ当リ、官之ヲ信シ、起返シ五年或ハ七年間免税ト究メ、後其詐欺露ルヽニ及ヒ、税糧ヲ以テ可論年限中、假令ハ二箇年ノ発覚ハ未タ手ニ残ルヲ、其ノ年ニ至ル。笞三十。五畝ニ至ル。笞三十。一等ヲ加ヘ。罪。杖一百ニ止ル。其田ハ官ニ入レ。毎ト畝ニ。一等ヲ加ヘ。罪。杖一百ニ止ル。其税糧ハ。数ニ依テ徴納ス。

脱漏スル者ハ。年貢物成ノ上ヘ高ニ対シ。水旱ニ付テ。ワザト落シ。又ハ隠シ置ク箇條ノ引捌ヲ。一畝ヨリ。又ハ一畝ニ付。七箇年ノ発覚ハ未タ手ニ残ルヲ、其ノ年ニ至ル。笞三十。五畝ニ至ル。笞三十。一等ヲ加ヘ。罪。杖一百ニ止ル。其税糧ハ。数ニ依テ徴納ス。

隠ス所ノ税糧ハ。数ニ依テ徴納ス。

貢事露顕セシ年ヨリ。歩ニ。テ。

其事露顕セシ年ヨリ。歩ニ。テ。

隠田ヲ検査シ。其上至当ノ年間ヲ以テ。其免税ヲ取上ケ。里長。知テ挙ケ。申立ルサルハ。犯人ト同罪。

里長。知テ挙ケ。申立ルサルハ。犯人ト同罪。

與フ可シ、其破亡前ノ詐偽ニ係ル者ハ、前條ニ同シ、

○熊谷裁判所伺七年七月十日指令

曾テ私有セシ無税地ヲ、他ヘ賣換ヘ、尚ホ無税地ヲ以テ、賣換ヘシニ照シ、謀ル五ヶ條ヲ以テ、欺隠田糧ヲ加フル一等ヲ懲役六十日、副戸長タル者ハ、私罪金九圓ヲ以テ贖ヒ隠田及ヒ不正ノ田畝ヲ没官セシメ、係レル田地ハ、元ト之ヲ賭博ニ徴糧ハ、人ノ減首ヲ告ルノ例ニ照シ、副戸長タル者ハ、其罪擬シ従ヲ論シ、一等ヲ減シ、懲役五十日ニ准シ、其罪等シキ一ニ科ス、証書ハ還却スヘシ、

○滋賀縣伺

數箇所ノ田地毎ニ、一畝内外ノ地ヲ欺隠スル如キ、其罪ヲ欺隠スル地ヲ通算シテ科シ候哉、又ハ數箇所ニ隠スル内ノ、一ノ重キニ従テ科シ候哉、

八年三月十四日指令

通算シテ罪ヲ科ス、

無税買フノ等シキ畑地ヲ、賣換ヘ候者、

第百九條 凡田宅版籍ノ文字ヲ變易スル者ハ。懲役一年半。財ヲ得ル者ハ。贓ニ計ヘ。竊盜ニ準シ。重キニ従テ論ス。

田地家屋敷。水帳ノ認。直。懲。正道。役一年。半ノ方ヲ。色々セサル者ハ。徒一年半。官ノ。物ヲ。分ノ内ノ右ノ功ヲ。我ガ為ニ。中ヲ。付ケ。利ヲ。竊ム者ハ。竊盜一等ヲ減ス。本罪ニ準ジタル懲役ニ。何レカ重キ方ヲ。引合セテ。罪ヲ定ムルナリ。

盜賣田宅

此條ハ。人ノ田地家屋敷ヲ。盜ミ賣スルヲ云フナリ。

凡他人ノ田宅ヲ。盜賣換易。

己レノモノト。人ノ物ト。スリ駁ルナリ。己レノ下田ヲ人ノ上田トスリ易レ等。冒認。持主ノ留守ヲ。目掛ケ。己レノ所持地トスル類。典賣。質ニ置クスル者ハ。並ニ竊盜ニ準シテ論シ。罪流三等ニ止ル。官ニ係ル者ノ御上ノ公ナリ。田地ハ。各二等ヲ加フ。此ハ盜賣ヨリ典賣マテノ科ナリ。二等ハ。罪二等ヲ增加スルナリ。田產物成ナリ。及ヒ典賣スル田價。盜ミ質盜ミ賣リセシ田地ノ代價。並ニ遞年得ル所ノ花利ハ。各上ノ各ト同シ字ナリ。皆取リ

○高知縣伺

然處、若シ追徵スベキ、價錢無之時ハ、主タル者ノ、全ク損失ト為スベキ乎、又牙保情ヲ知ラズト雖モ、右價錢ヲ追シ、主ニ附スベキ乎、本犯財產ナシト雖モ、獨リ主ノミ損失ニ止ムモ、穩當ナラザラン乎ト疑惑ヲ生ズ、此處置如何、

八年四月九日指令

諭犯身代限リヲ以テ、賠償セシメ、牙保情ヲ知ラザレバ、賠償セシムルコト勿レ

○山口縣伺

甲所有ノ田宅ヲ、乙ニ典賣、

立テ。官ノ分ハ。官ニ返ヘシ。百姓持地ノ分ハ。其盜マレ主ヘ渡スナリ。此ハ罪ヲ申付タル上ニテ。此ノ如ク取立ルナリ。官ニ還シ。主ニ給ス。

重典賣田宅 人ノ田宅ヲ。二重質ニ。書入ル事ナリ。

凡已ニ典賣シテ人ニ與ル田宅ヲ將テ。重子テ典賣スル者ハ。得ル所ノ價錢ヲ贓ニ計ヘ。竊盜ニ準シテ論 先キニ質入シテ。人ニ渡シタル田宅ヲ以テ。又二重ニ他ノ人ニ質入スレバ。其代金ハ盜ミ物ト見做シテ計ヘ。竊

或ハ書入ニテ、金百圓ヲ借ルノ後、其田宅ヲ将テ、重子テ丙ニ書入或ハ典賣シテ、金百二十圓ヲ借リ、乙丙ノ債主ニ於テハ、重子ノ實ヲ知ラザル者、負債主ハ既ニ費用シ、兩係ドモ期限未ダ満ズシテ發露ス依テ戸婚律重典賣田宅ノ係ニ照シ、田宅ハ乙ニ附シ、價ヲ追徴シテ、丙ニ還サントスルニ、甲已ニ費用シテ他ノ資カ八十圓ノ外追ス可キ無クシテ四十圓ノ不足ヲ生ズ然ルニ前件ノ田宅ヲ糶賣スルキハ百六十七圓ノ代價ヲ得ベキ見込アリ就テハ之ヲ糶賣シ乙ニ借ル百圓ノ元利ヲ引去リ、餘金アルキハ甲ノ資カト做シ丙ヘ償還スルノ金員ニ差加ヘ可レ然ヤ又ハ糶賣スレハ餘

盗ノ罪ニ。引付シ。價ヲ追徴
申付クルナリ。
シテ主ニ還サテ。竊盗ノ罪
ニ。引付申付ケ
タル上ニテ。其代金ヲ取上
ゲ。令度質入シタル質取主
ニ。其代金シ。田宅ハ。原ノ典
ヲ戻ナリ。
買主ニ附
田地屋敷地ハ。最
初質入シタル時
ノ取手ニ引渡ス。若シ重子
シ遣ハスナリ。
テ典買スルノ人及ヒ牙保
情ヲ知ル者ハ。犯人ト同罪
價ヲ追シ。官ニ入二重質ナ
細ヲ承知シナガラ口入レ
質取セシ者ハ。本人ト同罪
ニラ其代價ハ。御ル。知ラサ
上ヘ取上クル。

金ヲ生スベキ見込アルモ、田宅ハ乙ニ附シ、不足スル四十圓ハ、丙ノ損失ニ歸ス可キヤ、但質地ノ儀民法裁判上ニテハ、明治六年第五十一號公布壬申二月十五日前後ニ依リ、流地糶賣ノ區別之レアル所刑法裁判上ニ於テハ、右等ノ境界ハ無レ之裁相伺候也
八年四月二十九日指令
不應為軽重ニ問ヒ、代價還償ハ、民事償却法ニ依ル、但重典賣スル者ハ、本律ニ科ス、

ル者ハ。坐セス。其典（質入）ス
ル所ノ田宅園林等。年限已
ニ満チ。質入ン年本主。價ナ
限ノハテシ
備ヘテ。取贖（質入）ヘ主。元利
ヲ揃ヘテ受出
ス。スルニ。若シ典買主事故
ニ託シテ。肯セサル者ハ。笞
三十。若（質事取リタル者）
出シ入レヲヌ
者。聞限外ニ於テ。遞年
得ル所ノ花利ハ。追徴シテ。
本主ニ給シ。原價ニ依テ取
贖セシム。（質取主）ハ質受ケ
ヲ聞入レストモ。

○京都裁判所伺 木條故ナク河防ヲ決潰スルニハ、其文不相見候ニ付、賠償ニハ不及儀ニ候哉、伺 六年八月二十五日指令 貼償ニハ不及

○伺 白川縣伺 七年二月十九日指令 通、

神官僧侶、擅ニ社寺境内ノ樹木ヲ伐リ、社寺營繕ノ用ニ充ル、違令重ニ問フ、自己ノ費ヲ以テ充ル者ハ、賍ニ斂ヘ、竊盜ヲ論ズ、寄附什物ヲ擅ニ費用スルハ、費用受寄財物ヲ擅ニ費用スル準レテ、處分スル可シ、違律ニ依テ、處分ス可シ、

○山梨裁判所伺 社寺境内無願伐木ノ伺 七年三月三日指令 無願伐採スル者ハ、贓ニ計ヘ竊盜ニ準レ論ス。官物ハ一等ヲ加フ。若シ官物ヲ遺失〔取忘レ。取ルトスナリ。〕及ヒ誤毀〔手誤チ。毀ナリ。〕スル者ハ。各三等ヲ減シ。並ニ數人ノ器物ヲ棄毀〔此條ハ。人ノ所持ノ事物ヲ毀セシ等ノ事ヲ言フナリ。〕スル者ハ。贓ニ計ヘ竊盜ニ準レ論ス。官物ヲ遺失〔取忘レ。取ルトスナリ。〕及ヒ誤毀〔手誤チ。毀ナリ。〕スル者ハ。各三等ヲ減シ。並ニ數人ノ器物ヲ棄毀〔此條ハ。人ノ所持ノ事物ヲ毀セシ等ノ事ヲ言フナリ。〕スル者ハ。但タ償テ。罪ニ坐セス。又破用シ。及立木ヲ伐リ、社寺營繕ノ用ニ充ル、違令重ニ問フ、自己ノ費ヲ以テ充ル者ハ、賍ニ斂ヘ、竊盜ヲ論ズ、寄附什物ヲ擅ニ費用スルハ、費用受寄財物ヲ擅ニ費用スル準レテ、處分スル可シ、違律ニ依テ、處分ス可シ、

○滋賀縣伺 故サラニ、人ノ器物ヲ棄毀スルノ意ナシト雖モ、因テ、圖ラズ衣類器具ニ至ル、損毀スルハ、誤テ論シ、鬪毆スルノ際、人ノ器物ヲ以テ抛チ、或ハ、誤テ、斜斷スル、故意ニ出テ、損スル者ハ、但タ償ハス。私物ヲ遺失誤毀スル者ハ。各三等ヲ減シ。並ニ數人ノ器物ヲ棄毀スルノ意ナシト雖モ、因テ、圖ラズ衣類器具ニ至ル、損毀スルハ、誤テ論シ、鬪毆スルノ際、人ノ器物ヲ以テ抛チ、或ハ、誤テ、斜斷スル、故意ニ出テ、損スル者ハ、但タ償テ。罪ニ坐セス。又破用シ。及立木ヲ伐リ、社寺營繕ノ用ニ充ル、違令重ニ問フ、自己ノ費ヲ以テ充ル者ハ、賍ニ斂ヘ、竊盜ヲ論ズ、寄附什物ヲ擅ニ費用スルハ、費用受寄財物ヲ擅ニ費用スル準レテ、處分スル可シ、違律ニ依テ、處分ス可シ、

○伺 白川縣伺 七年二月十九日指令 通、

○京都裁判所伺 木條故ナク河防ヲ決潰スルニハ、其文不相見候ニ付、賠償ニハ不及儀ニ候哉、伺 六年八月二十五日指令 貼償ニハ不及

凡人ノ器物ヲ棄毀〔擯テ。所ト律ニ拘ハラス。〕主。取贖スル力ナキ者ハ。此其年限滿ルト雖モ。本主上ニ於テ。質入レ。既ニ受出レタルニハ。質取主ハ。聞入レ。質入レ。元利ヲ揃ヘタル上ニ。限外ノ利分ハ。皆濟サストス。

凡人ノ器物ヲ棄毀〔擯テ。所ト律ニ拘ハラス。〕主。取贖スル力ナキ者ハ。此其年限滿ルト雖モ。本主上ニ於テ。質入レ。既ニ受出レタルニハ。質取主ハ。聞入レ。質入レ。元利ヲ揃ヘタル上ニ。限外ノ利分ハ。皆濟サストス。

棄毀ヲ以テ論シ、可然裁

七年三月九日指令

伺ノ通　但器物ヲ抛チ毀損スルモ、故意ニ出テ、毀損ヲ圖ルノ状情ナキハ、誤毀ヲ以テ論ス可シ、

○静岡縣伺

例第百十條云々然ルニ即令譬バ、畑一反ニ麥ヲ培養スル、未ダ登熟セサルニ失防シテ一反ヲ毀損セバ、其登熟セザルヲ以テ沽計スベキ乎、是レヲ以テ沽計スルトキハ、則凡草ニ異ナラズシテ評價スルヲ得ズ、依テ登熟ヲ以テ評價イタスベキ乎、

七年四月十四日指令

播種シタル麥種、何斗何升、時付ノ節及ヒ培養ノ度數等人力食料ノ費用ヲ以テ評價ス可シ、其登熟ニ及フ者ハ、作並

セス。

第百十條　棄毀器物稼穡條例

凡牛馬ヲ失防シテ。田野ノ穀麥ヲ毀損スル者ハ。違式輕ニ依リ。若シ毀損スル所。贓ニ計ヘテ重キ者ハ。坐贓ニ依リ。二等ヲ減シ。仍ホ毀損スル所ノ物ヲ。賠償セシム。

牛馬ノ羈。羈繋ヲ。忽セニシテ。取逃シ。田畑

ノ高下ヲ辨シ、評價ス可シ、

○埼玉裁判所社寺境内除地ノ樹木擅伐ノ伺

七年四月二十日指令

擅伐スルモ、未ダ費用セスシテ、自首スレバ、首免ヲ與ヘ、木材處分ノ儀ハ、管廳ノ指揮ヲ受ケス、其已ニ費用スルモ、社寺修覆等ニ用ヒテ、已ニ入レザル者、官林社寺境内、其宅除地ニ論ナク、并ニ價ヲ追徴セズ、○郷村社、道路修繕其他村用等ノ為メニレテ、無願ニテ、官林ヲ伐木スト雖モ、已ニ入レザル者ハ、違令重ニ問ヒ、贖ヲ聽ス、費用スルモ、價ヲ追徴スル限ニアラズ○毀伐盗伐シテ、已ニ入ルヽ者、賍ヲ括計スルハ、其斫伐スル物ニ付テ定ム可シ、

○滋賀縣同

自己山林ノ竹木ヲ伐採ス

ノ植物ヲ。踏荒セシ若ハ。違式ノ律ノ。輕キ方ニ依テ。咎メ申付ケ。若シ其踏荒シタル植物ノ代價ヲ。贓罪ニ見積リテ。聊カナラス大ヒナル損毛ヲ掛ケタル時ハ。坐贓ノ律ニ依テ。罪ヲ定メ。其罪ノ二等ヲ減シ。其上ニ損毛サセタル丈ノ代物ヲ。全額テ其植物主ヘ。償ハシム。

第百十一條　凡故ナク。河防ヲ決潰シ。水柵石籠ヲ毀損スル者ハ。情ヲ量リテ。不應為ニ問ヒ。輕重ヲ

ルニ、經界ヲ誤テ、官山ノ竹
木ヲ侵伐スル者云々、但
本文之ヲ償ハシムルニ、他
ノ器物ヲ毀損スル者トハ
違ヒ、伐採ルニ依テ、原價ノ
減スル者ニアラズ、因テ伐
採ル所ノ竹木現在スレバ、
其儘官ニ還シ、別段償金ヲ
出サシムルニ及バズ候哉
七年六月十五日指令
呵責ニ處シ、但書ノ通、處分ス
可シ、

○京都裁判所伺
滋賀縣伺誤テ官ノ竹木ヲ
伐採スル云々ハ、聊故意ニ
出テ、其器物等、誤毀遺失
スル無心ノ過ニ比スレバ、
稍情ノ重キヲ覺ユ、而シテ
其樹木ヲ毀伐スルハ、其罪
呵責ニ處シ、其器物等誤毀
スル等ハ、仍ホ本律ニ依リ、
罪ヲ論スルハ、權衡不妥ア

分ツ。
何ノ意味モナキニ。徒
ラニ堤ヲ切ラ。水ヲモ
ラミ柵ミ蛇篭ヲミハ
ス者ハ、其仕方ヲ見分
ケ。不應為律ニ引合セ。
輕重ノ一方ニ付テ罪
科ヲ申付
ルナリ。

○濱田縣伺
人ノ金穀ノ證據ニ係ル文
書預リ置、遺失スル者ハ何
ノ刑ニ處シ可申哉、
六年九月五日指令
本條私物ヲ遺失誤毀スル者
ハ但タ償テ罪ニ坐セスト云
ニ依テ處置スヘシ、

○杤木裁判所伺
縣廳ヨリ往來道橋修繕ス
ヘキノ布令アルニ、村用掛
ノ所存ヲ以テ、伍長其他ヘ

ルニ似タリ、
七年十月十三日指令
山林ノ樹木、官私ノ疆界ハ、了
知ス可キ筈ナリト雖ヒ、誤伐
ノ事無レト謂フ可ラス、滋賀
縣伺ハ、故意毀伐スル者ニ非
ズ、木律樹木誤伐ノ明文無シ、
且樹木ノ如キハ、他ノ官物ノ
比ニ非ズ、故ニ只呵責ニ處ス、

○千葉栽判所伺
神社或ハ佛堂破損修覆ノ
為ノ祠官寺職ノ者等其社
寺境内ノ樹木ヲ私擅ニ伐
採賣拂云々、祠官寺職ノ者
私擅ニ伐採ル罪ハ、違令ニ
問ヒ、處置致シ、樹木ハ固ト
社寺附屬ノ物ニ付、追徵ス
ル金圓ハ、更ニ其社寺ニ還
付スル筋ニハ無之哉、
七年十月二十五日指令
社寺附屬ノ樹木ニ係レバ追
徵ノ金圓ハ、伺ノ通處分ス可

差圖致シ、官林ヲ無額ニテ
伐木シ、修繕ノ用ニ給スル
ノ後、仍ホ餘ス處ノ木村ヲ、
宰領伍長ノ所存ニテ、隣村
其他ノ者ヘ賣却シ、代金ハ
修繕中、食料諸雜費ニ遣ヒ
拂ヲ者、
七年一月十九日指令
違令重ニ問ヒ、贖ヲ聽ス、

○杤木裁判所伺
行兇人アリ、暴ニ電信線ヲ
斷切シ、或ハ抗柱ヲ毀損ス
ル者情ヲ量リ、不應為輕重ニ
問ヒ可然哉、其器物ニ係ル
ヲ以テ、本條ニ依リ可然哉
過誤ニ出ルハ元ヨリ贖ヲ
聽シ可申哉、
但開業既ニナルト、未タ
ナラサルトニヨリ、區別
有之候哉、
七年四月二十三日指令
故サラニ棄毀スル者ハ、不應

○筑摩縣伺

凡官私ノ牛馬ヲ誤殺傷スル者ハ、如何、逐テ鷄豚鵝鴨ヲ盜ム者ハ、盜官私牛馬ト同シク、別律例ニ依リ、牛馬ニ係ルモ、別ニ罪ノ科シ、殺スニ及バズト、指令有之候ヘバ、其誤殺傷スル度候、

八年一月九日指令

本文ノ通リ、但シ盜テ殺スル者ハ、坐ヲ償スル者ハ、追テ罪ニ坐シ、逐書、誤殺傷スル者ハ、坐ヲ償フ事ニ照シ、止タ償テ罪ニ坐セズ、亦同律ニ依ル

○盜新治縣伺

官林及社寺境内竹木ヲ、毀伐盜伐スル所伺

官林及裁判所社寺境内ノ樹木ヲ毀伐スル者ハ、竹木ヲ賠償ニ計ヘ、竊盜ニ論ジ、一等ヲ加フ、社寺ハ、境内竹木ノ官有ニ係ル者ヲ、亦同シク、其盜ム者ハ、常人盜ニ準ジテ論ズ、毀伐シテ已ニ入ル者モ、亦同シク、但シ擅ニ伐採スル者モ、道路橋梁等ノ營繕ニ充ツル如キハ、明治七年本省第三十號布達ノ通處分スル可キ、

○水澤縣伺

七年三月十日指令

皇朝律例彙纂 巻三 戸婚律

立嫡違法（タテカタノヒガコト）

八年四月二十八日指令

前段ハ清律ノ通リ、官私山林竹木ヲ盜マント欲シ、砍伐セサルニ、盜ム者ハ、未タ駄載セサルニ、棄毀器物ヲ以テ論スト、

為重ニ問ヒ、實決シ、誤テスル者ハ、同シク輕ニ問ヒ、贖ヲ聽ス、但開業式ノ成否ニ付區別ナシ、

○筑摩縣寺附寺職ノ者、舊習ニ泥ミ、元寺附ノ當時上地ノ林木ヲ擅伐シ、該寺修繕用ニ入レサル者ノ處分

七年十月三日指令

伺、情ヲ量リ、違令輕重ニ問ヒ、贖ヲ聽ス、已ニ費用スル者ハ、追テ既ニ本處ヲ移スモ、未タ駄載セサル間ハ、仍ホ未得財ヲ以テ論シ候儀ニテ、是亦右ニ準シテ論ズ、毀伐已ニ入ル者モ、亦同シク、但シ擅ニ伐採スル者モ、道路橋梁等ノ營繕ニ充ツル如キハ、明治七年本省第三十號布達ノ通處分スル可キ、

○白川縣伺

清律賊盜律、公取竊取、皆為盜條ニ曰、其木石重器、非人力所勝ニ移、未成盜ト有之、石ヲ用ヒ、砍伐シ、他人ノ置キ已ニ材木、其他石及ヒ、重器等ニ工力ヲ費ス者ハ、人力ノ輸ヒ難キモノヲ云ヒ、重大ノ擧動ノ物ニ非ス人ノ通リ區別有之候ハヽ、清律ノ通リ犯者ニ坐シ、可然哉、果シテ然ラハ、官私山林竹木ノ所有ニ屬スル者ハ、其盜伐シテ盡閣キ、數日ヲ經、乃其場ニ有之内、發覺スル者、其理ニ依テ論シ可然哉、乃竹木已ニ雖モ、乃ホ各本律ノ前段ハ清律ノ通リ、官私山林竹木ヲ盜マント欲シ、砍伐セサルニ、盜ム者ハ、未タ駄載セサルニ、棄毀器物ヲ以テ論スト、

子女ヲ棄ル者ハ、家計貧困ニシテ、鞠育スルアタハサルヨリ、之ヲ道路、又ハ他人ノ門外ニ遺棄シ、人ノ乳養セシコトヲ望ム、毫モ殺死スルノ情ナキ者、則懲役百日ニ處ス、若シ遺棄ニ因テ、子女死ヲ致スハ、是レ子女ノ不幸ナリ、本例ニ依テ處分スヘシ、

滋賀縣伺

本條中嫡子ヲ改立セシムルトアルハ、假令嫡子已ニ他家ヲ相續致シ居ルト雖モ、離異シテ改立セシメ候哉、

但シ大赦以前ノ所犯ナレハ、其罪ハ免スヘキ者ハ、仍ホ本條ニ依リ改正スヘキ儀ニ候哉、

獨子法ヲ盡スノ儀ニ候哉、

獨子ノ孫ヲ、他家相續致サシメ、仍リ罪ヲ免シ、本條ニ依テ宗ニ歸シ、離異シテ科セサル者ハ、嫡長子孫ノ例ニ照シ、改立セシムヘキ儀ニ候哉、

此條ハ、相續人ヲ云、

凡嫡長子孫ノ。嫡長子ノ產タル長子。故妻。

立ル法アルトハ。本夫ノ。其嫡子次子ノ子孫ヲ。立ツル序アリ云ヘル。

嫡長子孫ノ。嫡長子ノ產タル長子。故妻。

立ル法アルトハ。本夫ノ。其嫡子次子ノ子孫ヲ。立ツル序アリ云ヘル。

無クシテ。庶子。妾腹ノ子ナリ。

立ル者ハ。杖七十。仍ホ杖七十ノ。嫡子ヲ改立シ。立タル子ヲ除キ。

疾病等ノ。故亡沒。死亡ナリ。

若シ養父母。親生。養父母ヲ云。

自分ノ產ノ子ナキニ。養子。

捨去（養父母）ル者ハ。徒二年。

養父母。親生ノ子アリ。本生父母。子ナクシテ。養子ニナリ人ノ。已ニ。相續ノ子ナキ。外方ナルヲ。家ヘ。還（養子。實家ヘ）ト願フヲ云。

立嫡違法條例

第百十二條　凡子女ヲ棄ル者ハ。父母。養父母ヲ分タス。並ニ。懲役百日。繼父母ハ。一等ヲ加フ。雇ヲ受

然ラハ、壯年ノ者、親生ノ子ナク、養子ニ致スノ後、男子出生スルアル者ハ、仍ホ嫡子ヲ改立セシムヘキ儀ニ候哉、已ニ家督ヲ讓ル者ハ、其儘差置候テ可然哉、

嫡長子孫亡沒疾病等ノ故アルニ非スト雖モ、無賴或ハ愚ニシテ、行末家ヲ保チ難キ者ハ、嫡子ヲ改立セシムヘキ儀ニ候哉、

孫ヲ立ツルハ、嫡子ノ子ニ限ルヤ。

明治六年太政官第二十八號御布告御改正第一章ニ、二男三男ハ云々、家督相續ハ云々、又ハ女子ヘ養子相續云々トアルニ依レハ、若シ男子ナキ者、一人ノ女子、或ハ長

女子ヲ他ヘ嫁スル者モ亦本條ニ依リ罪ヲ科シ其女ハ離異シテ宗ニ歸サザルヲ得ザルニ似タレ𪜈已ニ一旦嫁スルノ女ヲ官ヨリ離異セシムルハ如何ト疑ヲ生ズ

前條御布告ニ次男三男女子無之者ハ血統ノ者ヲ以テ相續願出ヅベシ若シ故ナク順序ヲ越テ相續致ス者ハ相當ノ咎可申付トアリ右血統ノ者トハ尊卑長幼ノ別ナク同宗ノ親屬ヲ云ヒ順序トハ親疎長幼ノ順序ヲ云フ乎假令ハ親生ノ子ナキ者家ニ伯叔父従父兄弟等アリ伯叔父ハ二等親ニシテ従父兄弟ヨリ親シ伯ハ又叔ヨリ長ズルヲ以テ伯父ニ繼承セシムベキニ叔或ハ従父兄弟又

ケ棄ル者ハ。懲役九十日。婦女ト雖モ。收贖スルヿヲ聽サス。

棄テ子ニスル者ハ。生ミノ父母ト。養父母トニ論ナク。皆懲役百日ヲ申付ケ。継父母ニアタル者ハ。百日ノ罪ニ一等ヲ増加シ。懲役一年ニ罪ヲ定ムルナリ。又頼ミヲ受テ捨レバ。懲役九十日ヲ申付ク。タトヘ婦女子ニテモ。カヽル不仁ノ所行ヲ為セバ。必ズヂキニ懲役ヲサセテ。贖ハ聞届ケヌナリ。

第百十三條　凡財ヲ圖リ。

ハ他人ノ子ヲ養テ相續セシムル者ハ順序ヲ越ルヲ以テ本條ニ照シ處分スル儀ニ候哉然ルニ尊屬ノ親ヲ以テ相續セシムルハ子ト稱セズシテ相續人ト稱スルナレバ嫡長子孫ヲ立ツルニ法ニ違フト云フ名義ニ的當ナラズ右相當ノ咎トハ何律ニ依リ可然哉前條御布告ノ通リ當主存命中ト雖モ尊卑長幼ノ別ナク必ズ血統ノ者ニ無之テハ継承セシムル儀不相成トセバ子ナキ者及ヒ従父兄弟等アレバ他ヨリ養子致ス儀不相成儀ニ當レ𪜈右ニテハ甚ダ不都合ノ廉有之因テ相考候ニ右血統ノ者云々又父兄伯叔總テ目上ノ者子弟甥等ノ目下ノ家ヲ継承スル云々ト

人ノ子女ヲ乞養シテ棄ル者ハ。懲役十年。婦女ト雖モ。收贖スルヿヲ聽サス。殺ス者ハ。斬。

勝手向ノ都合ヲ考ヘ。人ノ子ヤ娘ヲ育ヒ遣サント申込ミテ。其子女ヲ引取リ。夫ヲ捨子ニスル者ハ。懲役十年ヲ申付ルナリ。婦女子ノ身ニテモ。此行ヒヲナセバ。贖ヒハ聴サズ。直ニ懲役ヲ申付ルナリ。又其子ノ殺セバ。斬罪ニ行フナリ。

第百十四條　凡故サラニ。

アルハ、皆當主死去ノ後、嗣子無レ之時ノ事ニテ、當主存命中ナレバ、家ニ伯叔父弟婦妹、及ビ從父兄弟并ノ血統ノ者有レ之共、親生ノ子ナキ上ハ、當主ノ存寄ヲ以テ、他ヨリ養子致シ候テモ不苦儀ト相心得可レ然哉、前御布告中、當主壯年ナレトモ、疾病其外無レ據事故有之、養子致シ候處、前當主疾病平愈又ハ事故相解候節云々トアリ、他日病愈事解タル者ナレバ、一時ノ疾病一時ノ事故ト相見ヘ候、然ラバ右御布告弟一章、亡没或ハ癈篤疾并不レ得レ止ノ事故云々トアルニ矛盾ス、前條御布告ハ、華士族ノミノ儀ニ候得ド、庶人モ亦同様ノ儀ト相心得可レ然哉、

七年七月七日指令

墮胎スル者ハ。懲役百日。情ヲ知テ。藥ヲ賣リ。及ヒ技術ヲ施ス者ハ。同罪。婦女ト雖モ。收贖スルヿヲ聽サス。

ワザく子ヲ墮ス者ハ懲役百日ノ申付ルナリ。其子ヲ墮ス事柄ヲ承知シテ、子ノオリル藥ヲ賣リ。及ビ子ノ墮ル仕方ヲ仕向ケタル者ハ。ワザく子ヲ墮セシ者ト同罪ナリ。タトヘ婦女子トテモ。此行ヒヲ為セハ。贖ヒハ聽サヌナリ。

第一條 嫡子ヲ他家相續セシムルハ、但書ト伺ノ通ト雖モ、若シ嫡子ヲ他家ニ、廢子ヲ自家ニ承襲セシムルモ、其情理アリテ、官ノ許可ヲ經ル者ハ、改正スルノ限ニ在ラズ、

第二條 伺ノ通、但シ官ノ許可ヲ請ハザルヲ得ザレバ、其節ノ事情、篤ト取料シ、處分スベシ、

第三條 實養父母ノ情願ニ任スベシ、

第四條 事情取糺ノ上、相違ナキニ於ヲハ、差許スヘシ、尤親族會議ノ上、願出サシムヘシ、

第五條 伺ノ通、

第六條 一人ノ女子、或ハ長女子ヲ他ヘ嫁スル者ハ立嫡違法ノ限ニアラズ、已ニ嫁スルノ女ヲ離異セシム

○和歌山縣伺

士族他ノ處女ト姦シ、墮胎セシムル者、破廉恥甚ヲ以テ論シ可レ然哉、

七年二月五日指令

伺ノ通、

○新瀉縣伺

墮胎ノ情ヲ知テ、為ニ技術ヲ施ス者ヲ紹介シ、技術ヲ施サシムル者ハ、不應為輕ニ問フヘキ哉、

七年二月十七日指令

情ヲ量リ、不應為輕重ニ問フ可シ、收贖ヲ聽ス

○豊岡縣伺

一寺住職ノ僧、私通シ、相謀テ墮胎スル者、其僧ニ於ル破廉恥甚ヲ以テ、論ス可キ哉、

七年二月二十八日指令

伺ノ通、

○同縣同

ベカラス、

第七條 順序ヲ越テ相續ス
ルトハ嫡子ヲ措テ、次男ヲ
立、又ハ男子アルニ、女子ヲ
シテ繼承セシムルノ類ヲ
云ヒ、同宗中尊卑長幼ノ序
ヲ云フニ非ズ、且實子無レ之
者ハ、血統中目下ノ者ヲ以
テ、養子ト為スベシ、尊屬ノ
親ヲ以テ、繼承セシムルハ、
養子ノ限ニアラズ、

第八條 實子無レ之時ハ、血統
中目下ノ者ヲ養子ト為ス
ベシ、

第九條 廢篤疾等不レ得レ止ノ
事故ト雖モ、必ズ病愈ヘ、事
解クルノ期ナシト云ヒ難
シ、其事實取糺ノ上、相當ノ
處分アルベシ、

第十條 御布告面ノ通リ、華
士族ノミノ儀ト、相心得ベ
シ、

墮胎スル者、及ヒ情ヲ知テ
藥ヲ賣リ、技術ヲ施ス者ハ
廢疾盲人七十以上ノ者モ
皆實決スヘキ裁、
七年二月二十八日指令
收贖ヲ聽ス、

○堺縣伺
本條凡嫡長子孫、亡没疾病
等ノ故無クシテ庶子ヲ立
ル者ハ杖七十、又明治六年
七月廿二日、華士族家督相
續ハ、必總領ノ男子タル可
シ、若シ亡没、或ハ廢篤疾等
不レ得レ已ノ事アレハ、其實ノ
詳ニ、次男三男又ハ女子ヘ
養子願出ツ可シト、第二百
六十三號ヲ以テ御布告ア
リ、此律ト令トヲ比照相考
生レ疑候、本律ハ華士族ニ涯
リ、可レ相用ノ謂カ、將タ平民
ハ律ニ依リ華士族ハ令ヲ
依リ、各殊ヲ處分可レ致カ、
七年四月廿七日指令
華士族平民ノ別ナク、律ニ依
ルハ論ヲ俟タス、第二百六十
三號ノ御布告ハ、華士族ニ限
リ、前以テ願出可キ様ノ御趣
意ニテ、順序ヲ越テ相續致ス
者ハ、律ノ通リ處分スル儀ナ
リ、故ニ律ト令ト、各殊ノ處分
ニハ至ラス、

○白川縣伺
例第百十四條云々、其技術
ヲ施ス穩婆、年八十以上ナ
ルキハ、名例律老小廢疾條、
八十以上云々ニ依リ、不問
ニ置クヘキヤノ所、右墮胎
ノ儀ハ、婦女ト雖モ、收贖ヲ
聽サス、且士族他ノ處女ト
姦シ、墮胎セシムル者ハ、破
廉恥甚ヲ以テ論スル程ノ、
重罪ナレハ、不問ニモ置難
ク候ニ付、盗罪及ヒ人ヲ傷
スル者ト等シク、其罪ヲ問

ヒ、收贖ヲ聽シ候テハ、如何可有之哉、

八年三月二十日指令

伺ノ通、收贖ス可シ

○愛知縣伺

祖父母ノ、孫ヲ棄ツル者ハ、例第百十二條懲役百日ト云フヲ以テ論シ可然哉、

八年二月二日指令

伺ノ通、

逐婚嫁女

凡無罪ノ壻ヲ逐テ。女ヲ嫁罪ナキ壻ヲ逐出シ。或娘他ヘ緣付ルヲ再ヒ壻ヲ招ク者ハ。杖九十。其女ハ坐セス。父母ノ存シ部ニ男家ヲ壻出ル故。罪ナシ。

○司法省伺

匿父母夫喪及居喪犯姦

律文ニ於テ、喪ト稱スルヲ數ヶ月ト是レ造喪服中ノ日數ニ候ヘ共、壬申第百七十算定式ニ有之候ヘ共、神事ノ中ニ付テハ、自今喪中ノ日數ヲ相定候樣致度、此段相伺候也、

司法省伺

父母夫喪及居喪犯姦

律文ニ於テ、喪ト稱スルヲ數ヶ月ト是レ造喪服中ノ日數ニ候ヘ共、壬申第百七十算定式ニ有之候ヘ共、神事ノ中ニ付テハ、自今喪中ノ日數ヲ相定候樣致度、此段相伺候也、

○司法省伺

匿父母夫喪及居喪犯姦

律文ニ於テ、喪ト稱スルヲ數ヶ月ト是レ造喪服中ノ日數ニ候ヘ共、壬申第百七十算定式ニ有之候ヘ共、神事ノ中ニ付テハ、自今喪中ノ日數ヲ相定候樣致度、此段相伺候也、

○司法省伺

匿父母夫喪及居喪犯姦

律文ニ於テ、喪ト稱スルヲ數ヶ月ト是レ造喪服中ノ日數ニ候ヘ共、壬申第百七十算定式ニ有之候ヘ共、神事ノ中ニ付テハ、自今喪中ノ日數ヲ相定候樣致度、此段相伺候也、

出シタル。娘ノ家。ヲ贅ヒレ家。ノ娶ル者。及ヒ後贅ヒ一度壻ヲ出シタル。ノ壻。情ヲ知ル者ハ。同罪。知ラサル者ハ。坐セス。

匿父母夫ノ喪

凡父母。及ヒ夫ノ喪ヲ聞キ。子女及ヒ妻妾ニ在テ。父母夫ノ死去ヲ聞クナリ。自ラ。喪ヲ忌服ヲ云フ。家ニテノ死喪ハ。匿シテ居テ。喪ヲ發セサル者ハ。徒一年。

六年十二月五日御指令
伺ノ通

○鹿児島縣伺

兄弟別居シタル後兄産業ヲ失ヒ、弟ノ家ニ寄寓スルカ如キ、同居尊長トモ可稱者、私擅ニ家主ニ由ラズシテ、財物ヲ用ル者如何、

七年十二月五日指令

本律ニ依リ、子弟ノ擅用スル者ハ、各杖一百。

○本ト

同縣ヨリ流罪ニ科スベキ、盜賊ノ贓ヲ賣却スル者ハ、本主ヨリ償ハシメ、私擅ノ贓ヲ賣却スル者ハ、異ナル者ニ依リ、父兄其償ヲ得ザレバ、直ニ父祖父母。父母死スト詐稱シ、其祖父母。父母死去セシト。詐リ云フナリ。詐レ。若クハ喪ニ居キテ。嫁娶シ。忌服中又嫁ヲニ嫁入ルナリ。

凡弟。私同居。擅用スル者ハ。一十兩毎ト。一等ヲ加ヘ。罪。杖一百ニ止ル。

此條ハ。父兄ノ家主ヲ取締ナリ。其兄弟。子弟私擅用財ノ財物ヲ用ル者ハ。自ラ其家ヲ治ムルニアラズ。他人ノ如ク論ズ。

○濱田縣伺

子弟私擅ニ、父兄ノ財物ヲ用ルニ、他人情ヲ知リ、密ニ其物品ヲ買得スル如キ、

十年十月十八日指令

○同

名東縣伺

弟私擅ニ、父兄ノ財物ヲ用ルニ、他人其情ヲ知リ、金錢ヲ受ル者ノ如キ、

一年十一月十八日指令

○坐

贓ヲ以テ論ズ、

○本

律ニ依テ、科斷ス可シ、

○岐阜縣伺

右用ユルト云フ本律云々

七年十一月十八日指令

○奈良縣伺

別居異産ノ子タル者、親ト同居シ親宅ヘ忍入、財物ヲ竊盜スルハ如何、

七年十一月十八日指令

○同

名東縣伺

子弟私擅ニ、父兄ノ財物ヲ用ルニ、他人情ヲ知リ、密ニ其物品ヲ買得スル如キ、

十年十月十八日指令

○濱田縣伺

子弟私擅ニ、父兄ノ財物ヲ用ルニ、他人情ヲ知リ、密ニ其物品ヲ買得スル如キ、

十一年十月十八日指令

○坐

贓ヲ以テ論ズ、

○本

律ニ依テ、科斷ス可シ、

○岐阜縣伺

右用ユルト云フ本律云々

七年十一月十八日指令

○奈良縣伺

別居異産ノ子タル者、親ト同居シ親宅ヘ忍入、財物ヲ竊盜スルハ如何、

七年十一月十八日指令

第百十五條　凡同居ノ卑幼尊長ニ由ラスシテ。私ニ

子弟私擅用財條例

一十。一十兩毎ト。一等ヲ加ヘ。罪。杖一百ニ止ル。

○濱田縣伺

子弟私擅ニ、父兄ノ財物ヲ用ルニ、他人情ヲ知リ、密ニ其物品ヲ買得スル如キ、

十年十月十八日指令

○同

名東縣伺

弟私擅ニ、父兄ノ財物ヲ用ルニ、他人其情ヲ知リ、金錢ヲ受ル者ノ如キ、

一年十一月十八日指令

○坐

贓ヲ以テ論ズ、

○本

律ニ依テ、科斷ス可シ、

○岐阜縣伺

右用ユルト云フ本律云々

七年十一月十八日指令

○奈良縣伺

別居異産ノ子タル者、親ト同居シ親宅ヘ忍入、財物ヲ竊盜スルハ如何、

七年十一月十八日指令

第百十五條　凡同居ノ卑幼尊長ニ由ラスシテ。私ニ

子弟私擅用財條例

凡弟。私同居。擅用スル者ハ。一十兩毎ト。一等ヲ加ヘ。罪。杖一百ニ止ル。

此條ハ。父兄ノ家主ヲ取締ナリ。其兄弟。子弟私擅用財ノ財物ヲ用ル者ハ。自ラ其家ヲ治ムルニアラズ。他人ノ如ク論ズ。

○濱田縣伺

子弟私擅ニ、父兄ノ財物ヲ用ルニ、他人情ヲ知リ、密ニ其物品ヲ買得スル如キ、

十年十月十八日指令

○同

名東縣伺

弟私擅ニ、父兄ノ財物ヲ用ルニ、他人情ヲ知リ、金錢ヲ受ル者ノ如キ、

一年十一月十八日指令

○坐

贓ヲ以テ論ズ、

○本

律ニ依テ、科斷ス可シ、

○岐阜縣伺

右用ユルト云フ本律云々

七年十一月十八日指令

○奈良縣伺

別居異産ノ子タル者、親ト同居シ親宅ヘ忍入、財物ヲ竊盜スルハ如何、

七年十一月十八日指令

八年三月二十四日指令

○通濱田縣同姦婦姦際姦婦本夫相謀逃走スルノ内、一ノ人ニ従ヒ、罪ヲ科シ、重キニ従ヒ、罪ヲ科スレハ、又ハ數次

内ノ一櫃中ニ收メアルヲ、擅ニ取出シ、賣拂フ者之アリ、右ハ其母及ヒ兄ノ妻ノ衣類マテ、數ニ計ヘ、本律ニ依テ處分シ、弟妹ノ分ハ論セスシテ可ナリ、然ラハ、將タ其全

敷ヲ科スヘキ哉、

八年四月十八日指令

全數ヲ計ヘテ、罪ヲ科ス、

○堺縣伺 六年七月二十三日

指令

官廳ニ告ケズ、私擅ニ他管ニ出ル者、五十日内ニ復歸スヘシ、輕キハ論セサレハ、違令ノ多寡ヲ問ヒ、自首スレハ、日數ノ多寡ニ拘ハラス、罪ヲ免ス、

○新潟縣伺

生來ノ無籍人、或ハ本籍ヲ所定メズ、文字ヲ知ラズ、明治四年辛未四月、戸籍ノ御布告アルヲ知ラズ、漏レ、令ニ違ヒ、本人ノ願ニ依テ止タル、其罪ヲ論スルニ及テ、編籍ハザル哉、

本年第百七十三號ノ御布告ニ依ル可シ、

○東京裁判所伺

脱籍逃亡ニテ逃亡云々、小ニテ二年云々、幼

六年八月廿五日指令

一條ハ、脱籍逃亡、二年ヲ過ル者ニ編入ス、故ニ逃亡ノ犯罪ハ、平民ト同ク、二罪俱發ヲ處分ス可シ、

第二年外ノ收祿ノ上、家屬ヲ、民ニテ、

皇律例彙纂 巻三 戸婚律 逃亡 廿二

士族卒ハ。一等ヲ加フ。

逃亡條例

第百十七條 凡脱籍逃亡シテ。二年以外。復歸セサル者ハ。律ニ依テ。科斷シ。華士族ハ。破-廉恥-甚ヲ以テ論ス。

已レノ人別ヲ脱シ本籍（已レノ人別アル場所。）ヲ欠落スル者ハ。杖八十。

但レ大赦以前ナレハ、犯數ニ計ヘズ、

京都裁判所伺

曾テ京都府ヘ、子、父ノ財物ヲ盜ミ、倶ニ同居各居ノ別ナク、盜ムハ本律ニ依リ、父ノ財物ヲ盜ムハ論ズルヲ勿レ、又夫妻妾ノ財物ヲ盜ムハ、論セス、妻妾、夫ノ財ヲ盜ムハ、本律ニ依ルト、御指揮ニ相見候、右ハ即令援引致シ、差支之アル間敷哉、

八年三月二十日指令

伺ノ通、

逃亡

已レノ人別アル。土地ニ緣ノ有ル者ハ。收祿ノ上。家屬ヲ。民ニテ。二年ヲ過ル者ハ。沙汰ニ及ビ。華士族ノ。破-廉恥-甚ノ外聞ヲ欠キタル律ノ箇條ニ依テ。罪ヲ該ルナリ。

第
以テ論スル限ニアラズ、
二條 脱籍逃亡シ、三年ヲ過キテ復籍セザル者、一年大
ハ幼小ニシテ、二年ハ長
ナレバ、逃亡ノ本律ニ依テ、
實斷シ、二年ハ幼少ニシテ、
一年ハ長ニ
逃亡シ、三年ヲ
以テ論シ、幼少ナレバ、二年ハ
長ニ
收贖ヲ聽シ、一年ハ
大擅ニ
違令重ニ
問フト云ヘドモ、
私ニ
減シ、復籍スルカラズ
○千葉裁判所同六年九月五日指令
商業ニ
付願等ハ、他管ニ
出テ
ノ者、其ノ
情、名蹟ノ逃亡ト同ジキヲ
二年外ニ
告ゲズ、
又ハ
祈擅ニ
復歸スル
為メ、官廳ニ
出テ
ズ、
私ニ
至レバ、逃亡
斷ス可シ、
○濱松縣伺
凡逃亡三年以上ヲ經テ、還
及逃亡
歸ビ捕ニ
就ク者、舊惡免
罪ノ限ニ非ズ候乎、
六伺ノ通、
年九月五日指令
○京都裁判所本籍ヲ脱シテ
他管ニ出ザル者ノ伺
未タ
一月八日指令
七他管ニ出テ
年
スト雖モ、本籍ヲ
所在不分明ナル者、二年以
脱シ、
内ハ、違式ニ
輕キヲ
問フ、二
外ハ、逃亡ヲ
以テ
論ズ、
○大坂裁判所伺
五日指令
大坂裁判所伺七年一月十
父一
父母ト共ニ
逃亡
家
共犯ヲ
以テ
論スル
子
弟ハ、雖モ、二
父母死亡シ、子
成丁ナルト、二
年ヲ
過キテ、復歸自首スル者ハ、例ニ
依リ贖罪ニ
處ス、二年

第百十八條 凡逃亡シテ。二年以外。復歸シ。及ヒ自首スル者ハ。首免ヲ聽サス雖モ。平民ハ。贖罪ニ處シ。華士族ハ。族ヲ復シテ。祿ヲ給セス。

第百十九條 凡逃亡スル者。再犯以上ハ。一等ヲ累加シ。罪。懲役一年ニ止ル。

第百二十條 凡官廳ニ。陳告セズシテ。私擅ニ。他管ニ出テ。五十日ヲ過ル者ハ。違令重ニ問フ。

欠落シテ歸ラ。及ヒ自首スル者ハ。其ノ罪ヲ免ス。二年ヲ過ル者ハ。彼ノ逃亡ノ族ハ。贖ヒ。平民ト。華士族ト。元ノ通リ。祿ヲ給セラル。二年ヲ過ル者ハ。自ラ身ヲ申出ル例ニ依テ。罪ヲ減ス。二度以上ナレバ。其ノ度ニ。罪一等ヲ增シ。其罪ノ止リハ。懲役一年迄ニ。上ボルナリ。

○以內ハ免罪、
○東京裁判所ヘ達書
昨年七月二十五日伺出、無祿及ヒ子弟等ハ云々ノ指令、左ノ通改定相成候、
華士族、若シ無祿ノ者ナレバ、
族ヲ復シテ、贖罪セシム、
○高知縣伺
舊藩政中、犯罪逃亡ノ者、當令歸縣入籍願出候者伺、
七年二月二日指令
罪著以重論律ニ依テ、處斷スベキ舊惡減
一等ヲ帶ビ逃亡シ、復籍願出ル發、
二年以內ハ、赦及ヒ舊惡減
三等ヲ以テ、處斷スベシ、
○免例ニ照シテ處スベシ、
重縣伺
士族獨身ノ者逃亡セバ、祿
二年以內ニ領置シ、二年以外ニテハ祿ヲ復給スベキ哉、
歸縣スレバ、給スベキ哉、
當ニ領置スル哉、
○山梨裁判所伺
六年七月二
十七日指令
名姓ヲ變換シ、復籍セシ者ハ、其官廳ニ領置スル、二年以內ハ給スベキ哉、
二年以外ニテ復歸セズ、破廉恥甚シキモノハ、官廳ニ領置スル祿ハ給スベカラズ哉、
○六年五月廿五日第百七十三號御布告人復籍ノ儀已ニ四月十五日、寬典ノ御處置被仰出候ニ至リ、尚復籍不致者ハ、處分可致事、
○照準ニ處分可致事、

第百二十一條 凡外國ニ逃亡スル者ハ。逃亡罪ニ二等ヲ加フ。

外國ヘ逃ケ行ク者ハ。內國ノ欠詮ノ罪ニ二等ヲ增ス。

配所ヘ行キ。日數五十日ヲ過ル者ハ。違令罪ノ重キヲ科メ。ヲ申付ルナリ。

○逃亡十七日指令
山梨裁判所伺
六年七月二
名姓ヲ變換シ、復籍セシ者ハ、其官廳ニ領置スル、二年以內ハ給スベキ哉、
二年以外ニテ復歸セズ、破廉恥甚シキモノハ、官廳ニ領置スル祿ハ給スベカラズ哉、
○第一二三條同
山口縣伺
嫡子以下厄介ノ者、逃亡ハ、平民ト同シク贖罪ス可キ哉、
七年二月三日指令
處ス可キ哉、
○同
筑摩縣伺
私擅ニ本籍ヲ脫出シテ、年以內、同管內ニ潛伏スル、
七年二月三日指令
通、
○同
擅ニ本籍ヲ脫出シ、年以內、同管內ニ潛伏スル、
七年二月三日指令
通、
○同
嫡子以下厄介ノ者、逃亡ハ、平民ト同シク贖罪ス可キ哉、
七年二月三日指令
處ス可キ哉、
○同
筑摩縣伺
私擅ニ本籍ヲ脫出シテ、年以內、同管內ニ潛伏スル、
七年二月三日指令
通、
○同
筑摩縣伺
私擅ニ本籍ヲ脫出シテ、年以內、同管內ニ潛伏スル、
七年二月三日指令
通、

○敦賀縣伺
依テ科斷スベシ、
但擅ニ本籍ヲ脫出シ、他管ニ潛伏スル、私罪ニ係リ、日數多年ニ及ブト雖モ、其官廳ニ領置スル、二年以內ハ給スベキ哉、
二年以外ニテ復歸セズ、破廉恥甚シキモノハ、官廳ニ領置スル祿ハ給スベカラズ哉、
○第一二三條同
山口縣伺
嫡子以下厄介ノ者、逃亡ハ、平民ト同シク贖罪ス可キ哉、
七年二月三日指令
處ス可キ哉、

者ハ、例第百二十條ニ處分シ可レ然裁、追テ二年以外ニ及フハ、例第百十七條ニ照シ可レ然裁、斷

七五追○

十年二月十二日指令

書伺ノ通、違式輕ニ科ス、

滋賀縣、問刑條例、御渡ニ定稿ヲ、

七四問○

年二月十四日指令

刑ニ依テ、採用スヘカラズ、即チ例ノ未

山梨裁判所伺、八年一月指令

七三逃○

二年以內、復歸自首ハ、裁ノ處分ニ

静岡縣伺、負債主出訴以前、失踪其相續ル者ハ、例ニ准シ、

七二逃○

年以內、復歸本籍ニ於テ、申渡ス可シ、

七一逃○

年以內、復歸本籍ニ於テ、申渡ス可シ、

七同○

筑摩縣、逃亡ノ子孫本籍ニ流浪三月ヲ過ル者ハ、論ス可シ、

七父籍浪由籍

祖父ノ郷ニ貫レ勿レ成丁ノ者ハ、違令重科二等、

七年一月通、處分ニ准シ、

先年兵馬擾亂ノ際、本籍脫走等ノ所々流亡ノ者、訴出候ハヽ、

兵隊ニ入リ、里郷ニ寓シ、其後ノ海陸軍兵役歸郷ノ年、本籍ニ於テ、滿期免役ノ年ヲ、

正ノ報知無ク、故ニ逃亡ノ者ハ、

在所ニ於テ、申渡ス可キ、

等候處、

相續ノ紛ヲ、

載之ノ節、逃亡ノ跡未タ詳ニ、

有レ之ノ樣ニ、

勤メ致シ、

相糺シ、

人ヘ相掛、濟方許出候、儀ノ處失踪ノ後、數多ノ負債暴露シ、之ガ為メ蹤跡湮滅セラレ見据タルハ、逃亡ト見做シ處分致シ可レ然哉、

八失ヲ○

年一月十七日指令

踪以後、負債暴露スルヲ、逃亡ト、見做スヲ可カラズ、之ヲ

和歌山縣伺、八年二月指令

外國ニ四日指令逃亡、二年以內復歸セザル者ハ、律例ニ依テ科スヘシ、

自首○

條筑摩縣伺、

私擅出他管者、五十日ヲ過ルハ、聽贖シ、

例第百二十條ハ、贖罪ヲ聽ス、

八年三月三日指令

復歸スト雖モ、首告セザレハ、實ニ復歸シテ自告セシニ、

實ニ幽スヘキヤ、或ハ本罪ヲ科スヘキヤ、

戾ニ依テ、聽贖シ、

幼少ノ時、逃亡シ、長大ニシテ、復歸スルヲ、其年月ヨリ二年ニ及バヽ、

和歌山縣伺、

筑摩縣伺、

御指令、

婦人、逃亡ニ及ヒ、

自首スル者ハ、

何ノ責ヲ、

女、十年以下ノ罪、

不失錯誤、過火、

以上、十五年以下ノ罪、

仍ホ違令ニ閇ヒ聽贖ス、

○新濕縣伺

有祿士族ノ戸主、逃亡シテ二年ヲ過ル者ハ、本人ノ歸否ニ關係ナク、其祿ヲ收メ歸シテ可レ然哉、

八年三月二十日格令

○伺

濱田縣伺

本年愛知縣伺、逃亡二年以外ニ復歸シテ、自首セザル者ハ、贖ヲ聽シ、但婦人ハ、贖ヲ聽シ可レ然哉ニ、伺ノ通、責ニ處シ可レ然哉ニ、伺ノ通、

八年四月二十八日格令

自首スルト、否ルトニ依テ、區分ハ無レ之事、

○兵庫寮判所伺

逃亡ト稱スルハ、名蹟ヲ湮滅シ、歸籍ノ念ナキ者ト相心得居候處、雇人ノ逃亡モ、年以外ニ及ヒ、逃亡處ニ於テ、自然ト傚做サザル者ト、自ラ同様ニ相心得、且二年以外ニ及ヒ、他ノ再犯ニ係ル者ハ、贖ヲ聽シ、婦人ハ、贖ヲ聽シ、自首スル者ト、自首セザル者トノ區分ハ無レ之哉、

一月三十一日格令

逃亡ト、及ヒ他ノ再犯ニ係ル罪ニ、伺ノ通、他管ノ擅出ハ、再犯ニ非レバ、懲役三十日ニ處シ、若シ私ニ擅出シテ、五十日ヲ過ル時ハ、違令重キニ合ヒ、懲役三年ニ處シ、其權衡不レ相レ見、

七年六月十五日格令

雇ヒ人逃亡ト稱スルハ、名蹟ヲ湮滅シ、歸籍ノ念ナキ者ト相心得可レ然哉、

○伺

濱田縣伺

本年愛知縣伺、逃亡二年以外ニ復歸シテ、自首セザル者ハ、贖ヲ聽シ、但婦人ハ、贖ヲ聽シ可レ然哉ニ、伺ノ通、責ニ處シ可レ然哉ニ、伺ノ通、

八年三月二十日格令

七脱雖所犯已等ノ○

首量年籍ニ、阿拘ラス、右處レノ權衡ヲ酌ミ、可レ然哉、

六月二日格令

逃亡首セハ、免シ處ル罪ニ以テ、贖ヲ聽シ、婦人ハ阿自固ヨリ首贖ス、

十五日格令

逃亡二年ヲ過ル者ハ、本人ノ歸否ニ關係ナク、其祿ヲ收メ歸シテ可レ然哉、

二年三月二十日格令

有祿士族ノ戸主、逃亡シテ二年ヲ過ル者ハ、本人ノ歸否ニ關係ナク、其祿ヲ收メ歸シテ可レ然哉、

○仍ホ違令ニ閇ヒ聽贖ス、

新濕縣伺

有祿士族ノ戸主、逃亡シテ二年ヲ過ル者ハ、本人ノ歸否ニ關係ナク、其祿ヲ收メ歸シテ可レ然哉、

八年三月二十日格令

○伺

濱田縣伺

本年愛知縣伺、逃亡二年以外ニ復歸シテ、自首セザル者ハ、贖ヲ聽シ、但婦人ハ、贖ヲ聽シ可レ然哉ニ、伺ノ通、責ニ處シ可レ然哉ニ、伺ノ通、

八年四月二十八日格令

自首スルト、否ルトニ依テ、區分ハ無レ之事、

七雇亡

○兵庫寮判所伺

逃亡ト稱スルハ、名蹟ヲ湮滅シ、歸籍ノ念ナキ者ト相心得居候處、雇人ノ逃亡モ、年以外ニ及ヒ、逃亡處ニ於テ、自然ト傚做サザル者ト、自ラ同様ニ相心得、且二年以外ニ及ヒ、他ノ再犯ニ係ル者ハ、贖ヲ聽シ、婦人ハ、贖ヲ聽シ、自首スル者ト、自首セザル者トノ區分ハ無レ之哉、

一月三十一日格令

逃亡ト、及ヒ他ノ再犯ニ係ル罪ニ、伺ノ通、他管ノ擅出ハ、再犯ニ非レバ、懲役三十日ニ處シ、若シ私ニ擅出シテ、五十日ヲ過ル時ハ、違令重キニ合ヒ、懲役三年ニ處シ、其權衡不レ相レ見、

七年六月十五日格令

雇ヒ人逃亡ト稱スルハ、名蹟ヲ湮滅シ、歸籍ノ念ナキ者ト相心得可レ然哉、

○伺

濱田縣伺

本年愛知縣伺、逃亡二年以外ニ復歸シテ、自首セザル者ハ、贖ヲ聽シ、但婦人ハ、贖ヲ聽シ可レ然哉ニ、伺ノ通、責ニ處シ可レ然哉ニ、伺ノ通、

八年四月二十八日格令

自首スルト、否ルトニ依テ、區分ハ無レ之事、

管内ヲ論セス、懲役三十日ニ

八年一月三十一日格令

逃亡、及ヒ他ノ再犯ニ係ル罪ニ、伺ノ通、他管ノ擅出ハ、再犯ニ非レバ、懲役三十日ニ處シ、若シ私ニ擅出シテ、五十日ヲ過ル時ハ、違令重キニ合ヒ、懲役三年ニ處シ、其權衡不レ相レ見、

被レ擬候、律例中明文不レ相レ見、

○奴婢逃亡

呂使。及ヒ雇人。欠落セレ科ナリ。

凡奴婢。及ヒ雇人。逃亡スル者ハ。笞三十。

和歌山縣伺

凡逃亡ハ、二年以外ヲ限ト、十五門ニ、五十人ニ出テ、他管ニ擅出スルハ、私ニ過ヨリ重ケ、雇人逃亡ハ、必ス告ケ、宅舍ヲ脱論ス、即チ雇人逃亡ト確定

○青森縣伺
本律村社ノ儀不相見候、村社ノ神御神寶ヲ盗ム者、尋常民家ノ物ヲ竊盗致候者ト差別無之候哉、
七年二月三日指令
社ノ例ヲ以テ、論スベシ、
○郷
三重縣伺
例第百二十二條、大祀大社ノ神御神寶ヲ盗ム者云々其神前ノ賽錢ヲ盗ム者ハ、如何處分可致哉、
七年四月廿三日指令
大祀大社神前ノ賽錢ヲ盗ム者ハ、各盗罪ヲ以テ論シ、罪、綛ヲ改正
○入ル、指令
岐阜縣伺
大小社ヲ問ハズ、旗幟帷幕等ノ祭祀ニ相用フル品、神御物ト見做候モ如何ト存候、右ハ何樣見込宜敷哉、

賊盗律

盗大祀神御物

此律ハ。盗ミ惡事ノ名ヲ云フ。大祀ハ。大ノ字ノ會ノ類ヒ。神御物ハ。神ニ供ヘル物ヲ云フ。

凡大祀ノ神御物。及ビ大社ノ神寶（神社ノ藏ノ寶品）ヲ盗ム者ハ。皆絞。其神御ニ供セントシテ。營造（神事ニ擬テ、タル道具類。）未タ成ラザル者。及ヒ供祭已ニ訖リ。廢闕（最早。神前ヨリ下ゲタルヲ。）

科ス、若シ他管ニ出、五十日ヲ過レバ、違令重ニ問ヒ、二年以ヲ以外ハ、脱籍逃亡律ニ依ル、

七雇ニテ人ヲ長ト雖モ、所在及ビ他管ノ者ハ、脱籍逃亡ヲ以テ論ス、但書ノ通、

年六月二日指令
家ノ例ヲ以テ、論スベシ、
○郷
七年二月三日指令
社ノ例ヲ以テ、論スベシ、
○青森縣伺
本律村社ノ儀不相見候、村社ノ神御神寶ヲ盗ム者、尋常民家ノ物ヲ竊盗致候者ト差別無之候哉、
七年二月三日指令
社ノ例ヲ以テ、論スベシ、
○郷
三重縣伺
例第百二十二條、大祀大社ノ神御神寶ヲ盗ム者云々其神前ノ賽錢ヲ盗ム者ハ、如何處分可致哉、
七年四月廿三日指令
大祀大社神前ノ賽錢ヲ盗ム者ハ、各盗罪ヲ以テ論シ、罪、綛ヲ改正
○入ル、指令
岐阜縣伺
大小社ヲ問ハズ、旗幟帷幕等ノ祭祀ニ相用フル品、神御物ト見做候モ如何ト存候、右ハ何樣見込宜敷哉、

賊盗律

盗大祀神御物

此律ハ。盗ミ惡事ノ名ヲ云フ。大祀ハ。大ノ字ノ會ノ類ヒ。神御物ハ。神ニ供ヘル物ヲ云フ。

凡大祀ノ神御物。及ビ大社ノ神寶（神社ノ藏ノ寶品）ヲ盗ム者ハ。皆絞。其神御ニ供セントシテ。營造（神事ニ擬テ、タル道具類。）未タ成ラザル者。及ヒ供祭已ニ訖リ。廢闕（最早。神前ヨリ下ゲタルヲ。）

七年四月廿三日指令
旗幟帷幕等、既ニ殿内ニ進奉セシ上ハ、即神御物ト心得可シ、

○七神物祀ニ○

新川縣伺
神御物トハ何々ヲ指シ候哉、神輿ノ如キハ、神御物ト相心得可然哉、
年六月三十日指令
興、其他牀几帷慢祭器等ノハ、即チ神御物ナリ、但大ニ所用スト雖モ應薦ノ物非ラザレバ此限ニアラズ、
滋賀縣伺
御省日誌本年第七十五號三重縣伺御指令ニ、大祀大社神前ノ賽錢ヲ盜ム者ハ、各盜罪ヲ以テ論レ、罪懲役終身ニ止ル、官幣國幣大中小社、及ヒ府縣社神前ノ賽錢ヲ盜ム者ハ、各盜罪ニ準シテ論ストアリ、監守常人

ムモヒ。凡テ此律ハ勿論。外ノ箇条ニモ。上ヲ照シ。下ヲ畧スル法アリテ。此箇条ニ。其筋ノヿヲ言フキハ。前ニ其ヿヲ聢ト云ヒテ。後ニハ畧スル類ナリ。此廢閑スル者トハ。廢閑スルヲ盜ム者ハト云フヿナリ。前ニ神寶ヲ盜ム者ハトアル故。後ハ皆同ジヿナレバ。ヲ盜ムノ三字ヲ畧セシナリ。凡テ見合セテ濟ヿハ勿論。文ノ續キニテ分ルヿハ。衍ノスル文字ヲ費サスナリ。

者ハ。皆徒二年。若シ饗薦ノ具。（神前ヘ。ソナヘ物。）饌呈（神前ニ供ヘル。）セシトシテ。祀所ニ入ル、者ハ。（神事ノ場所ニ持込ミシ物ヲ。盜ム者ハナリ。）皆

第七

盜ヲ以テ論スル者モ、賽錢ニ限リ、一ハ罪、懲役終身ニ止メ、一ハ懲役十年ニ止ルハ、如何ノ權衡ニ候哉、但シ本文、其死罪ニ入ラザルハ、人ノ監守スルヿナキ賽錢ヲ盜ム者ノ事ニテ、人ノ看守スル賽錢ヲ盜ムハ、各盜罪ヲ以テ論スル儀カトモ存候得共、監守者、自ラ盜ム者モ、仍ホ準シテ論スルハ如何ト疑ヲ生ス、前條各盜罪ニ準レテ論スルハ、常人、府縣社以上ノ賽錢ヲ盜ムトキハ、常人盜ニ準レテ論シ、鄕村社ハ、凡盜ニ準レテ論レ可然哉、
年十一月十五日指令
一條　三重縣指令ハ左ノ通リ改正ス、
大祀大社神前ノ賽錢ヲ盜ム者ハ、各盜罪ヲ以テ論シ、眞犯ト同ク

徒二年。未タ祀所ニ入レサル（假令バ。悠紀主基ノ膳屋ニアリテ。未神前ニ移サヌ物ナリ。）者ハ。皆徒一年半。已ニ廢閑スル者ハ。皆杖九十。釜（カマ）甑（コシキ）刀（小刀）匕（サジ）○此ラハ。供ヘ物ニテハナク。神事ノ為ニ用ル官物ナリ。同ク官物ナレド。大祀ニ用ル物ナレバ。尋常官物ヲ盜ムヨリハ。一等重キナリ。ノ屬ハ。各盜罪ニ。一等ヲ加フ。

盜大祀神御物條例

第百二十二條　凡大祀大

科ス、官國幣大中小社以下ノ賽錢ヲ盜ムモ亦同シ、但書本文ニテ會得ス可シ、

第二條　前條ノ通リ心得ベシ、但シ前條ノ各盜罪トハ、監守竊盜ヲ云フ、

○白川縣伺

凡伊勢神宮、及ヒ宮中神殿ノ外、官國幣大中小社府縣郷社神殿内ヘ、進奉セシ旗幟帷幕刀劔鏡面、其他珍器等ハ、一切神御物ヲ以テ論シ、大社ハ懲役十年、中社ハ同三年、小社ハ同二年半、府縣社ハ同百日、郷社ハ九十日、贓ニ計ヘ、重キ者ハ各盜罪ヲ以テ科斷可然儀ト奉存候處、其拜殿内ヘ奉納、百ノ器物、並ニ境内ヘ建アル旗幟ヲ盜者ハ、如何處分可致裁、

七年十二月廿七日指令

社ノ神御神寶ヲ盜ム者ハ、皆絞、改テ懲役終身、

第百二十三條　凡伊勢神宮、及ヒ宮中神殿ノ神御神寶ヲ盜ム者ハ、例ニ依リ、懲役終身ニ處スル外、官幣、國幣、大社ノ神御神寶ヲ盜ム者ハ、懲役十年、中社ハ、懲役三年、小社ハ、懲役二年半、府縣社ハ、懲役百日、郷社ハ、懲役九十

拜殿或ハ境内ニ奉納シ置ク物品ヲ盜ム者ハ、贓ニ計ヘ、各盜罪ヲ以テ論ス可シ、

○廣島縣伺

変ニ十圓五十錢ノ、竊盜アリ、内一圓五十錢ハ、縣社拜殿ノ金具ヲ盜ニ付、例第百二十三條ニ照シ、盜大祀神御物條、金龍刀七ノ屬ヲ盜ニ準シ、竊盜罪ニ一等ヲ加ヘ、懲役七十日申付、剰ハ九圓ノ竊盜贓、二罪倶ニ發スル、例ニ照シ、不問ニ置可然裁、尤事小異アリト雖モ、本年大坂裁判所ヘ御達書ニ、竊盜贓十五圓餘、懲役七十日、再犯ニ係ルヲ以テ、一等ヲ加ヘ、二十圓懲役八十日ト做シ、詐欺取財ノ贓、九十五圓餘ニ併セテ、百十五圓以上、懲役七年ニ處スベシトアリ、是ヲ以テ推類セハ、

日、贓ニ計ヘ、重キ者ハ、各盜罪ヲ以テ論ス、

官幣ハ、太政官式部寮ヨリ使ヲ遣ハシ幣ヲ奉ゲ祭ル社ナリ、此官幣ノ内ニ大社二十九座、中社六座アリ、國幣ハ、式部寮ヨリ幣ヲ渡シ、府縣官奉行シテ祭ル社ナリ、此國幣ノ内ニ、中社四十五座、小社十七座アリ、府縣社ハ府縣ニテ祭ル社ナリ、郷社ハ其土地ニテ祭ル社ナリ、贓ニ計ヘトハ、ソレ〳〵懲役ノ仕置ノ定メアレド、其盜ミ品ヲカゾヘ、罪重キ者ハ何レモ盜罪ノ科ヲ強盜以下ニ見合セテ

○同

前章モ亦併贓シテ、十圓以上懲役七十日ヘ、一等ヲ加ヘ、懲役八十日ヘ、二等ヲ加ヘ、徒一年ヘ、三等ヲ加ヘ、流罪ヘ、一等ヲ減シ、遠島ヘ、二等ヲ減シ、死罪ヘ、三等ヲ減シ、各盜罪ヲ以テ論ス、

第二條　社寺境内ノ官有ニ係ル樹木ヲ盜伐スル者ハ、常人盜ニ准シテ論シ、其境内官有ニ係ラサル者ハ、竊盜ニ准シテ論ス、

第三條　官幣大社ノ境内ニ在ル、攝末社ノ神御神寶ヲ盜ム者ハ、小社ニ准シテ一等ヲ減シ、官幣中小社ハ、府縣社ニ准シテ一等ヲ減シ、府縣社ハ、各盜罪ヲ以テ論ス、

○箱館裁判所同

官幣大社ノ境内ニ在ル、攝末社ノ神御寶ヲ盜ム者ハ、小社ニ准シテ一等ヲ減シ、官幣中小社ハ、府縣社ニ准シテ一等ヲ減シ、府縣社ハ、各盜罪ヲ以テ論ス、

第四條　凡乘輿ノ服御物ヲ盜ム者ハ、斬ニ處シ、

盜乘輿服御物

此條ハ。御名ノ品ヲ盜ミ。服御物トハ。御身近ニ召サル、品ナリ。

○同

然ルヲ同視スルニ似タリ、然ルニ當ナラサルニ、故ニ一等ヲ加ヘ可シ、然ラハ、

八年四月二十九日指令

○同

前章モ亦併贓シテ、十圓以上懲役七十日ヘ、一等ヲ加ヘ、懲役八十日ヘ、二等ヲ加ヘ、徒一年ヘ、三等ヲ加ヘ、流罪ヘ、一等ヲ減シ、遠島ヘ、二等ヲ減シ、死罪ヘ、三等ヲ減シ、各盜罪ヲ以テ論ス、

第一條　官幣大社ノ境内ニ在ル、攝末社ノ神御神寶ヲ盜ム者ハ、小社ニ准シテ一等ヲ減シ、官幣中小社ハ、府縣社ニ准シテ一等ヲ減シ、府縣社ハ、各盜罪ヲ以テ論ス、

第二條　社寺境内ノ官有ニ係ル樹木ヲ盜伐スル者ハ、常人盜ニ准シテ論シ、其境内官有ニ係ラサル者ハ、竊盜ニ准シテ論ス、

盜乘輿服御物

凡乘輿ノ服御物ヲ盜ム者ハ、斬ニ處シ、

○同

然ルヲ同視スルニ似タリ、然ルニ當ナラサルニ、故ニ一等ヲ加ヘ可シ、然ラハ、

八年四月二十九日指令

○同

然ルヲ同視スルニ似タリ、然ルニ當ナラサルニ、故ニ一等ヲ加ヘ可シ、然ラハ、

八年四月二十九日指令

○同

前章モ亦併贓シテ、十圓以上懲役七十日ヘ、一等ヲ加ヘ、懲役八十日ヘ、二等ヲ加ヘ、徒一年ヘ、三等ヲ加ヘ、流罪ヘ、一等ヲ減シ、遠島ヘ、二等ヲ減シ、死罪ヘ、三等ヲ減シ、各盜罪ヲ以テ論ス、

第一條　官幣大社ノ境内ニ在ル、攝末社ノ神御神寶ヲ盜ム者ハ、小社ニ准シテ一等ヲ減シ、官幣中小社ハ、府縣社ニ准シテ一等ヲ減シ、府縣社ハ、各盜罪ヲ以テ論ス、

第二條　社寺境内ノ官有ニ係ル樹木ヲ盜伐スル者ハ、常人盜ニ准シテ論シ、其境内官有ニ係ラサル者ハ、竊盜ニ准シテ論ス、

盜乘輿服御物

凡乘輿ノ服御物ヲ盜ム者ハ、斬ニ處シ、

此條ハ。御名ノ品ヲ盜ミ。服御物トハ。御身近ニ召サル、品ナリ。

○東京裁判所伺
長官若シクハ次官ノ氏名

ハ。皆絞。其服御ニ供（調進セリ）セントスル者。及ビ既ニ供シテ。廢闕（御下リ）スル者。若クハ食御（召上リ物ナリ）ニ供セントスル者ハ。皆徒二年。帷帳ノ屬ハ。皆徒一年半。

盜乘輿服御物，條例

第百二十四條　凡乘輿ノ服御物ヲ盜ム者ハ。皆絞。

改テ懲役終身。

盜官文書，

○北條縣伺
凡官私ノ印ヲ盜ミ、或ハ偽ル

ヲ記シ、其自名ヲ押捺スル上申、諸公文、假令ハ官省ニ上ル及ヒ諸伺、或ハ他縣往復ノ文書ノ類ハ、餘ノ文書ヲ復ノ汉テ論ス可キ哉、

八年二月二十四日指令
縣ノ文書ヲ以テ論ス、

比條ハ。公ケノ帳面類ヲ盜ムヲ云フ。官ハ。太政官ナリ。

凡官ノ文書ヲ盜ム者ハ。皆杖一百。省臺寮司府藩縣ノ文書ハ。並ニ二等ヲ減シ。餘ノ文書ハ。各五等ヲ減ズ。重事ニ關スル文書ハ。各一等ヲ加フ。規避スル所アル者ハ。重キニ從テ論ス。（重事規避ノ）

（ハ。棄ー毀ー官ー文ー書ノ條ニ出ル。）

盜官印，

造スル者モ、印影ヲ盜賣スルモ本印ヲ盜賣スルト、同樣ニ相心得候哉、

省臺察司府縣ノ印ハ、其廳ノ印ニテ、譬ハ省中調用スル者、其掛ノ印ヲ盜賣スル者ハ、失張省ノ印ト見做シ候哉、

證券印紙ヲ盜ム者等ハ、官印ヲ盜ム筋ニ候哉、

一年二月十二日指令

官ノ印影ヲ盜ム者ハ、凡テ律ニ依リ、私ノ印影ヲ盜ム者ハ、律ニ依テ論ス、若シ行使シ、又ハ財ヲ得ル者ハ、贓ニ計ヘ、各官ニ從テ論ス、

第二條可ニ、餘ノ印ヲ以テ商賈ニ賣捌所、及ヒ以テ商賈ニ論ス、

第三條

凡官ノ印ヲ盜ム者ハ、皆流三等。省臺察司府藩縣ノ印ハ。皆徒三年。餘ノ印ハ。杖八十。

盜官印條例

第百二十五條　凡私ノ印ヲ盜ム者ハ。懲役七十日。因テ財ヲ得ル者ハ。贓ニ計ヘ。各盜罪ヲ以テ。重キニ從テ論ス。

此條ハ。公ケノ印章ヲ。盜ムヲ云フ。

私印ハ。銘々ノ印形ナリ。人ノ印ニテ。財ヲ取レバ。盜賊ノ律ノ内ニ當テ。重キ方ニ就テ斷クナリ。

在ルヲ盜ム者ハ、其價ヲ贓ニ計ヘ、竊盜ヲ以テ論シ、官ニ在ルヲ盜ム者ハ、常人ノ盜ヲ以テ論ス、

○敦賀縣伺

例第二百八十六條、人ノ邸宅内ニ於テ、人ノ遺忘ヒ去ルノ實印ヲ竊取スル者ハ、律令第二十五條ノ盜罪ニ準シ論スヘキ哉、

年三月二十八日指令

伺ノ通、

○白川縣伺

縣印ニ大〔兼テ政府ヨリ御渡ノ縣印ヲ大〕云〔小〕〔御規則ニ縣ニ依リ縣地ニテ彫刻セシアリ其大ナル〕二ツ印ヲ〔云〕者ハ判任官徴用ノ辭令、及ヒ其他重事ニ關スル者ハ、諸公文ノ證ニ用ヒ、小事ノ諸公文ニ用フル者ハ、然ニ職制律兼ニ毀官文書條例、縣ノ印ハ徒三年ト減アリ右縣ノ印ハ其大印ヲ指シ候儀ト相見候ニ付、其小印ハ四課ノ印ヲ以テノ論スベク哉、

○平城宮擬

八年一月九日指令

素出入取締ノ寛嚴、及ヒ犯人ノ輕重ニ問ヒ可然哉、御墓ハ一般ノ寶際ニ依ラサレハ、豫メ書ヲ以テ伺出ヘシ。

京都裁判所伺

司法省本年日誌第二十九號滋賀縣伺ノ御指令ニ、窃盜ノ如キ、貸銀ヲ取扱ヒ、其人ノ財物ヲ預ル十ニ、容易ニ取ハ、只管大切ニ其人ヲ取扱ヒ、可キ職ヲ以テ、窃ニ業ヲ取ル者ハ、賊ニ計ヘ。本罪ヨリ重キ（杖一百ノ仕置ナレド。其杖一百ノ罪ヨリ重キナリ。）ハ。皆杖一百。若シ賊ニ計ヘ。首從ヲ分タス。贓ヲ併セテ。罪ヲ論シ。窃盜ニ。二等ヲ加フ。

○奈良縣伺

御陵ニ柵構ナク、周池ヲ以テ、兆域ヲ立ツアリ、若シ池ノ中ノ細魚ヲ獲、或ハ乾水ノ池ノ時、池中繁生ノ笋蓴草類ヲ採去ル者ノ類ハ、違令ノ輕重ニ問ヒ可然哉、御墓ハ一般ノ寶際ニ依ラサレハ、豫メ書ヲ以テ伺出ヘシ。

八年二月二十四日指令

縣名アレハ、印ノ大小ヲ論セス、縣ノ文書ヲ以テ論スヘシ。但シ遺失誤毀スルト、盜ムトハ、自ラ輕重區別アリ、

盜兵器

凡兵器ヲ盜ム者ハ。賊ニ計ヘ。（代金ニ積ルナリ）窃盜ヲ以テ論ス。官ノ兵器（公ケノ兵器ヲ云フ）ハ。一等ヲ加ヘ。守衛（守衛ニ備ヘタルノ兵器ハ。又一等ヲ加フ。

盜園陵內草木

凡園陵內ノ草木ヲ盜ム者ハ。皆杖一百。若シ賊ニ計ヘ。首從ヲ分タス。贓ヲ併セテ。罪ヲ論シ。窃盜ニ。二等ヲ加フ。

監守自盜

此條ハ。改メ役。預リ役ノ身ニテ。其改メ預ルノ品ヲ。盜ムヲ云フ。

凡監臨（官司ノ事ヲ統ヘ治ムルヲ云フ）主守（自ラ監守スルノ預ル所ノ）財物ヲ盜ム者ハ。首從ヲ分タス。贓ヲ併セテ。罪ヲ論シ。窃盜ニ。二等ヲ加フ。

昨年十二月當裁判所ヨリ、雇人又ハ客塵倉庫等ニテ、寄託ノ財物ヲ一時融通情表守盜秦可ス々、云々ニ出費用ニ、追テ償還ノ監守盜ニ可ス擬相當ノ旨、伺ノ通、

七年八月二十日指令ハ、盜ト費用ヲ塵倉庫等ニ費ス者ニ謂フ、寄託ノ財物并賃錢迄モ、仍ホ監守盜ニ論ス可キ哉、

滋賀縣伺

滋賀縣ノ伺ノ通、心得可シ、

○

路上行人ノ荷物并賃錢迄モ、仍ホ監守盜ニ論ス可キ哉、

滋賀縣伺

滋賀縣ノ伺ノ通、心得可シ、

○

和歌山縣ヘ達書八年四月

昨明治七年十二月三日附ヲ以テ伺出相成候、第一條、一時融通ノ為メ費用ニ、還償ノ意、第二條、還償ノ意ニテ、指揮之盜情緒有無ニ依リ、可ス擬相當ノ旨、伺ノ通、

八年三月十二日指令

○

伺ノ通、

昨年十二月當裁判所ヨリ、雇人又ハ客塵倉庫等ニテ、寄託ノ財物ヲ一時融通情表守盜秦可ス々、云々ニ出費用ニ、追テ償還ノ監守盜ニ可ス擬相當ノ旨、伺ノ通、

七年八月二十日指令ハ、盜ト費用ヲ塵倉庫等ニ費ス者ニ謂フ、寄託ノ財物并賃錢迄モ、仍ホ監守盜ニ論ス可キ哉、

滋賀縣伺

滋賀縣ノ伺ノ通、心得可シ、

○

路上行人ノ荷物并賃錢迄モ、仍ホ監守盜ニ論ス可キ哉、

滋賀縣伺

滋賀縣ノ伺ノ通、

○

和歌山縣ヘ達書八年四月

昨明治七年十二月三日附ヲ以テ伺出相成候、第一條、一時融通ノ為メ費用ニ、還償ノ意、第二條、還償ノ意ニテ、指揮之盜情緒有無ニ依リ、可ス擬相當ノ旨、伺ノ通、

八年三月十二日指令

加フ。

誰ガ造意。誰ナク。其罪ヲ二段定ミ。重ノ。品云ト。従ノ。

二十兩以上。杖一百
三十兩以上。徒一年
四十兩以上。徒一年半
五十兩以上。徒二年
六十兩以上。徒二年半
七十兩以上。徒三年
八十兩以上。流一等
九十兩以上。流二等
一百兩以上。流三等
二百兩以上。絞

増加 明治六年七月廿四日第二百六十七號御布告ニ付。官ニテ。人ヲ。罪ク。窃ヲ。盜ヲ。合ガ。算シ。罪ヲ。四十兩ハ。合セ。盜ミテ。一人ノ。罪ニモ。四十兩ヲ。以下ノ。金高ヲ。盜ム。ハ。杖罪七十。

一兩以下。杖七十
一兩以上。杖八十
一十兩以上。杖九十

此段更ニ及ヒ御達候也、

別紙

監守盗ヲ以テ論シ、情状ヲ酌量シテ減等スベシ、

○筑摩縣伺六年九月十五日

指令

過造ノ酒、已ニ官ニ入リ、封印アルヲ盗ミ、又其殘酒ニ、水ヲ混シテ、腐敗セシノ、其價ヲ減損スルニ至ル、並ニ贓ニ計ヘ、常人盗條律以上併セテ罪ヲ科ス、賊盗律九十圓以上懲役五年ノ賊金九十一圓餘ノ平林弥門ノ類ハ、何ノ財物ヲ盗ムヲ云フ。

凡監守盗。再犯スル者ハ。財ヲ得スト雖モ。一等ヲ加フ。三犯三十匹以下。懲役終身。三十匹以上。絞。

増加 明治六年十月十七日第三百四十九號御布告

凡監守自盗。財ヲ得サル者ハ。懲役六十日。

其監主自盗ヲナシテ。未タ得ザルモ。証據分明ナレバ。六十日ノ懲役ヲ受ルナリ。

常人盗

此條ハ。改メ役。預リ役ニテモナキ人。公

○岡山縣伺

現令陸軍省所轄ニテ、監人之レ無キ、岡山城西丸ノ締リヲ破リ、忍入疊建具等ヲ盗取候者ハ、何律ニ依リ、處斷致シ可ク然哉、

七年二月九日指令

盗人ヲ以テ論ス、

○常

京都府伺

京都裁判所伺

懲役場ニ於テ、役囚ノ毎ニ法被一枚帯ノ貸シ渡シ、役ニ服スル處、初ヨリ拠ナク情狀著ハレ放チ、用ノ儘脱逃シ、途ニ在リ、差支ヨリ、法被ヲ賣却シ、之ヲ用ニ代價費用スル者アリ、

凡常人。官ノ財物（米金ノ類ヲ云フ。）ヲ盗ミ。財ヲ得ザル者ハ。首従ヲ分タス。贓ヲ併セテ。罪ヲ論シ。竊盗ニ。一等ヲ加フ。

一兩以下。杖六十

一兩以上。杖七十

一十兩以上。杖八十

斷スル、其法被ノ貸價ヲ駈ヒ、計ヘ、詐欺取財律、拐帶ヲ以テ論スル可キ哉、將タ其官ヲ以テ、常人盜ヲ以テ論ス可キ哉、

○七獄費ス可シ、愛知縣伺

竊盜三犯ニ用ユル器具ヲ、其職工ニ非ス、徵役十年ノ囚ア竊取スル者、監守自盜ヲ以テ論シ、犯數ニ計ヘ、竊盜ヲ以テ論レ可レ然哉、

○七伺ヲ官ト○人民公納金穀ヲ、區戸長役ヲ以テ貸與物ニ係ラハ、常人盜ヲ以テ論スル哉、

官ト○人民公納金穀ヲ、區戸長役ヲ以テ貸與物ニ係ラハ、常人盜ヲ以テ論スル哉、

官廳未タ受領セス、戸長役場ニ在ル、公納金穀ヲ以テ論スル者ハ、常人盜ヲ以テ論スル者ト雖モ、公納ニ非ス、

官廳未タ受領セス、戸長役場ニ在ル、公納金穀ヲ以テ論スル者ハ、常人盜ヲ以テ論スル者ト雖モ、區戸長役場ニ收メ、官廳未タ受領セサルノ際、右役場或ハ鄉宿等ニテ盜ミ取ル者、常人盜ヲ以テ論スルヤ、將凡盜ヤ

八年十月九日指令

官廳未タ受領セス、戸長役場ニ在ル、公納金穀ヲ以テ論スル者ハ、常人盜ヲ以テ論スル者ト雖モ、區戸長役場ニ收メ、官廳未タ受領セサルノ際、右役場或ハ鄉宿等ニテ盜ミ取ル者、常人盜ヲ以テ論スルヤ、將凡盜ヤ

盜ム者ハ、亦其鄉宿ニ在ル者ト雖モ、公納ニ非ス、區戸長役場ニ收メ、官廳未タ受領セサルノ際、右役場或ハ鄉宿等ニテ盜ミ取ル者、常人盜ヲ以テ論スルヤ、將凡盜ヤ

盜ム者ハ、亦其鄉宿ニ在ル者ト雖モ、公納ニ非ス、區戸長役場ニ收メ、官廳未タ受領セサルノ際、右役場或ハ鄉宿等ニテ盜ミ取ル者、常人盜ヲ以テ論スルヤ、將凡盜ヤ

常人盜ヲ以テ論ス、

常人盜條例

第百二十六條　凡常人。官ノ財物ヲ盜ム者。二百五十兩以上。絞。二處スル律ヲ改ム。二百五十圓以上。懲役終身。三百圓以上。絞。

增加　明治六年七月二十四日第二百六十七號御布告

凡常人盜。再犯スル者ハ。財ヲ得スト雖モ。一等ヲ加フ。三犯四十圓以下。懲役終身。四十圓以上。絞。

二十兩以上。杖九十
三十兩以上。杖一百
四十兩以上。徒一年
五十兩以上。徒一年半
六十兩以上。徒二年
七十兩以上。徒二年半
八十兩以上。徒三年
九十兩以上。流一等
一百兩以上。流二等
一百一十兩以上。流三等
二百五十兩以上。絞

○東京裁判所伺
竊盜四犯以上、及ヒ初犯再犯竊盜ニシテ、三犯不持兇器強盜ノ類、本條ニ無之候へ共、懲役終身ニ被處候裁
六年七月十九日指令
同ノ通、
○山梨裁判所伺、六年七月二十五日指令、
巳ニ財ヲ得テ、夥伴、事主ヲ縊殺スト雖モ、其人蘇生スルニ由リ、止タ傷ヲ以テ論ス、賊盜律強盜係不持兇器強盜人ヲ傷ス、絞罪〔贓金十三圓餘〕
○新治裁判所伺、六年八月十六日指令、
強盜ニ脅迫セラレ、畏懼隨行スト雖モ、瞭望ノ体ニ仕成シ、其場ヲ遁レ、文賊ノ所在ヲ告テ、捕縛セシムルヲ以テ、其情狀ヲ原諒シ、罪ヲ問ハス、唯其

強盜

凡強盜。兇器ヲ。持セス。威力ヲ以テ。人ヲ劫シ。財ヲ得サル者ハ。皆徒二年。財ヲ得ル者ハ。贓ヲ分タスト雖モ。贓ヲ併セ。首從ヲ分タス。罪ヲ科ス。人ヲ殺ス者ハ。皆斬。人ヲ傷スル者。財ヲ得サルハ。首從ヲ分チ。財ヲ得ルハ。皆絞。
其兇器ヲ持スル者ハ。財ヲ

他管ニ潜スルノ罪ヲ責メ、例第百二十條ヲ以テ論シ、贖罪金三圓
○岡山縣伺、六年一月三十一日指令
野屍助三郎
本條竊盜未タ室ニ入リ、財ヲ捜セス外ニ在テ瞭望シ、財物ヲ接遁スル者ハ云々、本犯ニ一等ヲ減ストアルニ依リ、懲役十年、減法ハ原律ニ依ル、幼少ニ付、收贖セシムベキ所無カニシテ贖フヿ能ハス、平民犯罪不實斷條例ニ照シ、五等ヲ減シ、懲役二年〔贓金二十一圓〕
竊盜罪ハ輕シ、論ゼス、
○島根縣同
困窮ユヘ、兄幸助ヨリ、飯米餽リ呉、且多分ノ世話ヲ受候モ、猶不滿ニ存シ、十分他物モ可貪取ト、當六月六日、剔骨尖刀ヲ懐ニシ、兄ノ

得スト雖モ。皆流二等。人ヲ殺ス者、皆斬。人ヲ傷スル者。財ヲ得ルハ。首從ヲ分チ。財ヲ得サルハ。皆斬。
其藥酒等ヲ以テ。人ヲ醉迷セシメ。財ヲ圖ル者ハ。不持兇器ヲ以テ論ス。
若シ盜ニ因テ姦スル者ハ。成否ヲ論セス。絞。
不持兇器
五兩以下。徒二年半

強盜例

強盜未タ室ニ入リ財ヲ搜セス、財ハ賊ノ公ニ在テ瞭望スル等ヲ公タサルヲ論セス、本犯ニ一等ヲ減シ流一等ヲ減スルノ例ニ依リ、懲役十年、三流ハ懲役十年ニ照シ、以テ、名例律犯罪自首條ニ照シ、免罪

但本罪贓金二十四圓餘ニ滿タサル者ハ、贓ヲ公タスト雖モ、贓ヲ併セ、首從ヲ分タス。罪ヲ科ス。（假令ハ二人ニテ金二十兩以上。徒三年ニ科スヘシ、）

六兇食サル財物ヲ得者、薪炭ヲ弄シ、其兄ノ家ニ迫リ、遂ケ強盜ニ、衛ヲ以テ兵ヲ持兇器ヲ以テ黑田卯擬ス、前律ニ在ル例ニ依リ、懲役七年ニ處ス。（假令ハ二人ニテ金五兩以上。流一等ニ科スヘシ、）

七年三月九日指令

計ヲ科スヘシ、

○新治縣伺

強竊盜、門戶牆壁ヲ毀損スル者ハ、贓ニ計ヘ、棄毀器物シ可稼穡條ニ依リ、罪ヲ科シ可然哉、

七年三月九日指令

贓ノ限ニ在ラス、止タ盜罪ヲ科スヘシ、

○滋賀縣伺

強竊盜、門戶牆壁ヲ毀損スル者ハ、贓ニ計ヘ、棄毀器物シ可稼穡條ニ依リ、罪ヲ科シ可然哉、

追徵スヘシ、

改正強盜律

凡強盜。兇器ヲ持セス。（刃ハ物ヲ携ヘズ）威力ヲ以テ。人ヲ劫シ。財ヲ得サルヲ。（盜ト。空手ニテ。這入リ去リタレトモ。）何品ニ限ラズ。其家ニ在ル內ハ。財ト云フ。

第百二十七條

者ハ。皆懲役二年。財ヲ得ル者ハ。贓ヲ公タスト雖モ。贓ヲ併セ。首從ヲ分タス。罪ヲ科ス。（假令ハ二人ニテ金五兩以上。徒三年ニ科スヘシ、）

一十兩以上。流一等

一十五兩以上。流二等

二十兩以上。流三等

三十兩以上。絞○再犯ハ。

財ヲ得スト雖モ。絞。

持ス兇器ヲ

五兩以下。流三等

五兩以上。絞

一十兩以上。斬○再犯ハ。

財ヲ得スト雖モ。斬。

○新治縣伺

日指令依テ裁判定所擬伺ス、

六年九月八

宅ヘ推參シ、幸助夫婦ノ面前ヘ胡坐シ、尖刀ヲ逆手ニ拿リ、疊ヘ衝立テ、生米ヲ嚙ミ命ハ繫キ難シ、猶魚塩ヲ嚙ムカ如ク、否サレハ殺害シ、自分モ屠腹スヘシト罵リ威シ大勢ノ者聞付候ヤ、上ケヤラレテ、殺意無之ニ付、其儘逃出候、

駈來候所、元來欲心ノミニテ、尖刀ヲ取上ケヤラレテ、殺意無之ニ付、其儘逃出候、

近隣ノ者聞付候ヤ、大勢ニテ、殺意無之ニ付、其儘逃出候、

○官崎縣伺
凡數人共ニ強盗ヲナシ、内一人器ヲ持スレバ、其餘兇器ヲ持セサルモ、皆持兇器強盗ヲ以テ論シ可レ然哉

七年三月二十三日指令
兇器ヲ持スルノ情ヲ知ラサレハ、共盗ノ者ハ、不持兇器強盗ヲ以テ論ス、

○堺縣伺
例、強盗條、若シ盗ニ因テ姦スル者、成否ヲ論セス、絞ト云リ、此ノ一節、文體ヲ考レハ、持不持兇器ニ通論スルカ様ニモ相覺ヘ候ヘ共、前第二條ニ文照スレバ、不持兇器強盗ハ、因テ姦スル、亦ク終身懲役ニ可ニ科断一裁

七年四月十日指令
ニ依テ姦スル者ハ兇器ノ持不持、姦ノ成否ヲ論セス、絞

圓ヲ盗ミ。其儘ニテ。未ダ十圓ヅヽ二人ニテ分配セズモ。其二十圓ヲ造意ト。隨従トノ差別ナク。一人ニテ。二十圓ヅヽ盗ミタル罪ニ捌クナリ。其家ノ品。賊ノ手ニ渡リシ上ハ。贓ト云フナリ。

人ヲ殺ス（盗ミノ為ニ殺スナリ）者ハ。皆斬。人ヲ傷スル（疵負ハスルナリ）者ハ。皆絞。其殺傷ニ與ラサル者ハ。止タ盗罪ヲ科ス。

強盗ヲ働キタレドモ。人ヲ殺シ。人ニ疵負セタル輩ニ加ハラヌ者ハ。強盗ノ本律ノミニテ。財ヲ得ル罪、重キ者ハ重ニ従科ヲ申付ルナリ。

テ論ズ、

○新治裁判所伺
常陸國新治郡狸内村農善左衛門弟須藤歌三郎處刑ノ儀、奉伺置處、持兇器強盗ノ瞭望二次ニ及フ者、減等ノ例ヲ用ヒス云々、懲役三年ト御指令相成、然ルニ瞭望二次ニ及フ者ハ、減等ノ例ヲ用ヒザルノ御決定ハ、處犯ノ後ニ在ルヲ以テ、例第百條ニ照シ、聊疑惑致シ候間、處刑見合、此段奉伺候也、

七年十月九日指令
強盗ノ瞭望二次以上ニ至ル者ハ、犯罪ノ前後ヲ論セス、總テ減等ノ例ヲ用ヒス、前擬ノ通、處斷スベシ、

○司法省裁判所問合書
第一條、例御頒布以前ニ係

其兇器ヲ持スル者（刃物ヲ執ル）者ハ。財ヲ得スト雖モ。首ハ絞。従ハ。懲役終身。財ヲ得ル者ハ。皆斬。其財ヲ得スト雖モ。人ヲ殺傷スル者。亦同シ。

首トハ。強盗ノ發起人ナリ。従トハ。發起人ニ隨従セシ者ナリ。亦同ジトハ。上ノ皆斬ト同ジク。斬罪ニスルナリ。

其藥酒（毒酒ノ類ヒ）等ヲ以テ。

ル持兇器强盗三人アリ、其家ニ强盗ス、時ニ會マ捕吏ノ來ル有リ、賊散亂逃亡、互ニ黨類ノ所在ヲ知ラズ、又盗金ノ多寡ヲ知ラズ、後ニ乙丙ノ兩賊ヲ得テ、糺問スルニ、乙ハ金ヲ得サルヲ陳シ、丙ハ金一圓ヲ奪フヲ白ス、是ニ於テ事主ノ賊難届ヲ閲スルニ、金四十五圓ヲ失フトアリ、甲未タ縛ニ就スト雖モ、事主ノ言ヲ証トシ、甲既ニ四十四圓ヲ奪去ルト確定シ、甲乙丙ノ併贓四十五圓トシテ、乙丙ノ賊ハ、律ニ照シ斬罪ニ行フ歟、第二條第一條ノ通、事主ノ言ヲ証トシ、乙丙ヲ處刑ス、然ルニ、乙丙ノ家產併セテ四十五圓ノ盗金ヲ償フノ資アリ、是ノ家產ヲ追シ、事主ニ給スル歟、

人ヲ醉迷セシメ。醉ヒテ正體ナ
財ヲ圖ル財物ヲ手ニ入ント巧ム
者ハ。不持兇器ヲ以テ
論ス。刃物ヲ持タズ。强盗ノ罪ニ捌ク。
若盗ニ因テ姦スル
者ハ。成否ヲ論
ノ女ヲ犯ス。婦ニ序テ强盗ス。ベキ姦ルセ
通ニ仕掛ル恐ル身ハ。ホラ仍ヘ
成就不成就ニハナマ
ハズ。絞罪ニスルナリ。
絞。リ。人恐人

不持兇器
此段ハ。刃物ヲ持タ
ヌ。强盗ヲシタル金

第三條、第一條ノ通、乙丙ヲ所刑スル後、甲ヲ得テ鞫問スルニ、金圓ヲ奪ハスシテ、逃込スト言ヒ、罪ニ伏セス、終ニ拷訊ノ下ニ死スル時ハ、未タ甘結セサルニ依リ、盗名ヲ下スヲ得スト雖モ、已ニ乙丙ハ甲ノ故ヲ以テ死ニ入ハ、然レバ衆証明白テ、ルニヨリ、强盗ヲ以テ處分セザルヲ得ザルニ似タリ、果シテ然ラバ、甲ノ家產亦四十五圓ノ盗金ヲ償フ資アラバ、乙丙ノ家ニ分ツ歟、右件々決兼候ニ付、及ニ御問合候也、

七年十一月二日明法寮回答

書

第一條 罪ヲ斷スルハ、口供結案ニ依ルト、律ニ明文アレハ、止タ事主ノ斤言ヲ以テ、証佐ト為シ、賍ヲ計ヘ、罪

高ニ付テ仕置ノ別アルヲ云。

五圓以下。懲役二年半
五圓以上。懲役三年
十圓以上。懲役五年
十五圓以上。懲役七年
二十圓以上。懲役十年
三十圓以上。懲役終身○
再犯ハ。財ヲ得スト雖モ。懲役終身。

强盗條例

第百二十八條 凡强盗。未

ニ擬シ難シ、新律犯罪事發逃亡條ニ照シ、前獲ノ乙丙ハ、原律軽キニ依リ、持兇器強盗五圓以下、流三等ニ擬ス、

第二條　賠償ス可キ資力アレバ、贓金一圓ヲ乙丙ヨリ追徴シテ、事主ニ給ス、若シ甲捕獲ノ後、金數、事主ノ口供ト符合スルトハ、其節賠償ノ處分ス可シ

第三條　乙丙處斷ノ後、甲ヲ得テ、鞫問スルニ金ヲ得ズシテ逃亡スト言ヒ、其罪未ダ甘結セスシテ死亡スレバ、律例第三百十八條ニ依リ、証佐アリト雖モ、其罪ヲ論セス、

右及ヒ御回答候也、

○洪城裁判所、夫強竊ヲ為シ、持ツ所ノ贓物タルヲ辨ヘナカラ、之ヲ受ル妻ヾリ云々伺、

タ室ニ入リ。財ヲ捜セス。外ニ在テ瞭望シ。財物ヲ接遞スル者ハ。贓ヲ分チ。分タサルヲ論セス。本犯ニ。一等ヲ減ス。其造意者ハ。此限ニ在ラス。

人ノ家内ニ入テ。捜索セズ。外ニ在テ瞭望トテ。内ノ様子ヲ見認ルナリ。接遞ハ手送リニノ外ヘ出スヿナリ。其品ヲ分配シ。分配セザルニ拘ラズ。本犯人家ノ内ニテ直ニ物ヲ盗ミタル者ヨリ。一等ヲ減ズルナリ。假令家ノ外ニテ。手傳ヒ同様ノヿヲ為シタリ尺。發起人ノ分ハ。一等軽クモセヌナリ。

七年十一月十七日指令

第百三十一條ニ依テ處分ス可シ、

○杤木裁判所伺　七年十二月十五日指令

強盗中山榮八、竹篦ヲ以テ盗業相働罪案指令但書突殺スヘク旨申感ストト雖モ、殺傷ニ堪ヘサル云々處分ノ儀申出ノ趣、先般伺書中ニ、竹篦長サ五六寸ノ物ト有之ニ依リ、人ヲ殺傷スルニ堪ヘサルモノト見做シ、持兇器ヲ以テ論決セス、強盗ノ情状ニ緩急アリ、逞兇ノ意思亦軽重アリ、預メ竹木錢器ノ類、尺寸等ヲ以區分致置難ク候ニ付、犯者アラバ、其時々口供ヲ以テ可伺出儀ト可相心得事

○新川縣伺

強竊盗等、捕縛糺問ノ上、事主不相知贓物ハ、官沒ノ後、

第百二十九條

凡強盗。脅誘セラレ。畏懼隨行シテ。室ニ入リ。贓ヲ分ツ者ハ。本犯ニ二等ヲ減ス。若シ室ニ入ルト雖モ。贓ヲ分タス。及ヒ止タ外ニ在テ瞭望シ。財物ヲ接遞スル者ハ。贓ヲ分チ。分タサルヲ論セス。並ニ。三等ヲ減

拂下代金、御省ヘ相納來候
所、追テ商賈ノ店先、或ハ所
持人見當候趣ヲ以テ届出
候節ハ、御規則等申諭候ハ
勿論ニ候得共、情實ニ於テ
慣然ノ儀ニ付、以來其時々
廳下揭示場ヘ三十日間張
出シ、右限内申出候者於無
之ハ、拂下申渡、尤前以テ右
日限相過申出候共、下付不
相成旨、管下一般相達置度
此段豫テ相伺候也
八年一月七日指令
伺ノ通
○三重縣、強盗及ヒ闘歐、兵器
ヲ用ヒテ軽傷スルノ伺
八年一月二十五日指令
腰刀鎌鎗等ノ兇器ヲ用ヒテ
人ヲ傷スル者ハ、傷ノ軽重ヲ
論セス、懲役二年ニ處ス
○濱松縣伺八年一月三十一
日指令

ス。

脅誘セラレハ。強盗セ
ント。強テ誘引ルナリ。
畏懼隨行ハ。發起人ノ
勢ヒニ恐レ。餘義ナク。
後ニツキ
行ナリ。

第百三十條　凡強盗。未タ行ハスト雖モ。已ニ途ニ在テ。捕ニ就キ。盗情顕跡アル者。持兇器ハ。懲役三年。不持兇器ハ。懲役百日。

未ダ惡事ヲ働カヌ途
中ニテ。捕押ヘラレ。強
盗セントスル様子ノ。
慥ナル證跡アル者ハ。

該犯等、銀紙ヲ裁、尺様ノ竹片
ニ貼シ、抜刀ニ擬シテ、強盗ヲ
行フト雖モ、其品軽小ニシテ
人ヲ殺傷スルニ堪ヘサルヲ
以テ、例第二十七條不持
兇器強盗ニ擬シ、贓金九十圓
以上、
懲役終身　青木良太郎
同　長尾揔吉
○廣島縣伺八年三月三十日
指令
榮助ハ竊盗ヲ行ハントスル
ノ際、事主ニ執ヘラレ、振離チ
逃シトスルニ、適ル、ミチナ
ク、疵負ハスル者ニシテ、畏懼
ノ情有ルガ故ニ、罪人拒捕律
ニ依テ、懲役終身ニ擬定ス、友
吉ハ既ニ盗ミ得タルノ後、事
主ニ組付カレ、疵負ハセ、遂ニ
財物ヲ奪ヒ去ル者ニシテ、護
贓格闘、兇ヲ逞ウシ、畏懼ノ意
無キカ故ニ、強盗ヲ以テ論ス、

云々ノ仕置
スルナリ。

第百三十一條　凡強竊盗。同居ノ父母兄弟姉妹等。情ヲ知テ。贓ヲ分ツ者ハ。凡人ト同ク。分ツ所ノ贓ヲ計ヘ。竊盗ニ準シ。従ト為シテ論ス。

強盗。竊盗ヲ働キシ。賊
ノ家ニ同居スル身内
ノ者。其金子カ品物ノ
出ドコロヲ承知シナ
ガラ。分配ヲ受レバ。同
居ノ身内ナレド。他人
同志ノ盗ミ品ヲ分配シ
タルト同様ニ竊盗ノ

其狀相似テ、情同レカラズ、因テ前議ノ如ク、斬罪ニ處分スベシ、

○大坂上等裁判所伺

強盜、脅誘セラレ、畏懼隨行ニ次以上ニ及フ者ハ、本律ニ科スルノ明文有レ之候ヘ共、瞭望ニ次以上ニ及フ者ハ、然レドモ瞭望ノ明文ナシ、然レドモ畏懼隨行ヨリ重キ情狀ニ付、瞭望ニ次以上ニ及フ者ハ、仍畏懼隨行ニ次以上ニ及フ者ノ例ヲ援引シ、強盜本律ニ依テ、罪ヲ科シ可レ然哉、

八年十月二十二日

伺ノ通リ

○凡強盜ハ、本律ニ斬罪ニ處シ、瞭望ニ次以上ニ及フ者ハ、畏懼隨行ニ次以上ニ同シ、

第百三十二條　凡失火及隨從人ト。見儆テサバクナリ。破船等ノ難ニ乘レ。財物ヲ竊取スル者ハ。竊盜ヲ以テ論レ。搶奪スル者ハ。強盜ヲ以テ論ス。

第百三十三條　凡盜犯門

六年第二百六十九號ヲ以テ御頒布相成候條例ハ、例第百二十九條ノ如ク追加ノ條例ハ、例第百二十九條ニ付、事犯領例ノ前ニ依テ、總テ本律ニ照シ、例第百二十九條ニ、二次以上ト同シ、

○凡強盜ハ、本律ニ斬罪ニ處シ、瞭望ニ次以上ニ及フ者ハ、畏懼隨行ニ次以上ニ同シ、

戶牆壁ヲ破壞ノ盜犯ハ。賊ナリ。門扉。塀壁。等ヲ毀スナリ。人ノ覺知スルヲ畏憚セサル者ハ。強盜ヲ以テ論ス。覺知トハ人ニ知レルヲモ。畏レ憚テザルヲ。若シ火ヲ用ヒ。鎖鑰ヲ燬損。鍵ノ孔ヲ以テ。錠ヤ。鑿鋸ヒ。及ヲ以テ。戶壁ヲ穿ツト雖モ。強竊盜ヲ以テ論ス。強盜ヲ働ホ竊盜ヲ以テ論ス。

公平ニ相考候、依テハ畏懼隨行者、二次以上ニ及フト雖モ、事犯明治六年第二百六十九號公布以前ニ在ル者ハ、例第百二十九條ヲ原律ト為シ、同第百條照依シテ、減等ノ處分ニ相成候方可レ然哉、

八年十一月十日指令

伺ノ通、一例ノ前後ニ依リ、例第百條ニ照シテ區處スヘシ、例尤第二百六十九號頒布條例モ、本律ニ依テ科シ減等ヲ用ヒスト、アレ𪜈、裁判官見込ヲ以テ、酌量輕減スル儀ハ、適宜タルヘシ

キ。又ハ火付ケヲスル所存ニテハナク。タヾ財物ヲ盗ムノ。手段ヲセシ迄ノヿナレバ。ヤハリ竊盗ノ内ナリ。

増加 明治六年七月廿四日第二百六十九號御布告

凡強盜、脅誘セラレ。畏懼隨行。二次ニ及フ者ハ。本律ニ依テ科シ。減等ノ例ヲ用ヒス。

脅誘ハ。強テ誘引セラルルナリ。畏懼隨行ハ。其勢ヒニ恐レ。餘義ナク。其後ニ附キ隨ヒ行ナリ。其畏懼隨行モ兩度ニ及ベハ。例第百二十九條云々ノ。例

ハ引ガタシ皆本犯同様ニ。當然受ケ可キ。強盜ノ科カヽルナリ。二次ト再犯トハ。異ナリ。再犯ハ其事露顯レテ。仕置濟ノ上。又科ヲ犯シタルナリ。二次ハ露顯セヌ内ニ。兩度行ヒシナリ。

劫囚

此條ハ。入牢人ヲ奪ヒ取ルヿヲ云フ。囚ハ囚人ナリ。

凡囚ヲ劫スル者ハ。親屬他人ヲ分タス。入牢人ノ親類。又ハ他人ノ差別ナシ。成否ヲ論セス。入牢人ヲ奪取リ去ルト。奪ヒ損ヒシトニ拘ラス。皆流二等。

人ヲ傷シ。（入牢人ニ人ニ疵ヲ負ハス事ヲ為ス。）及ヒ死囚（死罪ニナルベキ罪アル科人。）ヲ劫スル者ハ。皆絞。若シ囚ヲ竊テ（陰ニ竊出ス。）逃走スル者ハ。囚ト同罪。竊テ未タ得サル（竊ミ終ヘスナリ。）者ハ。二等ヲ減ス。

劫囚ノ條例

第百三十四條　凡囚ヲ劫スル者ハ。皆流二等。改テ懲役十年。人ヲ傷シ。及ヒ死囚ヲ劫スル者ハ。皆絞。

○三潴縣伺　六年八月二十日

指令

十五歳以下ニテ、竊盜四犯スル者、老小癈疾收贖條例ニヨリ、凡人三犯ノ例ニ照シテ實斷シ、收贖スルヿヲ聽サス、賊盜律竊盜三犯五十圓以下懲役十年

○大坂裁判所伺　中村源吉

初メ准竊盜ヲ犯シ、處刑ヲ經テ猶又眞竊盜ヲ犯ス者有之、右ハ初犯ヲ以テ論シ候哉、將タ再犯ヲ以テ論シ候哉、若シ再犯ヲ以テ論スルトハ、眞准相交ル三犯五十圓以上ノ者ハ、例第八十九條ニ依リ、准盜ヲ除去シ、眞竊盜ノミ三犯ニ及シテ、懲役終身ニ處斷仕候テ可

改テ懲役終身。

竊盜（忍テ。盜ミヲスル賊ナリ。）

凡竊盜。財ヲ得サル者ハ。笞四十。財ヲ得ル者ハ。贓ヲ分タスト雖モ。贓ヲ併セテ罪ヲ科ス。従タル者ハ。（發起人ニ隨従セシモノ。）各（財ヲ手ニ入レヌモ。入レタルモ。）一等ヲ減ス。其臨時。捕ヲ拒ク（捕方ニ手向ヒスル。）者ハ。強盜ヲ以テ論ス。

然哉、

六年八月二十五日指令 盗ニ准シテ論スル罪ハ、犯數ニ計ヘス

○名東縣伺 盗アリ、一次竊盗一十圓ヲ犯シ、一次准竊盗三十圓ヲ犯セ、ハ名例律二罪倶發以重論條ニヨリ、重賍ヲ以テ、軽賍ニ併セ、一ノ准竊盗四十圓以上杖一百ニ處斷候哉、然ニ准竊盗ハ犯數ニ加ヘス、懲役十年ニ止リ、竊盗ハ懲役終身ニ止ル者ニシテ結局ノ權衡均シカラザル者ナレバ、准竊盗眞竊盗ハ、併賍セス、賍ノ多キヲ以テ、一ノ重ト見倣シ候哉、

七年二月五日指令 竊盗賍ヲ以テ、准竊盗ニ併テ科断ス可シ

○北條縣伺

若シ事主覺逐〔盗賊ト知リテ逐カケルナリ。〕スルニ財ヲ棄テ〔逐レシニ付テ盗ミシ品ヲ投ゲ棄ルコト〕逃走スルヲ追逐シ。因テ捕ヲ拒グ〔品主ニ逐ツメラレテ捕ヘラレジト手ムカフコト〕者ハ。罪人拒捕律ニ依ル。

掏摸〔工夫メ取ヲ掏ト云ヒ。操リテ取ヲ摸ト云ソ。巾着切リノ類ニテ。油断ヲ目掛テ。潛カニ取ル者〕スル者。罪同。

若シ盗ニ因テ〔賊ヲ働クニ付テ也〕過失傷〔麁走ニテ人ニ疵ヲ負ス〕スル者ハ。

證券印紙ヲ盗ム者等ハ、官印ヲ盗ム筋ニ候哉、

七年二月十二日指令 賣捌所及ヒ商賣ニ在ルヲ盗ム者ハ、其價ヲ賍ニ計ヘ竊盗ヲ以テ論シ、官司ニ在ルヲ盗ム者ハ、常人盗ヲ以テ論ス、

○滋賀縣伺 譬ハ暑中等ニテ他家ニ冷水アルヲ知リ忍入リ水ヲ飲ミ、或ハ魚類ヲ盗ムノ處腐敗物ナレバ、右兩樣共、賍ニ計ヘ難キハ、竊盗財ヲ得ザルニ擬シ候哉、

七年二月十四日指令 盗罪ニ擬シ難キ微罪ハ、違式例ニ照シテ、區處ス可シ、

○愛知縣伺 有祿ノ平民竊盗一百日以下ノ罪ヲ犯セハ、祿ヲ收メ、尚得ベキ本罪ヲ實斷スベキヤ、

凡闘傷〔尋常ノ打合ヒ疵ツ〕ニ。一等ヲ加ヘ。罪。流三等ニ止ル。死ニ至ル〔誤リテ人ニ疵ヲ負セ。命ヲ絶ツ〕者ハ。絞。

一兩以下。笞五十

是ヨリ以下。竊盗セシ金高ニ依テ。罪ニ差別アルヲ云フ。

一兩以上。杖六十

一十兩以上。杖七十

二十兩以上。杖八十

三十兩以上。杖九十

七年五月五日指令
○伺ノ通、秋田縣伺
海邊人他船風濤ノ難ニ罹リ、物品ヲ水中ニ抛却スル傍觀シ、其漂着スルヲ竊取スルト雖モ、其情形水中沈沒ノ故ニ物ヲ得ルト同ジカラズ故ニ竊盜ニ准シ處斷シ可然哉、

七年五月三十日指令
○伺ノ通、開拓使ヨリ盜ミ取ル贓金ヲ駐ニ計ルト問合ニ答ル、駐科斷ス、

七年五月十七日指令
○地金代價ヲ兵庫裁判所ニ於テ金銀貸付證書ヲ盜取セシ者ノ伺、兵庫裁判所ニ於テ金銀貸付證書ヲ盜取セシ者ハ為換手形等ノ證券ニ准シ處斷シ可然哉、

七年六月二十四日指令
○伺ノ通、金穀ノ證券地券證書或ハ為換手形等ノ證券ニ准シ處斷シ可然哉、

七年四月十四日指令
○伺ノ通、靜岡縣伺
凡附籍同居人、五等ノ親屬ヲ無主之者、戸主ノ財物ヲ盜ミ、或ハ親屬相盜ミ、條中同居ノ卑幼ノ物ヲ以テ論シ、私擅用財物律ニ依リ、凡盜ヲ以テ二等ヲ可減ノ處、減ス可キヤ否ヤ、

七年四月廿三日指令
○凡盜ヲ以テ論ス可キ筑摩縣伺
士族、窮盜ノ財ヲ以テ得サルニ論シ、律ニハ、破廉恥シ、收祿除族可仕者、從前ノ御定ニ照シ四月廿五日指令
○伺ノ通、兵庫裁判所伺
竊盜顯跡アル者、從前ノ御定ニ照シ四年ノ懲役三十日ニ計ル可キヤ否ヤ、

流三等。五十兩以上ハ。絞。

竊盜條例

第百三十五條　凡竊盜。三百圓以上。及ヒ三犯五十圓以上。絞ニ處スル律ヲ改メ。並ニ。懲役終身。

第百三十六條　凡竊盜。再犯。財ヲ得ザル者ハ。律ニ依リ。一等ヲ加ヘ。三犯以上。財ヲ得サル者ハ。懲役

四十兩以上。杖一百
五十兩以上。徒一年
六十兩以上。徒一年半
七十兩以上。徒二年
八十兩以上。徒二年半
九十兩以上。徒三年
一百兩以上。流一等
一百一十兩以上。流二等
一百二十兩以上。流三等
三百兩以上。絞

○三犯五十兩以下ハ。

替手形等ヲ竊取シ、詐欺シテ財ヲ圖ル者ハ、竊取ニ準シ論ス、財ヲ得ザレバ、未得財ヲ以テ論ズ、

○第七百三十六條 凡二人以上共ニ竊盜ヲ為シ、事主ニ覺逐セラレテ、一人ハ逃走シ、一人ハ抗拒スレハ、

三年。再犯ハ、二度竊盜ヲ犯スナリ。律ニ依ルニ、再犯ハ、一等加罪ノ例ニ依リ、三犯ハ、竊盜ヲ捉ヘ三度犯スナリ。是ヘ經テ仕置ノ毎ニ、一度ヲ犯ス者ヲ云フ。二犯三犯共ニ顯レタルニ、別ナリ。

○第七百三十七條 凡二人以上共ニ竊盜ヲ為シ、事主ニ覺逐セラレテ、一人ハ逃走シ、一人ハ抗拒スレハ、

○島根縣伺 放籠屋、并割烹店、其他飲食店ニ就キ、飲食ノ末、代價ヲ拂ハズ、拂出テ其隙ヲ窺ヒ逃去、重テ拂ヲ窺ヒ逃去ル者ハ、竊盜ニ準シ處分可然哉、

七年一月廿五日指令

○濱田縣伺 客塵舟子等、一時雇ヲ受ケ處ノ客ト雖モ、其寄託スル財物ヲ盜ム者例第百四十條ニ依リ、管守者ト同罪ヲ科スト雖モ、旅宿ノ者、自ラ携帶シ來ル客ト雖モ、其寄託セザル財物ヲ盜ムキハ、常人ノ盜ト同ク論シ候テ可然哉、

七年九月二十三日指令

○新治裁判所、賃造札ヲ竊盜ヲ以テ論ス、

寄託セザル財物ヲ盜ムキハ、

第百三十八條 凡事主、盜人ヲ拒捕律ニ科ス。

抗拒ハ、捕ヘラレシト。手向ヒヲ為ス。科スト。其罪ニ該ルナリ。

○抗拒スル者ヲ以テ、罪ハ、抗拒スル者ヲ捕得レ、賊ヘタルヲ捕リ押ヘ、私ニ見逃シ、私ニ内濟スルニ、情ヲ量リ、違式輕重ニ問ヒ、贖ヲコヒ聽ス。（按ニ、贖キカ。重キカ。輕キカ。見カタ。）若シ別ニ、贖ヲ聞届クル。

シ、未行使ニシテ發覺セシ者ノ伺、

七年十月五日指令

竊盗未得財ヲ以テ論ス、

○白川縣伺

假令ハ、爰ニ新舊公債ノ証書及ヒ人民相互ニ貸借証書、且地券証等盗ム者アリ、其証書券証ノ數多ク、記載ノ金高合テ三百圓餘、之ヲ贓ニ計ヘ、竊盗ヲ以テ論スレバ、即チ懲役終身、法極テ酷、然ニ其公債証書初メ一モ盗シテ金ヲ得ラルヽ品ニ無之候ヘバ、竊盗財ヲ得ザル者ヲ以テ論シ、懲役四十日、士族ナレバ除族ニ止メ可然哉、然ニ右証書証券盗得ルノ後、或ハ借用引當トテシ更ニ一通ノ添証文ヲ詐偽シ他人ヲ欺キ財物ヲ借ルコアレバ、詐偽律私

受ル贓ヨリ。物者ハ。贓ニ
ヲ取ナリ。
計ヘ。枉法ニ準シ。其品ヲ代金ニ
ツモリ。不正品ヲ受ケ。掟
ヲ枉タル罪ノ。振合ニテ
捌財ヲ過スル贓ヨリ送
ク。ル品ヲ取
次リ。ナ人ハ。說事過錢律受贓
一條ノ世話口入ヲメ賂革
ヒ金ヲ取次グ者ヲ捌ク
テ掟ニ準シ。各重ニ從テ論
贓ノ財ヲ受ル者モ其財
ヲ取次者モ前ノ違式ト
引合ヒ重キ方ニス。
付ケテ捌ナリ。

第百三十九條　凡盗贓ミ盗
リ品ナヲ以テ竊ニ事主ニ

ノ文書ヲ詐為スル者ニ擬シ、不應為ニ問ヒ、輕重ヲ分チ重ニ從テ論シ、仍ホ借ル處ノ財物ハ、償却セシメ、若シ借用ニ非スシテ、詐取スル者ハ、取ル所ノ財物ヲ贓ニ計ヘ、詐欺取財ト云ヲ以テ論シ是亦重ニ從ヒ、科斷致シ可然哉、

七年十月二十八日指令

伺ノ通、

○飾磨縣伺

竊盗ニテ懲役終身處決後、歳月ヲ經テ、申供ノ外、別ニ竊盗ノ贓百圓以上アルコ、他ヨリ發覺セバ、其不盡ノ罪ヲ科スべキ處、懲役終身ノ者ナレバ、律例ニ依リ科スべキナシ、該犯ノ如キハ、當初實供セサルヲ讀ムべキ儀ニ候哉、果シテ然ラバ、捧鎖等ノ處分之アル儀ニ

投還スル盗マレ主ヘ。竊カニ投ゲ還ス。者ハ。未得財ヲ以テ論シ。竊盗リ。財物ヲ取ズ。空ク封シ罪ニ捌ク。懲役四十日。若シ贓。虧缺スルコアル者ハ。虧缺スル所ノ數ヲ計ヘ。盗罪ヲ盗マレ主ヘ。投ゲ還スニ。元盗シ時ヨリ。品數不足スルナリ。盗罪ヲ科ストハ。盗ミ品ヲ返ストモ不足アレバ。其不足ノ分ダケ。竊盗ノ罪ニ申付ルナリ。科ス。

増加

明治六年七月廿三日

第二百六十六號御布告

候哉、
七年十月五日指令
伺面ノ如キハ、罪ノ科ス可キナシ、但贓ハ追徵ス、
○名東縣伺
此ニ甲乙ノ両賊アリ、甲某ハ家ノ内ニ忍ヒ入リ、乙某ハ戸外ニ有リテ瞭望シ、甲ノ盗ムトコロノ何物タルヲ知ラズ、然ルニ甲ナル者、盗ム處ノ金十圓ヲ、五圓ト詐言シテ、乙ヲ欺キ分配ス、追テ両賊縛ニ就キ、糾問スルニ至リ、始メテ甲ノ欺言ナルヲ知ル事ナレハ、乙ハ五圓ノ賍數ヲ以テ、處刑致シ可然哉、
七年十一月五日指令
竊盗ハ、併賍シテ罪ヲ科ス、本文ノ如キハ、十圓ノ從ト為シテ論ス可シ、
○京都裁判所、竊盗私和ノ伺、

○

凡竊盗四犯、財ヲ得ル者ハ、贓ノ多寡ヲ論セス、懲役終身、

竊盗シテ。一度露顕シテ。科ヲ受ケ。又露顕シ。總テ四度露顕シテ。財ヲ盗ミ取リタルハ。賍ノ多少ニカマハズ其科ヲ懲役終身ト為スナリ。

○白川縣伺
右ハ別紙罪案ノ通ニテ、竊盗前顕ノ賍四十五圓十三錢七匣九十一錢一已ノ賍四十四圓二十二錢七匣從賍此節後顕ノ從賍四十六圓一錢七匣五毛、合九十一圓三十一錢二匣例二次盗ヲ為シ、一次先キニ發シ、已ニ論決ヲ經テ、一次後ニ發

七年十一月十二日指令
事主、盗難ヲ官ニ告ル後、盗犯ノ首服スルヲ私和シテ、再ヒ官ニ届出ザル者ハ、違式輕ニ科スルモ、未ダ官ニ告ザル内、首服スルヲ私和スレハ、其罪ヲ科セス
○名東縣伺
爰ニ一ノ盗犯アリ、木竹瓦石其他諸物品本主ノ便ニ因テ、河岸ノ物置場或ハ郎柵外ニ差置クヲ竊取スル者元ヨリ管守者無之事ニ付、盗田野穀麥條ニ依リ、准盗ヲ以テ論シ可然哉　但シ、海岸並河岸等ニ繋有之船及ヒ船ニ屬スル處ノ器掠等ヲ竊取スル者モ、管守者ナキ者ハ、本文ノ通准盗ヲ以テ處斷可然哉、
七年十一月十八日指令
本文但書共、伺ノ通、

シ、及ヒ先キニ審結シテ、賍ヲ盡サヽル者、論決ノ後發覺スレバ、俱ニ後發ノ賍ヲ以テ、前賍ニ併セ、罪加フベキナケレバ論セズ、若レ併セテ重キ者ハ更ニ加ヘテ全加スト有之首賍ノ本罪者、一圓以下ニ付、從賍ニ併セテ、右ノ通九十一圓餘窃盗九十圓以上懲役三年、然所首徒ノ賍併發スルハ併セテ罪一等ヲ減スト云ニ依、一等ヲ減ジ、懲役二年、半ニ可處所、前顕ノ賍ヲ以杖一百、既ニ明治五年二月處決相濟、杖一十ハ折原杖法ニ依假ヘバ、徒三十日四合一酌七才ニ當リ、百杖八三百零四日一合七酌ニ相當リ、徒二年半ハ、九百十二日半ト相成、半日ヲ除去シ、九百十二日ヲ已ニ處決ス

八私得ㇾ盜○

竊ニ押捺シ、印顆ハ元ノ如ク是以テ論リ、私カニ投還スル者以テ盜ム心情到底印影ヲ論セ、其罪不應為輕重ニヨリ、可ㇾ然裁、三月廿三日指令ヲ以テ竊盜ノ印影ヲ得テ、従者論ズ、若ㇾ賍従テニ計行ズヘ、各ㇾ未ㇾ盜便竊行計論ス、財物ヲ以テ賍ヲ得ルニ、従ヒ、罪ヲ知ラズ、年七十ニ以上、及廢疾ノ者ハ、減一等ス、五戸主ノ子孫ノ財物ヲ擅用シ、及同財ノ親属ニ非ル者ヲ以テ、凡盜ル財物ヲ以テ共ニ居ル者ハ、各減一等ス、指ㇾ令ア、然ㇾ受ル恩養ヲ以テ、親属ニ雖モ、附籍ㇾ同ニ爨ト雖モ、卑幼ノ財ヲ擅用スル者ハ、依ㇾ凡論ス、七年ノ靜岡縣伺、附籍同居ノ人、右戸主ノ財物ヲ以テ相盜ル者ハ、係ヲ親属ニ雖モ、犯ㇾ罪ヲ知ラズ、年五十ニ以上、及廢疾ノ者ハ、減一等ス、指ㇾ令ア、然ㇾ受ル恩養ヲ以テ、親属ニ雖モ、卑幼ノ財ヲ擅用スル者ハ、依ㇾ凡論ス、七年ノ靜岡縣伺、附籍同居ノ人、右戸主ノ財物ヲ以テ相盜ル者ハ、係ヲ親属ニ雖モ、犯ㇾ罪ヲ知ラズ、年五十ニ以上、及廢疾ノ者ハ、減一等ス、

七竊盜ハ、賍懲役ニ准ジ、再度ノ竊盜ハ、前ノ竊盜ト同ク、初犯ハ二年ノ懲役ニ准ジ、又竊盜ヲ犯シ、発覚スル処ヲ以テ、論ジ、重キヲ以テ科ス、若シ前ノ竊盜ト並ニ発覚セサル者ハ、各其ノ犯ス所ニ依リ、倶ニ併セ論ス、但シ三犯ニ至ル者ハ、併セテ其ノ竊盜ノ賍ヲ計リ、一年ノ懲役ニ処ス、

○伺

歎ノ賀ニ通、竊盜ノ賍ヲ以テ、竊盜三犯、従賍一圓以

八年ノ鹿児島縣伺、竊盜ノ賍ヲ以テ、借用ノ物ヲ得テ、証書ヲ棄ヲ以テ、後ニ論ズル者ハ、不

七年ノ鹿児島縣伺、竊盜ノ賍ヲ以テ、金穀ヲ用ヒ、後ニ論ズル者ハ、不

五月廿三日指令ヲ以テ、竊盜ノ賍ヲ以テ、竊盜ノ賍ヲ以テ、竊盜ノ賍ヲ以テ、

八伺○

新潟縣伺、竊盜ノ賍ヲ以テ、竊盜ノ賍ヲ以テ、竊盜ノ賍ヲ以テ、

歎ノ賀ニ発覚品受ク処ノ意ヲ以テ、竊盜ノ賍ヲ以テ、竊盜ノ賍ヲ以テ、

和ノ年十ヲ行ヲ、此閲ルニ就キ、其計ニ方テ、取調ヘ、推問シ、

歌ニ通、山藏人ノ盜ミ、縣ノ出ル隙ヲ有ル窺ヒ、私ト願ノ書ノ筐ノ印筒ニ、

捕ル品ヲ去テ估十年一品ヲ、月ヲ、品ヲ、処ヲ、位ヲ、法ヲ、品ヲ、処ヲ、衣ヲ、類ヲ、品ヲ、其ヲ、盜ヲ、罪ヲ、甲ヲ、未ヲ、失ヲ、難ヲ、白ヲ、届ヲ、

○

六窃盜賍ヲ、三百両ニ満ル者ハ、流罪ニ処ス、三百両ニ満サル者ハ、四十日ノ懲役ニ処ス、

発覚ノ盜ノ時ニ、竊盜ノ賍ヲ以テ、竊盜ノ賍ヲ以テ、竊盜ノ賍ヲ以テ、

山口縣伺、竊盜ノ賍ヲ以テ、竊盜ノ賍ヲ以テ、竊盜ノ賍ヲ以テ、

○八賊

仍ホ竊盜初犯ヲ以テ論シ、加ヘ一等ヲ以テ論ス。

○八竊盜限

一年四月十三日ヲ以テ論ス。

年初犯ヲ以テ論シ、加等ノ

故阜縣倶准發論ス。

竊二罪俱發ハ、從重ヲ以テ論シ、加三等ヲ以テ論ス。

贓二罪俱發ハ、從重ヲ以テ論シ、加三等ヲ以テ論ス。

誘山處、限ロ准盜發ノ例ヲ以テ論ス。

誘ヒ山處ニ入リ、限ロヲ准盜發ノ例ヲ以テ論ス。

候右限縣准盜發ノ例ヲ以テ論ス。

候右限縣准盜發ノ例ヲ以テ論シ、加等ス。

者、如キ、同ク欠ケ物ヲ以テ論シ、加等ス。

者、如キ、同ク欠ケ物ヲ以テ論シ、加等ス。

ルハ、穩當ニ棲存ス。

ルハ、穩當ニ棲存ス。

○八賊

年盜律中ノ準盜ニ在室ニ入リ、望ミ見ル人ヲ捜シ、

年盜律中ノ準盜ニ在室ニ入リ、望ミ見ル人ヲ捜シ、

八、四月十八日指令限ニ在リ。

八、四月十八日指令限ニ在リ。

強盜未遂ノ例ニ減ス。

強盜未遂ノ例ニ減ス。

水澤縣同ジ。

水澤縣同ジ。

セ本犯ニ外ニ一等ヲ減ス。

セ本犯ニ外ニ一等ヲ減ス。

百二十ノ條ニ明文アリ。

百二十ノ條ニ明文アリ。

○八第

一年論ス。可キカ、將タ凡盜ヲ以テ論シ、可キカ、將タ凡盜ヲ以テ論シ、

一年論ス。可キカ、將タ凡盜ヲ以テ論シ、可キカ、將タ凡盜ヲ以テ論シ、

三月二十三日指令ニ非サレハ、附籍ノ

三月二十三日指令ニ非サレハ、附籍ノ

然裁、但シ雖モ親屬ニ非サレハ、附籍ノ

然裁、但シ雖モ親屬ニ非サレハ、附籍ノ

○八凡盜ヲ以テ論スル可キカ、將タ凡盜ヲ以テ論スル可キカ、

○八凡盜ヲ以テ論スル可キカ、將タ凡盜ヲ以テ論スル可キカ、

○効

水澤縣ニ再犯ス、三犯ハ、並ニ常人ニ同ジ。

初犯ヨリ再犯ニ至テ、三犯ハ、並ニ常人ニ同ジ。

○八侗若ニ

從重ヲ以テ論シ、加三等ス。

從重ヲ以テ論シ、加三等ス。

○八第

一年ノ通盜二十三日ヲ以テ論シ、加等ス。

一年ノ通盜二十三日ヲ以テ論シ、加等ス。

二月ノ竊盜三罪俱發ハ、從重ヲ以テ論シ、加三等ス。

二月ノ竊盜三罪俱發ハ、從重ヲ以テ論シ、加三等ス。

○七第

一年ノ竊盜二十三日ヲ以テ論シ、加等ス。

一年ノ竊盜二十三日ヲ以テ論シ、加等ス。

九月ノ竊盜四罪俱發ハ、從重ヲ以テ論シ、加三等ス。

九月ノ竊盜四罪俱發ハ、從重ヲ以テ論シ、加三等ス。

○八第

一年論ス。可キカ、將タ凡盜ヲ以テ論シ、可キカ、將タ凡盜ヲ以テ論シ、

一年論ス。可キカ、將タ凡盜ヲ以テ論シ、可キカ、將タ凡盜ヲ以テ論シ、

二月ノ竊盜三罪俱發ハ、從重ヲ以テ論シ、加三等ス。

二月ノ竊盜三罪俱發ハ、從重ヲ以テ論シ、加三等ス。

○七第

一年ノ竊盜二十三日ヲ以テ論シ、加等ス。

一年ノ竊盜二十三日ヲ以テ論シ、加等ス。

九月ノ竊盜四罪俱發ハ、從重ヲ以テ論シ、加三等ス。

九月ノ竊盜四罪俱發ハ、從重ヲ以テ論シ、加三等ス。

○八第

一年論ス。可キカ、將タ凡盜ヲ以テ論シ、可キカ、將タ凡盜ヲ以テ論シ、

一年論ス。可キカ、將タ凡盜ヲ以テ論シ、可キカ、將タ凡盜ヲ以テ論シ、

二月ノ竊盜三罪俱發ハ、從重ヲ以テ論シ、加三等ス。

二月ノ竊盜三罪俱發ハ、從重ヲ以テ論シ、加三等ス。

○七第

一年ノ竊盜二十三日ヲ以テ論シ、加等ス。

一年ノ竊盜二十三日ヲ以テ論シ、加等ス。

九月ノ竊盜四罪俱發ハ、從重ヲ以テ論シ、加三等ス。

九月ノ竊盜四罪俱發ハ、從重ヲ以テ論シ、加三等ス。

○八第

一年論ス。可キカ、將タ凡盜ヲ以テ論シ、可キカ、將タ凡盜ヲ以テ論シ、

一年論ス。可キカ、將タ凡盜ヲ以テ論シ、可キカ、將タ凡盜ヲ以テ論シ、

二月ノ竊盜三罪俱發ハ、從重ヲ以テ論シ、加三等ス。

二月ノ竊盜三罪俱發ハ、從重ヲ以テ論シ、加三等ス。

○七第

一年ノ竊盜二十三日ヲ以テ論シ、加等ス。

一年ノ竊盜二十三日ヲ以テ論シ、加等ス。

九月ノ竊盜四罪俱發ハ、從重ヲ以テ論シ、加三等ス。

九月ノ竊盜四罪俱發ハ、從重ヲ以テ論シ、加三等ス。

○八第

一年論ス。可キカ、將タ凡盜ヲ以テ論シ、可キカ、將タ凡盜ヲ以テ論シ、

一年論ス。可キカ、將タ凡盜ヲ以テ論シ、可キカ、將タ凡盜ヲ以テ論シ、

二月ノ竊盜三罪俱發ハ、從重ヲ以テ論シ、加三等ス。

二月ノ竊盜三罪俱發ハ、從重ヲ以テ論シ、加三等ス。

○七第

一年ノ竊盜二十三日ヲ以テ論シ、加等ス。

一年ノ竊盜二十三日ヲ以テ論シ、加等ス。

九月ノ竊盜四罪俱發ハ、從重ヲ以テ論シ、加三等ス。

九月ノ竊盜四罪俱發ハ、從重ヲ以テ論シ、加三等ス。

竊盗律例中右等ノ明文無之ニ付、竊盗ニ於テハ室ニ入リ財ヲ接セス、外ニ在テ瞭望スル者モ、減等ニ及ハズ可然哉、

八年四月二十八日指令

伺ノ通

○山口縣伺

茲ニ盗犯アリ、其事主甲乙丙丁ク數名アリ、該犯ノ資財ヲ追スルニ、贓數ヨリ不足ス、其償還スル如何、

八年四月二十八日指令

各事主ノ金高ニ應シ償金ヲ割賦セシム可シ、

○山口縣伺

區戸長役場ニ在ル區入費ヲ盗ム者ハ、凡盗タルヿ無論ナリ哉、

八年十月九日指令

公布ニ依テ課出スル費金ハ、官物ト同シク論ス、

藏ス可キ者ニアラス、故ニ官私ヲ別タス、盗所ヲ離ル時ハ、得財ヲ以テ論シ候儀ニテ、律例ニ其儀不相見、若シ器物錢帛之類ヲ盗ム者有之候ハヽ官私ヲ別タズ清律ノ通リ、盗所ヲ離ルヽ者ハ、財ヲ得ルヲ以テ論シ、各本律ニ依リ其罪ヲ科シ若シ盗所ニ在テ、未タ財物ヲ得ザル者ハ、未得財ヲ以テ論ジ可然哉　但盗所ニ在ルトハ、假令ハ一ト間ニ在ル器物ヲ盗ミ仍其間ニ在テ、見咎ラルヽモノヲ云フベキ并、然レバ若シ之ヲ次ノ間ニ移シ、見咎メラルヽモノハ、即チ盗所ヲ離ルモノト可申哉、前同條ニ曰、珠玉寶貨之類、據入手隱藏縦在盗所未將行亦是為盗ト有之、珠玉寶

○筑摩縣伺

官私ノ牛馬ヲ盗ム者ハ、牧場廐闌、若クハ盗ヲ殺スト、殺サヽルトノ別ニ依リ、夫々罪科、律上明了候ヘ共、雖豚鵝鴨等ノ律不相見、右ハ居宅ニ飼置ク者アリ、或ハ山野ニ放飼ヒノ者アリ、自然牧場廐闌ノ別有之哉ニ被存候得共、雜豚鵝鴨等、素

貨等ハ、其物輕微、隨テ藏匿シ易シ、故ニ盗所ニ在リト雖モ、既ニ手ニ入ルレハ、即チ之ヲ得財ト為シ候儀ニテ、是亦律例ニ其儀不相見、若シ右同犯ノ者有之候ハヽ各本律ニ依リ、已ニ手ニ入レ隱藏スルト否トヲ以之得財不得財ヲ區別シ、處分位候テ可然哉、

八年四月二十八日指令

第一條第二條但書共伺ノ通

盗官私牛馬

此條ハ公ケノ物及ビ自分物ノ牛馬ヲ盗ムヿヲ云フ。

凡常人。官ノ廐闌牧場ノ牛馬ヲ盗ム者ハ。贓ニ計ヘ（代金

ヨリ食品ニ属シ候者ニテ、牛馬ノ重キヲ負ヒ、遠キニ致シ、人労ヲ助ル者ト、事實夐別ニシテ、一体ニ難論擬、就テハ此等ノ如キ者、其飼置クト、放飼ヒト、其殺スト、殺サヽルトヲ論セス、官ニ係ルハ常人盗、私ニ係ルハ竊盗ニ准シ、罪、懲役十年ニ止メ處断可然哉、追テ池塘ノ鯉魚等ヲ盗取スル者ハ、盗田野穀麥條ニ依リ、處断可然哉、

七年九月二十三日指令

官私ノ雞豚鵜鴨ヲ盗ム者ハ、盗官私牛馬律例ニ依リ、牛馬ヲ盗ムト同ク罪ヲ科ス、盗殺スト雖モ、別ニ論スルニ及ヘス、追書伺ノ通、本文雞豚鵜鴨飼フ所、官廨ニ在ト雖モ、私畜ニ係ルハ、私物タル無論ナリ、

○白川縣伺

ニツ常人盗ニ準シテ論シ。モル番人デナキ人。公ケノ物ヲ盗ム。掟ノ振合ニメ。罪ヲ定ム。監守人改メ役。預リ役ノ官吏ヲ云フ。自ラ盗ム者ハ。監守盗ニ準シテ論シ。民間ノ牛馬ハ。下々ノ家ニ。飼フ牛馬ヲ盗ム者ナリ。竊盗ニ準シテ論ス。並ニ罪。流三等ニ止ル。其仕置ハ。流罪三等迄ヲ。止リトスルナリ。

盗官私牛馬條例

第百四十條 凡官私牧場ノ牛馬ヲ盗ム者ハ。律ニ

清律、賊盗律、公取竊取皆為盗條ニ曰、馬牛駝驘之類、須出闌圏、鷹犬之類、須専制在己、乃成為盗ト有之、馬牛等ハ、闌圏ヨリ牽キ出スヲ須テ、得財ト為シ、鷹犬ノ類ハ、已ニ竊縶ニ就キ、専制己レニ在ルヲ須チ得財ト為ス儀ニテ、是亦律例ニ其儀不相見、若右同犯ノ者有之候ハ、官私ヲ別タス、清律ノ通リ、區別致シ可然裁、但右本條ノ頭書ニ曰、若シ馬一匹ヲ盗ミ、別馬之ニ隨バ、固ヨリ偶然ノ事ニテ、之ヲ盗ムニ意アルニアラズ故ニ合筭セズト雖モ、其母馬ヲ盗ムニ、其子馬之ニ隨ハ、乃チ必然ノ事故ニ合筭シテ、罪ヲ論ズト有之、是亦清律ノ通リ處分致シ可然裁

八年四月二十八日指令

照シテ罪ヲ科シ。懲役十年ニ止ルヲ除ク外。其官ノ厩闌ノ牛馬ヲ盗ム者ハ。常人盗ヲ以テ論シ。監守人。自ラ盗ム者ハ。監守盗ヲ以テ論シ。民間厩闌ノ牛馬ハ。竊盗ヲ以ラ論ス。若シ盗テ殺ス者ハ。官ニ係ルハ。懲役一年。私ニ係ルハ。一等ヲ減ス。贓ニ計ヘ。本罪ヨリ重キ者ハ。

然ル片ハ、雇人、家長ノ財物ヲ盗モ、亦綱領ニ於テハ準盗ナレ𪜈、例第百四十三條ニ、右準盗ヲ改メ、常人盗ヲ以テ論スト有之、原トヨリ加等罪ナレハ、是亦從前今後ヲ分タス、竊盗ト同ク犯數ニ計ヘ、「譬ヘハ明治六年七月九日前家長ノ財物ヲ盗ミ、初犯再犯ノ裁決ヲ經、同年七月十日同罪ヲ犯セハ、仍ホ竊盗三犯ヲ以テ論シ、五十圓内外ヲ分チ、常人盗三犯ヲ以テ論セス、」可然哉

八年十月八日指令

改定律例ノ前後ヲ論セス准盗ハ犯數ニ加ヘス、

盗等ヲ見合セ。ソレ〳〵ニ科一段ヲ増シテ捌クナリ。

第百四十一條　凡官ノ牛馬ヲ故殺スル者ハ。懲役百日。民間ノ牛馬ハ。一等ヲ減ス。若シ贓ニ計ヘ。本罪ヨリ重キ者。官ニ係ルハ。常人盗ニ準シ。私ニ係ルハ。竊盗ニ準シテ論シ。並ニ。罪懲役十年ニ止ル。

前條ハ。以テ論スト云フ罪ナリ。以テトハ。此

○但書共、伺ノ通、

○白川縣伺

本條民間ノ牛馬ヲ盗ム者ハ、廐闌牧場ヲ分タス、竊盗ニ準シテ論シ、罪懲役十年ニ止ル、是準盗罪ト雖モ、再三犯スレハ、竊盗ト同ク犯數ニ計ヘ、其罪ヲ科ス、然ル處律例御頒布後、準盗罪ハ犯數ニ計ヘサル例ニ付、牧場ノ牛馬ヲ盗ハ、從前「明治六年七月九日以前ヲ云フ」今後「明治六年七月十日以後ヲ云フ」共、犯數ニ計ヘサルハ勿論ナレ𪜈、其民間廐闌ノ牛馬ヲ盗ム者ハ、例第百四十條ノ通、竊盗ヲ以テ論スヘキ罪ナレハ、從前今後ヲ分タス、竊盗ト同ク犯數ニ數ヘ、「綱領」準盗トアルモ其準ノ一字ニ泥マス」然ル可キ哉、若シ

前ニ照シ。各盗罪ヲ以テ論シ。一等ヲ加フ。

此條ハ。綱領ニハ。廐闌牧場一ツニシタルヲ。改メテ。廐闌ト。牧場トヲ差別シ。且ツ「準〆論ズ」ヲ「以テ論ズ」ニ。改メ。シナリ。律ニ照シトハ綱領ノ通リニスルナリ。官ニ係ルトハ公ケノ牛馬ノ分ナリ。私ニ係ルモ同シ義ナリ。本罪ヨリ重キトハ。其盗テ殺セシ。牛馬ヲ代價ニ積ルニ。官ノ分。若シ百圓。私ノ分。若シ八十圓ナレバ。皆本罪ノ懲役一年。及ド百日ヨリハ。重キ罪ナリ。前ニ照ストハ。常人監守人竊

○名東縣伺

管内讃岐國阿野郡乃生浦沖合字瀬居島ハ鮪鰆許多集合ノ場所ニ付三月頃ヨリ六月中ハ徃古ヨリ香川郡笠居村ノ者ヘ網漁差免有之其得ル利益モ不勘故ニ格別ノ税金取立有之程ノ漁場ニ付許可ナキ者ハ素ヨリ漁不相成成規ニ候所他ノ漁夫共申合竊ニ右場所ヘ立入手操網ヲ曳キ鮪若干ヲ盗漁スル者アリ其所業盗ニ似タリト雖モ田野ノ穀麥山林ノ樹木等或ハ山野柴草木石ノ類他

科ヲ何々ノ罪ト同様ニ擬クヿナリ。此條ハ準シテ論ズル罪ヲ云フ。準ズトハ。此科ヲ何々ノ罪ノ振合ニ擬ヿナリ。

盗田野穀麥

凡田野（家ニ在ル物ヲ盗ムトハ別ナリ。）ノ穀麥菜菓（穀物。野菜。木ノ實ノ類ヒ。）及ヒ人ノ看守スルヿ無キ（番人ノナキ）器物ヲ盗ム者ハ。並ニ贓ニ計ヘ。（代金ニ積リ）竊盗ニ準シテ論ス。罪流三等ニ止ル。若シ山野ノ柴草（カヤ。下クサノ類ヒ。）

人已ニ工力ヲ用ヒテ、研伐積聚スルヲ取去スル者ヲ以テ論シ難キ様相考候、依テ右等ノ類ハ、其得ル所ノ數ヲ計ヘ坐贓ヲ以テ論シ可然哉又ハ違式ノ軽重ニ問ヒ、得ル所ノ魚代金ハ官沒シテ可然哉

但盗漁ヲ取締ノ為、番船ノ有之箇所モ、本文同様、盗ヲ以テ論セス可然哉

右同断ノ場所ヘ、盗漁ニ参リ、番船ノ為メ咎メラレ、一尾モ盗漁致シ不申者ハ、如何處刑仕可然哉

七年十月十日指令

第一二條違式軽ニ問ヒ、贖ヲ聽シ、網ハ官沒スベシ、

但書番船ノ有無ニ拘ラズ、本文ノ通心得ベシ、

○京都裁判所伺

滋賀縣伺

山林ノ竹木ヲ盗

木石ノ類。他。人。已ニ工力ヲ用ヒテ。（手間ヲカケテ）研伐積聚（切リ取リ。苅リ取リ。積ミ置テ。里ヘオロスマデニシテアル。）スルヲ擅ニ取去（自儘ニモテクル）スル者モ罪亦同。

○筑摩縣伺

官林ノ竹木ヲ盗ム者ハ、是迄常人盗ニ擬断致來候所御指令ニ依リ、自今本條ヲ以テ處置致シ可然哉

七年一月廿八日指令

伺ノ通

○和歌山縣伺

山林内ノ竹木ヲ竊取スル者ハ、官私ヲ分タス、竊盗ニ準シ處断致シ可然哉

七年六月四日指令

ム者ノ御指令ニ、自今官林ニ係レバ、賊ニ計ヘ、竊盜ニ準レ論シ、一等ヲ加フ、其所犯官林タルハ、知テ盜伐セシ者加等スル官林ヲアル可キ儀ニテ、其犯スヲ知ラザル者ハ、仍ホ凡盜存候ヘ共、官林ニ係レバ準レ處斷致ス儀ニ依リ、

七年十二月十三日指令

○伺ノ通、若松縣伺

官林ニ立入、風折ノ雜木ヲ、擅ニ取去ル者、其情田野ノ穀ヲ取去ル者ニ準シ、贓ヲ計テ論ス、依テ此ノ雜木ヲ、可然哉、

御指揮、疑ヲ生レ候ニ依リ、為念相伺候、

七年十月十三日指令

○伺ノ通、若松縣伺

官林ニ立入、風折ノ雜木ヲ、擅ニ取去ル者、其情田野ノ穀ヲ取去ル者ニ準シ、贓ヲ計テ論ス、依テ此ノ雜木ヲ、可然哉、

御指揮、疑ヲ生レ候ニ依リ、為念相伺候、

七年十月十三日指令

○官物ハ一等ヲ加フ、

官物ハ一等ヲ加フ、國幣中小社境内ノ樹木ハ、本條ノ心得ニ依ヘリ、

○官物ヲ竊ム

官物ヲ竊ム者ハ、一等ヲ加フ、

○本律ヲ準用スル

本律ヲ準用スル者ハ、

○雇筑摩郡青森縣伺

雇筑摩郡青森縣伺

雇人、家長ノ財物ヲ盜ム者ア リ、其罪雇人盜ヲ準用スル際出テ、家長ノ中途薪ノ烈セ風ノ降ト雪ニスルテ、

七年十二月三日指令

第一二條　伺ノ通、

木タルヲ知ラズ、偶マ其枝葉ヲ取去ル者、前同樣ニテ可然哉、

七年十二月三日指令

第一二條　伺ノ通、

○愛知縣伺

農事助力等ノ為メ、親屬相雇フノ後、雇人、家長ノ財物ヲ盜ム者アリ、其罪雇人盜ヲ準用スル際出テ、家長ノ中途薪ノ烈セ風ノ降ト雪ニスルテ、

七年二月十四日指令

親屬相盜ヲ以テ論ス可シ、

親屬相盜

此條ハ。身内ト同志互ニ盜ムコヲ云フ。銘。

凡各居同居ノ家ニテ財物ヲ相盜ム互相

五等ノ親。

ヒニテ。ドチラニテモ窃盜ヲ云フ。盜ハキモニテモ窃盜ノ

○名東縣伺 親屬盗、財ヲ得サルモノハ、懲役四十日ヨリ、各等親ニ依リ、減等處斷可レ然裁、

七年十月五日指令 伺ノ通、

○白川縣伺 各居二等親以下、相盗ム再犯ニ係ル者ハ、前條十葉裁判所御指令ヲ援引シ、後犯ノ本罪ニ一等ヲ加フベシト雖モ、其三犯以上ノ例無之、如何處分可レ致裁、各居二等親以下、相盗再犯ハ、加等スト雖モ、同居ノ卑幼尊長ニ由ラスシテ、私擅ニ家ノ財物ヲ用フル者ハ、再三犯ニ至ルトモ、加等ノ例ニ無之儀ト奉レ存候、右相伺候也、

七年十月七日指令 親屬相盗、及ヒ子弟私擅用財

ヿヲ云フ。者ハ。凡人（親類デナキ他人同志ニテ盗ムヿ。）ニ。一等ヲ減シ。四等。三等。二等ノ親ハ。各一等ヲ遞減（ダンダンニヘラス）ス。若シ強盗ヲ行フ（働クヿナリ）者。尊長卑幼ヲ犯スハ。（目上ヘノ者。目下タノ者ノ財物ヲ強盗スルナリ）各上ニ依テ（上トハ前ノ五等四等三等二等ヲ指ス。各トハ此差別アルヲ云フ。）罪ヲ減ス。卑幼。尊長ヲ犯スハ。凡人ヲ以テ論ス。若シ（盗ヲナスニ付）殺傷スルヿアル者ハ。過

ハ、再犯以上ニ係ルト雖モ加等スルノ限ニアラス、但シ十葉裁判所伺ノ指令ハ、誤寫ニ付改正ス、本文ノ通、心得可シ

○青森縣伺 各居ニ係ル兄ノ宅ヘ忍入竊盗シ、品物典賣ノ末、兄ナル者、其事覺察致シ、典賣先々ヨリ受戻シ、事濟ニ相成候所、其事他ヨリ差顕レ取糾シ候段ニ至リ、前件申出候、右ハ犯罪自首條ニ依リ其罪ヲ免シ候裁、又ハ兄弟ノ間、事濟タル上ハ其罪ヲ論セス可レ然裁、

七年十月九日指令 親屬相為容隠律ニ依リ論スル勿レ、

○島根縣伺 當縣下出雲國仁多郡下阿井村農千原佐一郎ナル者、

誤ニ出ル（麁忽カラ仕出ス）ト雖モ。各殺傷尊長卑幼ノ本律ニ依リ。（ソレゾレ闘殴律ノ掟ニ引付クルナリ。）重キニ従テ論ス。若シ同居ノ卑幼。他人ヲ将ヰテ。（連レ来リ）己ノ家ノ財物ヲ盗ム者。卑幼ハ。私擅用財物律ニ依テ論シ。二等ヲ加フ。罪。杖一百ニ止ル。他人ハ。凡盗罪ニ。一等ヲ減ス。若シ殺傷スルヿアル者ハ各殺傷

甫十六年ニシテ、父元助ニ離レ、家事治メ難キヨリ、昨年六月中、同郡小馬木村ノ妹永子ヲ知ラスト雖モ。強盗ヲ以テ論ス。若シ他人殺傷スル者ハ、連レ來リシ他人。已レノ身内ヲ殺シ又ハ殉負ハスルガ如キ。又尊長卑幼ノ本律ニ依リ。他人ハ。縦ヒ情（細子）ヲ知ラスト雖モ。強盗ヲ以テ論ス。若シ他人殺傷スル者ハ、連レ來リシ他人。已レノ身内ヲ殺シ又ハ殉負ハスルガ如キ。又尊長卑幼ノ本律ニ依リ。他人ハ。縦ヒ情ヲ知ラスト雖モ。

第百四十二條　凡文武百工技藝（普通ノ學問ヲ文事ト云ヒ。兵學練兵等ヲ武事ト云フ。又大ニシテ漁猟ノ具ヲ作リ。小ニシテ縫裁等ノ職業及ビ凡ソ舎密術等ニ至ルマデ凡ソ學ブニ就テ一切ミナ百工ト云フ。）ノ人

親屬相盜條例

依托スル所ノ財物ヲ以テ、盜ム者ニ付、監守盜ヲ以テ已ニ處斷致候ヘバ、佐一郎ニ依リ、儀子弟私擅用財物ニ依リ、處分候テハ、其權衡穩當ナル哉ニ被レ存、難レ決、此段相伺候也、

七年十一月五日指令

本律第二項ニ照レ、各律ニ依リ、處分スベシ、

但シ亀太郎、監守盜ヲ以テ處決スルハ、失入ニ付、改正スベシ、

○

滋賀縣伺

親屬ヨリ財物ノ寄託ヲ受ケ、輒ク賣用スル者ハ、坐贓一等ヲ減レ、本條遞減ノ權衡ニ仍リ、減等レ可レ然哉、

親屬ノ印ヲ盜ム者モ、亦本條遞減ノ權衡ニ仍リ、減等レ可レ然哉、

八年三月十二日指令

第一條　各居ノ親屬ハ、同ノ通、

第二條　同縣同伺ノ通、

○親屬相盜ト雖モ、強竊盜ニ係ル者ハ、尋常強竊盜ト同ク、再犯以上加等致シ可シ然裁、但竊盜ニ係ル者三犯ニ至レハ、各等親ニ仍リ、遞減スルノ法ヲ用ヒス、仍ホ凡盜ト同ク、五十圓以上ヲ分チ、罪ヲ定メ可シ然裁、下ヲ同上、準盜ノ別ナク、十同族ハ破廉恥甚ヲ以テ論シ婦女ハ的決致シ可シ然裁、八年三月二十八日指令

第一條　親屬相盜、強竊盜ヲ犯シ、再犯ニ係ルモ、初再ト同ク各等親ニ依テ、罪ヲ科ス、第三等ニ至ルモ亦同、第二條　親屬相盜ノ真盜ハ、勿論賊盜律内ニ、准盜ノ真盜モ伺ノ通、

○京都裁判所伺

外孫ヨリ、外祖父母ヨリ、外祖父母ハ四等親、又外孫ハ五等親ノ内ニ、凡人相盜ハ、二等ヲ減シ、一等ヲ減ス、孫ハ祖父母ヨリ、外祖父母ハ、二等ヲ減シ、外孫ハ四等ヲ減ス、相盜ハ、尊長ヲ犯シ、尊長ハ、卑幼ヲ重ク、卑幼ハ尊長ニ及ホス、各重キノ律ニ依リ、外祖父母ハ外孫ヲ、尊長ハ卑幼ヲ、減スルノ例ニ照シ、外孫ハ祖父母ヲ、卑幼ハ尊長ヲ、減スルノ例ニ照シ、各一等ヲ減シ、若シ祖父母ハ外孫ヲ、尊長ハ卑幼ヲ、故ラ輕然ハ一等ヲ減シ、二等ヲ減シ、可シ申裁、六年八月二十九日指令

人強盜（並ノ押取リ）ヲ以テ論ス。

○三潴縣伺六年七月十五日指令

本例脚夫其寄托スル所ノ財物ヲ盜ム者、監守盜ヲ以テ論シ、贓役三年（貶七十五圓）

○置賜縣伺

壬申十一月中、雇人盜家長財物律御改正ニ付、右條中、諸官等ノ員、并宮華士族家令扶從等ノ雇ハル、者トハ、諸官等ノ雇日ニ至リ云々、年雇日雇ニ至ヨリ迄ヲ概シテ相稱シ候旨、御布達相成候處、今後戸籍届ス可キ者ハ、一等ヲ加ヘ。

凡奴婢。雇人。家長ノ財物ヲ盜ム者。凡一盜（召使フト。召使フト。闇ニ挾ノ人ハ、雇ハル、者トハ、諸官等ノ員、并宮華士族家令扶從等ノ雇日ニ至リ云々、年雇日雇ニ至ヨリ迄ヲ概シテ相稱シ候旨、御布達相成候處、今後戸籍届ス可キ者ハ、一等ヲ加ヘ。）ニ準シテ論ス。管守者ハ。一等ヲ加ヘ。罪。流三等ニ止ル。

奴婢盜家長財物

此條ハ。召使ヒ人。主人ノ物ヲ盜ムヲ云フ。家長ハ。其家ノアルジナリ。

改正雇人盜家長財物律

原奴婢盜家長財物ノ律

第百四十三條　凡雇人。家

例第百四十四條、脚夫馬丁車カ等ハ、雇人ニ非ス、昨年當省第百九十號布達ニ関渉セス、律例ノ通、處分スヘシ、

○愛媛縣伺

改正本律附例、凡旅店貸蔵、及ヒ雇工云々ハ、管守者ト罪同、雜犯律費用受寄財産條、凡他人ヨリ財物畜産ノ寄托ヲ受ケ云々ハ、坐贓ヲ以テ論シ、一等ヲ減ズト、夫レ同ク寄托ナリ、旅店雇工脚夫車丁等ハ、竊盗ニ二等重ク、凡人ナレハ五等軽シ、軽重ノ閒、頗ル平等ナラザルガ如シ、如何、

七年二月二日指令

脚夫車丁ノ如キハ、素ヨリ人ノ荷物ヲ運送スルヲ以テ渡世トスル者、行路ノ旅人ソレガ渡世タルヲ以テ、信任シテ托スル所ナレハ、深切ニ取扱フ可シ、然ルヲ自ラ盗ム、其罪軽カラズ、畢竟受寄財産律ト、一概ノ論ニ非ス、

○京都裁判所家令番頭及届濟以上ノ雇人、家長ノ財物ヲ盗ム者ノ伺

七年二月五日指令

家令扶従番頭手代ノ類ハ、同居各居ニ不拘、其他ノ雇人僕婢届以上ノ者ハ、弟百四十三條ノ律例ニ依ル可シ、但布達前後ノ別ナク、届ケ未濟ノ者ハ、凡盗ヲ以テ論スベシ、

○兵庫裁判所伺

費用受寄財産ト、本條中一時ノ寄托ヲ受タルト、刑名懸隔スト雖モ、其跡相近シ、到底其雇工錢ヲ受ルト、不受トヲ以テ、標準トナシ、區處可致候哉、

七年四月二十五日指令

雇錢ヲ受ケズト雖モ、一時他

長ノ財物ヲ盗ム者ハ。常人盗ヲ以テ論〔上ノ財ヲ番人デナキ者ノ盗ム罪ト同ジ科ニスルナリ。〕シ。管守者自ラ盗ム者ハ。監守盗ヲ以テ論ス。若シ管守者。私ニ自ラ借用シ。及ヒ人ニ轉借餽送スル者。罪。亦同〔支配人。無沙汰ニ私用ニ借リ。又他人ニ貸シ。遣ヒ物等ニスレバ。監守自盗ト罪同ジ。〕

雇人盗家長財物條例

第百四十四條　凡客廛倉戸及ヒ工人。舟子。脚夫。馬丁。車夫等。一時雇ヲ受クル者ト雖モ。其寄託〔頼ミヲ受ケテ預ルナリ。〕スル所ノ財物ヲ盗ムハ。並ニ管守者ト罪同。〔其場ノミノ依頼ヲ受レ者トテモ。雇人ノ管守スル者ヲ盗ム罪ト。亦同シコトナリ。〕

○京都裁判所伺

雇主ノ籍ニ在ル時、其財物ヲ盗ミ、雇主ノ籍ヲ離ル、ノ後、事發覺スト雖モ、仍ホ雇人盗ニ依テ斷ズ可キ哉、雇人盗ヲ犯ス者、糺彈推問中、雇主ヨリ離籍願出候ハ、聞届可然哉、

人ノ家ヲ監守スル者等、家主ノ財物ヲ盗ム者ハ、監守盗ヲ以テ論ズ

○小倉縣伺

僕婢車馬駕籠罰則第一條ノ三則ニ農工商其職業ノ為メ使用致候分ハ男女共無税ト有之、右無税ニテ使用スル男女其雇主ノ財物ヲ竊取シタルニ戸籍無届ニ係ル者ハ矢張リ凡盗ヲ以テ論シ可然哉

右無税ニテ使用ヲサセシ戸主戸籍届不致廉ハ違式ノ軽キ贖ヲ聽スカ又ハ呵責ニ止メ可然哉

七年九月十三日指令

第一二條戸籍届ベキニ係ル雇人其届未濟ニ家長ノ財物ヲ盗メハ律例第百四十三條ニ依ル可シ税ノ有無ニ拘ハラズ其無届ニテ抱ヘ置ク雇主ハ、僕婢罰則ニ依ル可シ

○滋賀縣伺

令茲ニ婦女二人申合セ家長ノ財物ヲ盗ミ事發覺セシヿヲ懼レ悔迫同死ヲ謀リ水ニ没スルノ處、一人ハ已ニ死シ一人ハ人ニ阻セラレ未ダ死セザル者アリ、右ハ姦夫姦婦同死ヲ商謀スル者ト其情自ラ異ナル所アリ、故ニ各自ニ死スル者ト見做シ、但ダ盗罪ヲ科シ同死ノ廉ハ不問ニ置キ可然哉、但シ本文人ニ同死ヲ勸メ勸メラル、者一人死シ勸ムル者ハ却テ死セザルトキハ不應為輕ニ問シ可然哉

七年十月二十七日指令

該犯二名深ク罪ヲ悔ヒ法ヲ懼ル、ノ情切ナリト雖モ、婦

一時雇入レニテ、其戸籍ニ編入セザルモノ、寄託ノ財物ヲ盗ムハ、凡盗ニ依テ斷ス可キ哉

例第百四十四條云々、是等ハ素ヨリ戸籍ニ関渉セザルヲ以テ仍ホ律例ノ通相心得可然哉

七年二月三日指令

第一二條伺ノ通

第三條例第百四十四條ニ明文アリ

第四條伺ノ通

○七年五月三十一日滋賀縣ヘ達書

昨六年十二月廿四日附伺、戸籍届未濟ノ雇人ハ凡人ヲ以テ論スト及指令候處、若シ家長届ケズ僕婢罰則ヲ犯スニ該レバ届未濟ト雖モ雇人盗家長財物律ニ依リ處分シ、其家長ノ寄托スル所ノ財物ヲ盗メハ、監守盗ヲ以テ論ズ、此段更ニ及御達候也

○新瀉縣伺

雇人其雇主ノ物品買入ノ為メ雇主ヨリ金銭及ヒ物品ヲ預リ出先ニ於テ遊蕩ノ為右金銭品物ヲ費用シ雇主ニ面目ナシト其儘他地方ニ逃走スル者ハ本條ニ依リ處斷スベキ哉相伺候也

七年十月十三日指令

伺ノ通

○山口縣戸籍届未濟ノ雇人戸主ノ寄托セル財物ヲ盗ム者ノ伺

七年十月二十八日指令

當省昨六年第百九十號ノ布達ハ戸籍届ケ可キ雇人ヲ云フ、例第百四十四條ノ一時雇ヲ受ル者トハ客臺倉庫及ヒ云々等ノ戸籍届ルニ及ザル

付、詐撰官ノ日難當相考候、一因テ恐喝取財ト見做シ、一ノ重キ逃亡律ニ依リ、杖八ルヘ加ヘ、

○名東縣伺

六年七月二十三日指令

本條恐喝シテ人ノ財物ヲ取者、窃盜ニ準シテ論シ、一等ヲ減ス、

十一月申伐、

○筑摩縣伺

凡竊盜財ヲ得ザル者ハ、懲役四十日ニ科ス、

懲役七十日〔賍金一圓餘〕

救產場ヲ脫逃スルハ、素無罪ノ者ナルヲ以テ、輕キガ故ニ論セズ、

凡恐喝シテ人ノ財物ヲ取ル者ハ、賊ニ計ヘ、竊盜ニ準シテ論シ、一等ヲ加フ、罪流三等ニ止ル、若シ二等親以下、自ラ相恐喝スル者、尊長ニテモ、卑幼ニテモ、各ソレカクル者、卑幼、尊長ヲ以テ論シ、凡人ヲ犯スハ、親屬相盜律ニ依リ、五等親ニテハ、一等ヲ減ス、凡恐喝シテ人ノ財物ヲ取ル者ハ、賊ニ計ヘ、竊盜ニ準シテ論シ、一等ヲ加フ、罪流三等ニ止ル、若シ二等親以下、自ラ相恐喝スル者、尊長ニテモ、卑幼ニテモ、各ソレカクル者、卑幼、尊長ヲ以テ論シ、凡人ヲ犯スハ、親屬相盜律ニ依リ、五等親ニテハ、一等ヲ減ス、

尊長、卑幼ヲ犯スハ、親屬相盜律ニ依リ、五等親ニテハ、一等ヲ減ス、一般ニ下リナレバ、二等下リナリ、四等親ナレバ、二等下リナリ、

遞減シテ罪ヲ科ス、

七年四月二十三日指令

幽可、然哉、

女ノ凝情ヨリ、自首スルヲ知ラズ、死シテ罪ヲ贖ハント欲スル者、姦ニ因テヲ同死スル者、情狀懸ニ異ナリ、其人ニ阻ト、救セラレテ、死セサル者、犯罪自首條ニ比擬シテ、其罪ヲ免スルヲ得ト雖モ、口供ニ就ザレバ、擬定シ難シ、罪案ヲ以テ再ヲ參看スル可シ、但書本文ニ依テ同ス可シ、

○名東縣伺

右ハ別紙罪案ノ通ニ付、逃亡、詐稱官、二罪ノ内、民部省、探索方ト申偽、奪徒ヲ威シ、金錢貪取候節、提燈ノ記ニ依リ、杖八十ニ處シ、重キ逃亡律ニ依リ、杖八十可申伐、

○京都裁判所、雇主ノ寄托金ヲ費用シ、追テ辨償セシ者ノ伺

七年十一月二日指令

雇書ニ、入レ委任ヲ預リ置ヶ端金毎月兩ハ證人ヲ雇ヒ主ノ出納ヲ計ヘ完納ハ問ハズ、金九十五圓三十圓ハ可成ヲ以テ、限内既ニ償却スル可キニアラズ、ヲ以テ、限内ニ償却スル可キニアラズ、ヲ以テ、限内既ニ償却スル可キニアラズ、ヲ以テ、

恐喝取財ノ

此條ハ人ノ物ヲ云フ。

親屬相盜律ニ見合ハスベシ。

準盗トイヘ共、恐喝取財ノ如キ加等スル者ハ、財ヲ得ストイヘ𪜈、一等ヲ加ヘ、懲役五十日、加等セサル者ハ伺ノ通、

○新潟縣伺

凡ソ恐喝取財、枉法ノ罪ハ、竊盗ヨリ重シ、而ルニ盗賊窩主條ニ、竊盗ノ贓タルヲ知テ受ル者ハ、贓ニ計ヘ、竊盗ニ準シ、從ト為シテ論シ、同條例ニ恐喝枉法等ノ贓タルヿヲ知テ受ル者ハ、坐贓ヲ以テ論スト之アリ、重罪ノ贓ヲ受ル罪ハ輕シ、輕罪ノ贓ヲ受ル罪ハ重キハ、如何ノ權衡ニ有之候哉、

八年三月二十日指令

恐喝取財ハ竊盗ニ一等ヲ加ルト雖モ、罪懲役十年ニ止ル、眞盗ニ非ス、枉法ハ竊盗ヨリ重シト雖モ、受ル者盗贓ヲ受ルヨリ輕キ、者ハ、取與俱ニ罪

○白川縣伺

爰ニ士族アリ、他家ニ於テ、滿醉歸路ノ際偶平民乗馬スルニ一時ノ便ニ因リ乗馬スル者遇フ、ハシメ貪財ノ情ナク、平民ニシテ其猥リニ乗馬スルヲ挾制シ、恐怖ノ色アルヲ見、忽チ酒代ヲ得シトノ慾情ヲ發起シ、取締組ト當縣取締組ハ捕亡吏ニテ追捕ノ權ヲ有スル者詐稱シ、事由ヲ官司ニ告シヿヲ示シ畏懼セシム、平民彌恐懼私和ヲ請フ、因テ新貨五十錢ヲ納レテ、之ヲ聽ス、右ハ詐偽律詐稱官條、凡無官ニシテ有官ト詐稱シ云々犯ス所輕キ者ニ擬シ、懲役七十日、閏刑條ニ照シ、禁獄ニ換ヘ、其財ヲ得ルハ、竊盗ニ準シテ論シ、一圓以下懲役五十日、破廉恥甚

アルノ贓ニ係レバナリ、

○滋賀縣伺

今茲ニ、心易キ他人ニ、先方ヘ屆呉候様、衣類等依託スルノ處、他人負困ノ餘、途中

シキヲ以テ論シ、名例律二罪俱發條例、凡華士族破廉恥甚ノ懲役百日以下ヲ犯シ、又閏刑ノ禁獄一年以下ヲ犯シ、二罪俱發スルハ、一ノ破廉恥甚ヲ以テ重シト為スト云フニ擬シ、除族ニ止メ可然哉、然ルニ右平民一時ノ便ニ因リ乗馬スルハ、罰則ノ問フ所ニ非ル旨、先般當縣ヘノ御指令有之、左スレバ其財ヲ出ス者、本ト無罪ノ人ナレバ、仍ホ恐喝取財ト云フニ擬スヘキ哉、

八年四月七日指令

恐喝取財ヲ以テ論ズ、

詐欺取財

此條ハ。人ノ物ヲダマシテ取ルヲ云フ。

○以前七

ニテ費用イタスハ、雇人又ハ脚夫等ニ無レ之候ヘハ、雇人盗家長財物ノ條ニ依リ難キ、平竊盗ノ條ニ照スヘキヤ、若シ質入イタシ償還スル心底アルハ、費用受寄財産ノ條ニ照ス可キ哉、

年二月十四日指令

半ハ、拐帯ヲ以テ論ス、若シ

下ハ、伺ノ通、

白川縣伺

従来梓巫市子并憑祈禱狐下抔ト相唱ヘ、玉占口寄等ノ所業ヲ以テ、人民ヲ眩惑セシメ候儀、自今一切被禁止候條、於各地方締方可相立旨、明治六年一月教部省第二號御布達ノ通ニテ、若シ違犯ノ者アレハ違令ニ科斷致ス筈ニ候處、謝金等多分ニ受候者、違令科ニテハ軽縦ニ失スルノ恐アル者ハ、如何處分可レ然裁、

前條教部省第二號御布達玉占云々ノ儀ハ相見候ヘ共、周易卜筮法ノ儀ハ、御禁止ノ御趣意ニ無レ之候ニ付、管内ニテ右ニ限リ制止セシメサル事ニ候處、其表分周易占所ト、看板ヲ掲ケ其實周易ノ旨趣一切相辨ヘサル者、徃々有レ之、情意愚民ヲ誑惑シ、以テ謝金ヲ貪ルノ我慾ヲ逞フスルニ外ナラス、今ヤ風教下ニ明カニスヘキ秋ニ齊リ、右卜筮者ノ為メ、無辨ノ小民、愈愚ヲ増シ、自然政治ノ妨害不レ少、就テハ不應為軽重ニ區處可致筈ニ候處、中ニハ數次ノ謝金併筭スレハ一圓乃至十圓多キハ二十圓以上ニ及フ儀モ有レ之、若シ賍ニ計ヘ重キ者ハ、詐欺條ニ照

詐欺ハダマスナリ。

凡官私ヲ詐欺シテ。財物ヲ取ル（或ハ公ケヲアザムキ。官物ヲ取リ。或ハ人ヲアザムキ。物ヲ取ルナリ。）者ハ。並ニ贓ニ計ヘ。竊盗ニ準シテ論ス。罪流三等ニ止ル。二等親以下自ラ相詐欺スル者モ。亦親屬相盗律ニ依リ。遞減シテ。罪ヲ科ス。若シ監臨（改メ役）主守（預リ役）監守スル（改メ預ル）財物ヲ。詐取スル（同僚ヲダマシテ。官物ヲ取ル。）者ハ。監守自盗ヲ以テ論ス。未ダ（官ノ財物）得サル者ハ（同僚ヲダマシタルバカリナリ。）其詐取セント欲スル數（取ラントタクミシ。官ノ財物ノ額數）ヲ計ヘ。二等ヲ減シ。罪ヲ科ス。若シ人ノ財物ヲ冒認（元ヨリ我カ物ナリト云フテ取ル。）シテ。己ノ物ト為シ。及ヒ誆賺（程能ク云テ。取リ込ミ返サヌナリ。）局騙（否ヤヲ云ハセズ。出サネバナラヌ様ニ。工夫メ取ル。）拐帯スル者モ。亦

第七

レ、竊盜ニ準シテ論レ、士族可
然哉、破廉恥甚ヲ以テ論決可
ノ請求ニ祈禱等ヲ浮言以
テ、愚民ノ三條ニ給ス可
ラス。罪流三等ニ止ル。親屬ナ
ラハ。亦親屬相盜律ニ依リ
遞減シテ。罪ヲ科ス。

○滋賀縣同

一寺住職ノ僧侶數人申合、
金ヲ出シ、農民所持ノ古佛
ヲ借リ受ケ、信州善光寺本
尊ト偽リ、所々ニ開帳シ衆
人ヲ欺キ、賽錢ヲ貪ル者
アリ、其賍金殆ント千圓ニ
及ンス、右ハ詐欺取財ヲ
以テ論シ、竊盜ニ準シ可然
哉ヲ存候ヘ共、神佛ノ開帳
ニ寶物ヲ稱シ、賤物ヲ貪ル弊習
ニ至レハ、不應為心得ニ
テ、何レモ重キ犯ニ擬シ、僧侶
ノ身トシテ

第七

一謝金現在ス。
年六月二十四日指令ニ科シテ
ノ通、違レハ追レ
レ、
舊ノ如キ、頑愚ノ小民等、病苦ノ祈禱ヲ
故ヲ以テ、疾病ニ或ハ死靈ト
倚賴スル邪神ノ崇リ抔ト、財
或ハ巧言人ヲ誑カシ、財
謂ツテ貪ルノ習弊往々有之、甚
ヲ以テ不相濟事ニ付、是亦不
為輕重ニ應シ、若重キ
所ノ謝金、賍區處ニ計ヘ、重
者ハ、仍ホ詐欺條ニ照シ、重
准シ、破廉恥甚ト云ヲ窺
盜以テ論決可然哉、

○青森縣同

盜賍タル知ラスシテ、盜
賍典賣ノ牙保ヲナシ、典賣
テ、金ノ内ヨリ、譬ハ十圓
圓、五圓ヲ三圓五十錢ト偽リ、二
圓或ハ一圓五十錢ヲ以テ
詐取スル者、詐欺取財ヲ
論シ、處斷致シ可然
哉、

十年十月十九日指令ノ通、

○長野縣同

本條ニ若シ監臨主守監守
スル財物ヲ詐取スル者ハ、
已ノ信尊スル處ノ佛ヲ以テ、衆人ヲ欺キ財ヲ貪ル者ハ、
官告ルニ就カ、職ヲ奪ヒ、破廉恥甚ヲ以テ
論シ、可然哉、但シ本罪實贓ニ
依リ上、得ル所ノ贓ヲ
ナルニ、
レテ、
ノ通、
レ、
慈惠スルニ、弊習ニ泥ミ、誑
ムヘシテ財ヲ貪ル者アレハ、
ヘテ、若シ應ニ身ノ業ニ
ノ僧侶ノ婦女ヲ分ケ、律ノ通區
處ニ、謝金現在スレハ、追
ニ、
青森縣同

○

盜賍タル知ラスシテ、盜
賍典賣ノ牙保ヲナシ、典賣
テ、盜金ノ内ヨリ、譬ハ十圓
圓、五圓ヲ三圓五十錢ト偽リ、二
圓或ハ一圓五十錢ヲ以テ
詐取スル者、詐欺取財ヲ
論シ、處斷致シ可然
哉、

十年十月十九日指令ノ通、

○長野縣同

本條ニ若シ監臨主守監守
スル財物ヲ詐取スル者ハ、

七年五月三十日指令

詐欺シテ財ヲ得サル者、竊盜
財ヲ得サル者ト、同ク論ス、

○置賜縣同

枉法ノ事ニ非スト雖モ甲
官吏ノ受理請求ヲ、乙ニ依

監守自盜ヲ以テ論ス、未タ得サル者ハ、其詐取セント欲スル數ヲ計ヘ二等ヲ減シ、罪ヲ科スト雖モ、假令ハ二百圓ヲ詐取セント欲シテ、未タ得サル者ハ、懲役十年ニ處セラルル可ク、然ラハ監守自盜條例、財ヲ得サル者ハ、懲役六十日トノ權衡如何可有之哉、

八本年四月十三日指令

律第二項ハ賍數憑據無キ者ハ、單ニ科料ニ處スル旨ヲ謂フ、其憑據アル者ハ、懲役六十日ヨリ二等ヲ減シ、但シ懲役ニ依リ、二等ヲ減シテ處分スル例ニ依テ處分ス、

○長崎裁判所伺

畧賣身代金、及ヒ牙保情ヲ知テ受ル等ノ賍金ハ、取與倶ニ罪アル儀ニ付、追徴沒官致シ可然哉、但シ費用スル者ハ、不及追徴儀ト存シ候

八年一月九日指令

伺ノ通、但書當省本年二十八號布達ノ通、心得ヘシ、

○同

名東縣伺

甲某貧窶生活ノ資ナク、糊口ニ迫リ、眼前ノ急ヲ救シ為メ、不得止其實女ニ、懇篤未ダ成サザル計リニテ、乙ヲ論シ說諭ヲ加ヘ、承服致サセ、乙ス。皆流二等、妻妾奴婢トス

凡人ヲ畧賣シテ娼妓トスル者ハ。徒二年半。因テ納得ヲ引出スニ付キテ。人ヲ殺傷スル者ハ。強盜ヲ以テ論ス。畧賣セラルヽ人ハ。坐セス。引出サルヽ人ハ。坐セス。

此條ハ。人ノ男女ヲ無理ニ引出シ。又ハ承知ヅクニテ引出シ。畧賣ルコトヲ云フ。畧賣ハ納得セシ者ト雖モ。連レ出スヲ以テ。畧賣ト見做ス。

○同

京都裁判所同

官林ノ竹木ヲ盜ム者、官物ヲ本律詐欺ニ準ジ。官物ヲ詐取スル者モ是又官物ノ財物ヲ詐欺シテ取ルナレハ。盜加ヘ罪ヲ一等ヲ加ヘ。官物ヲ治スル可キ哉、

七年十月十三日指令

重キ物ニ付テハ。盜罪ニ準ジ。加等スルト雖モ。故ニ官ニ私ノ區別無之、律ノ罰ス通心得可シ、

○同

二百四十四條ニ照シ。坐庭ニ送ルヘキ甲ヨリ取ルヘキ乙ヘ為ニ官吏ニ財物ヲ詐偽ニテ。若干金ヲ詐偽取セント欲シ。一等ヲ減シ可然哉、

七年八月十九日指令

依テ詐偽取財條ニ依リ。懲役十年ニ處スル旨ヲ謂フ、其憑據アル者ハ、懲役六十日ヨリ輕キ處分ス、

○同

京都裁判所同

官林ノ竹木ヲ盜ム者、官物ヲ本律詐欺ニ準ジテ官物ヲ詐取スル者モ是又官物ノ財物ヲ詐欺シテ取ルナレハ。盜加等ヲ以テ論ス。畧賣セラルヽ人ハ。坐セス。引出サルヽ人ハ。坐セス。

賴ミ、乙為ニ官吏ニ財物ヲ送ルヘキ甲ヨリ取ルヘキ乙ヘ為ニ官吏ニ財物ヲ詐偽ニテ。若干金ヲ詐偽取セント欲シ。一等ヲ減シ可然哉、

八年一月九日指令

伺ノ通、但書當省本年二十八號布達ノ通、心得ヘシ、

○同

名東縣伺

甲某貧窶生活ノ資ナク、糊口ニ迫リ、眼前ノ急ヲ救シ為メ、不得止其實女ニ、懇篤未ダ成サザル計リニテ、乙ヲ論シ說諭ヲ加ヘ、承服致サセ、乙ス。皆流二等、妻妾奴婢トス

凡人ヲ畧賣シテ娼妓トスル者ハ。徒二年半。因テ納得ヲ引出スニ付キテ。人ヲ殺傷スル者ハ。強盜ヲ以テ論ス。畧賣セラルヽ人ハ。坐セス。引出サルヽ人ハ。坐セス。

此條ハ。人ノ男女ヲ無理ニ引出シ。又ハ承知ヅクニテ引出シ。畧賣ルコトヲ云フ。畧賣ハ納得セシ者ト雖モ。連レ出スヲ以テ。畧賣ト見做ス。

○長崎裁判所伺

畧賣身代金、及ヒ牙保情ヲ知テ受ル等ノ賍金ハ、取與倶ニ罪アル儀ニ付、追徴沒官致シ可然哉、但シ費用スル者ハ、不及追徴儀ト存シ候

八本年四月十三日指令

律第二項ハ賍數憑據無キ者ハ、單ニ科料ニ處スル旨ヲ謂フ、其憑據アル者ハ、懲役六十日ヨリ二等ヲ減シ、但シ懲役ニ依リ、二等ヲ減シテ處分スル例ニ依テ處分ス、

○同

京都裁判所同

官林ノ竹木ヲ盜ム者、官物ヲ本律詐欺ニ準ジテ官物ヲ詐取スル者モ是又官物ノ財物ヲ詐欺シテ取ルナレハ。盜加等ヲ以テ論ス。畧賣セラルヽ人ハ。坐セス。引出サルヽ人ハ。坐セス。

百八十七條違制重ニ依リ問ナシ。擬レ懲役百日、乙某ハ違制ノ身ヲ渡シ遣ハヾ。親屬和誘承知雙方ニ引出サレ出ス。テ。引出ス。還付ス。

輕懲役九十日、甲所得ノ者ヲバ。親屬ノ上ニ連レ出ス。テ。

代金、及ヒ牙保乙受ル所ノ代金、丁受ル所ノ謝金モ、亦追徵官沒致候哉、

謝金ハ、并ニ賊金ト見做シ、追徵官沒ス。

丙某ノ寶女ヲ、一箇年或ハ三箇年李ヲ、五十圓百五十圓ニテ、甲某ト相對シ、自己ノ都合ニ依リ、丁某媒介ニテ、戊某ヘ一箇年三箇年李ヲ、又若干金ニテ和賣致シ、藝娼妓ニ致サセ候者、丙戌ハ例第二百八十七條、違制重懲役百日、丁ハ違制輕懲役九十日、丙所得ノ身ヲ渡シ遣ハヾ。親屬和誘承知雙方ニ引出サレ出ス。テ。

明治五年壬申十月、藝娼妓解放ノ際、親屬ヘ還付スヘキ藝娼妓ノ内、幼年極窮ト和誘ト賣ル者ニ一等ヲ減シ。牙保（世話口入ヲセシ者。）受ケ人ニ立タル者。ハ。又一等ヲ減ス。

科ノ時、親ニ離レ、戻箇所ヘ轉賣セラレ、父母ノ姓名及ヒ所在知ラサル者、歸籍スル者、及ヒ牙保乙受ケ人ニ立タル者。ハ。又一等ヲ減ス。十歲以下ハ。和ト雖モ。

第一條　父子熟談シテ、金圓ヲ以テ、娼妓營業ノ者ヲ引出シ、或ハ藝娼妓ノ内、幼年極窮ト和誘ト賣ル者ニ一等ヲ減シ。牙保（世話口入ヲセシ者。）受ケ人ニ立タル者。ハ。又一等ヲ減ス。

八年一月九日指令

第百四十五條　凡人ヲ畧賣シテ。雇人（レヤトハト為ス者ハ。懲役二年半。其賤ク同斷養女ニ致シ、娼妓ニ致シ、乞請スル者ハ。懲役二年。

畧賣人ノ條例

皇朝律例彙纂　巻三　賊盗律　畧賣人　七十八

所、其藝娼妓ノ内、幼年極窮ト和誘ト賣ル者ニ一等ヲ減シ。牙保（世話口入ヲセシ者。）受ケ人ニ立タル者。ハ。又一等ヲ減ス。

ノ時、親ニ離レ、戻箇所ヘ轉賣セラレ、父母ノ姓名及ヒ所在知ラサル者、歸籍スル者、及ヒ牙保乙受ケ人ニ立タル者。ハ。又一等ヲ減ス。

所、其藝娼妓ノ内、幼年極窮ト和誘ト賣ル者ニ一等ヲ減シ。牙保（世話口入ヲセシ者。）受ケ人ニ立タル者。ハ。又一等ヲ減ス。

第一條　父子熟談シテ、金圓ヲ以テ、娼妓營業ノ者ヲ引出シ、或ハ藝娼妓ノ内、幼年極窮ト和誘ト賣ル者ニ一等ヲ減シ。牙保（世話口入ヲセシ者。）受ケ人ニ立タル者。ハ。又一等ヲ減ス。

八年一月九日指令

第百四十五條　凡人ヲ畧賣シテ。雇人（レヤトハト為ス者ハ。懲役二年半。其賤ク同斷養女ニ致シ、娼妓ニ致シ、乞請スル者ハ。懲役二年。

畧賣人ノ條例

第六條　同ノ通、但纏頭金等現在セサレハ、追給スルヲ減ス、

第三條　孫ヲ略賣スル者ハ、以テ養女ヲ賣ル者ニ一等ヲ減ス、

第四條　不問ニ置ク買ヘシ、情状ナキハ、

第五條　一等ヲ減シ、乎保ハ又一等ニ

第二條　徴スルヘシ、其身代金等ハ、追テ出ヘシ、

第一條　置スルノ限リニ在ラス、

情状ト異ルヲ以テ、不問ニ

共、人身賣買ヲ以テ娼妓ヲ

年季ヲ以テ娼妓トスルハ、

借用シ、其抵當ノ為メ、女

○三潜縣同

酌取女ト唱ヘ、料理店等ニ相雇居候者、客ノ挑ニ應シ、和淫致シ、金錢又ハ物品等ヲ受用致候節ハ、其金錢物品等ヲ請取ヲ以テ、賣淫ノ處分致可キ哉、未タ人處女等ヲ賣淫致候ハヽ、是又同樣可ニ及ヒ候ト、一男子ニ接シ候ト、區別有レ之儀ニ候哉、

八年一月十七日指令

價ヲ定メ金錢ヲ取リ淫ヲ賣ル者ハ、私娼街賣律ニ依ル價ヲ定メス、止タ和淫ノ後、金錢ヲ貰受ル者ハ不問ニ置ク、

○福島縣同

第百四十六條　凡妻ヲ畧賣シテ。娼妓ト為ス者ハ。凡一人ヲ畧賣法ニ依ル。和賣スル者ハ。懲役七十日。

已レノ妻ヲ。承知セメ。ニ賣ルナリ。凡一人ヲ畧賣法ニ依ルナリ。夫婦ノ間ニ。拘ヲムリニ賣ル。掟ニ依テ捌クナリ。和賣ハ。承知ノ上ヘニテ賣ルナリ。

第百四十七條　凡子孫ヲ畧賣シテ。娼妓ト為ス者ハ。懲役五十日。妹姪。及ヒ外孫ハ。各二等ヲ加フ。

妹ハ。イモウト。姪ハ。兄弟ノ子。外孫ハ。我ガ娘ノ。嫁ンテ生ノル子ナリ。コレヲ畧賣シテ。娼妓トナス者ナリ。

第百四十八條　凡人ヲ畧賣シテ。自己ノ妻妾雇人ト為ス者ハ。畧賣ト罪同シ。

第百四十九條　凡人ノ妻ヲ畧シテ。他人ノ妻妾ト為シ。及ヒ自己ノ妻妾ト

本律和誘トハ、和同相誘ノ二ツヲ、即チ彼是互ニ情ヲ誘モ情ニルノ謂ニ出テ、誘レ誘セラルル、情ノ其甘レ、無ク誘レ者ハ。懲役三年。和誘スル者ハ。懲役三年。和誘スル者ハ。各一等ヲ減シ。誘セラル、婦女ハ。各三等ヲ減ス。

第百五十條　凡人ヲ畧シテ。外國人ニ賣ル者ハ。成否（賣リ渡シクルト。マダ賣リ渡サヌトナリ。）ヲ論セス。皆懲役十年。因テ人ヲ傷スル者ハ。皆懲役終身。殺ス者ハ。皆斬。其和誘スル者ハ。一等ヲ減シ。誘セラルヽ人ハ。三等ヲ減ス。若シ子孫ヲ畧シテ。外國人ニ賣ル者ハ。懲役一年。和賣スル者ハ。一等ヲ減ス。和畧（和ハ。上ノ和賣ニテ。同心シテ賣リ。賣ラルヽナリ。畧モ。上ノ畧賣ニテ。本人同心セヌニ。引出シテ賣ルナリ。未タ成ラサル者ヌナリ。）未タ成ラサル者ハ。

出ルヲ以テ主トナシ、皆和誘ニ問テ可ト然裁、然ハ秋田縣伺御指令ニ、和誘ハ有夫無夫ヲ以テ區別シ、無夫ハ私擅ニ他管ナレハ有夫ニ依テ論シ、有夫ハ例ニ出ルヲ以テ論ス。第百四十九條　誘セラルヽ三年、誘セラレ懲役三年ニ減ス云々ト雖モ、又滋賀縣伺御指令ニ、無夫ノ婦ヽ亡夫和姦後、和誘ニ逃亡シ、或ハ他ノ契ノ固ト和姦ノ後、夫ノ管擅出シテ、私ニ夫ヲ約ヲ為ス者ハ、無夫姦ノ和誘ニ同シ、不問ニ置ク論ト雖モ、本條ノ通リ、右兩御指令ニ據レハ、例ニ相矛盾スルニ似タリ。然レトモ無夫ノ人ヲ略シ、已ノ妻妾雇人ト為スノ情願ニ非ス、即チ彼是平和ニ由テ、誘セラレ誘スル者ニ於テハ、例ニ同シ。

テ詐騙ノ意アリ、其骨肉ヲ不レ省、他所ニ潜匿シ、公私ノ尋ヲ受ケ、終ニ捕縛ニ就スモノヲ、無夫ト雖テ無罪ニ處スル婚姻ノ時ハ、父母ノ許サヌ濫ヲナサレヌ、其淫風ヲ助ケ、各當ヲ得サル者ノ如シ、各一等ヲ減ス。

ハ。和畧ノ罪ニ。又一等ヲ減ス。賣ラルヽ卑幼ハ。和スト雖モ坐セス。若シ外國人ヲ買フ者ハ。前ニ照シテ各一等ヲ減ス。（同科ヲレ）

○

東京裁判所伺

昨七年秋田縣ヨリ和姦ノ未、逃亡ノ者處斷同ニ、和誘セラルヽ者、無夫ナレハ逃亡律ニ照シ、各處分シ、有夫ナレハ例ニ依リ、懲役三年云々、若シ通姦セサレハ、婦女ハ收贖ヲ聽スト有之、福島縣伺指令ニ、姦事ニ因テ鬪毆ヲ生レ、又ハ共ニ逃走ノ末、捕獲ニ就キ、獄ニ於テ姦情ヲ吐露スルニ至レハ、本夫ヨリ告訴スルニ雖モ、本夫ハ問ハスト有之、右ハ共ニ逃走スル者、姦罪ハ問ハサルモ、前文秋田縣伺指令ニ依レハ、和誘ノ罪ニハ坐レ候儀ト相心得可然哉、

八年三月十二日指令

他人ノ妻妾ヲ、和賣レテ娼妓ニ為ス者ハ、本律和誘スル條ニ依ル、子孫ハ、律例弟百四十七條ノ畧賣ノ罪ニ一等ヲ減ス、

○福岡縣參事水野千波、管下東民蜂起進退伺ノ擬律

六年九月十七日指令

本條凡他方官督撫ニ失レ云々、懲役百日、士族贖例ニ依、贖金七圓、

水野千波

五十錢宛

尚靜

○小田縣伺六年九月十九日

凡兇徒（キヨウト）。衆（シウ）ヲ聚（アツ）メ。大勢徒（ト）黨（タウ）ヲ結（ムスブ）ナ

此條ハ。惡徒（アクト）申合セテ。一揆（イツキ）ヲ企（クハダ）ツルヲ云フ。

指令

舊知事ノ出京ヲ抑留センカ為ノ多衆ヲ教唆シ官ニ強逼スト雖モ素志累世ノ鴻恩ヲ感戴シ戀惜ノ切迫ニ出ルモノニシテ村市ヲ毀壞燒亡スルハ別ニ兇惡人ノ造意ナレハ情狀ヲ原諒シ減等ス可キ處其阻抑ノ良說ヲ用ヒス頑固執拗ニシテ尚ホ衆ヲ煽動シ勢ヲ助クルヲ以テ賊盜律兇徒聚衆條例凡衆ヲ聚メ訟ヲ攜ヘ官ニ強逼スト雖モ良民ヲ擾害スルニ至ラサルノ首ヲ以テ論シ准流十年　渡邊發平

○權少判事大久保親正伺

舊津山縣卒當時平民籍其身一代限給米有之候者先般北條縣下暴動ノ節兇徒ニ脅誘サレ隨行致スニ付平民例ヲ以テ違令輕三十日ノ贖罪金可申付ノ處士族ハ破廉恥甚ヲ以テ除族收祿申付有祿平民ハ贖罪金迄ニテハ士族收祿トノ權衡ヲ得サルニ付右權衡ヲ以テ收祿ノミ申付候テハ如何哉

七年一月八日指令

兇徒ニ脅誘セラレ場ニ在テ勢ヲ助ル者綱領之ヲ勿論ニ置ク條例改テ違令ニ問ヒ贖罪ヲ聽ス是專ラ平民ノ為ニ設クルニ非ス士族犯ス者モ亦此例ニ依ル且平民ノ犯罪贖罪ヲ聽ス者士族モ亦贖罪ニ處スルハ各條皆同シ本文ノ如キ情狀ヲ審糾スルニ實ニ兇徒ニ脅誘サレ不得止シテ勉從シ毫モ抗官拒捕等ノ情事無キ者口供審確ナレハ破廉恥ヲ以テ論ス可ラス平民ト同ク贖罪スルコトヲ聽ス

リ。（三人以上聚ルヲ衆ト云フ。）村市ヲ毀壞燒亡シ。（市村ヲ打コハシ。燒拂フナリ。）財物ヲ劫奪シ。若クハ人民ヲ殺死（コロスナリ）スル者。造意ハ。斬。從ハ。流三等。從ノ手ヲ下シ。（發頭人ニテナキ者。自身手ニ掛ケテナリ。）人ヲ殺シ。火ヲ放ツ者ハ。絞。其止タ附和隨行シ。場ニ在テ勢ヲ助クル者（誘レテ同行シ。其場ニテ兇徒ノ加勢スル者。）ハ。論スルコト勿レ。若シ地方ノ凶荒ニ乘シ。（凶年不作ヲ幸ヒノ手ヨリトスルナリ。）衆ヲ聚メ。良民ヲ擾害シ。（上ノ掟ヲ守ル者ヲ騷動サセ。產業ヲ妨ケルナリ。）官長ヲ挾制シ。（己レノ人數ヲ力ニ。支配頭ヲ蔑ロニスルナリ。）及ヒ賑貸稍遲キニ因テ。（少シ手後レナルニ。事ヨセテナリ。）村市ヲ搶奪シ。官廨ニ喧閙シ。（掟ヲモ憚ラズ。役所ニテ騷ギ立ツコト。）及ビ私憾ヲ懷挾シ（一己ノ憤リヲ散サン為メナリ。）衆ヲ聚メテ市ヲ罷メ。（騷動ノ為ニ。市町モトヂテ。商賣ヲ止ムル。）官ヲ辱ムル（支配頭ノ類ノ

○大分縣ヘ達書七年五月十七日
其縣黨民暴動ノ勘、當省官員出張及ニ處斷候、貫屬士族元卒并一寺住職ニテ附和隨行ノ者、破廉耻甚者ヲ以テ論シ除族還俗申付候ハ誤刑ニ候條、左ノ通改正可致事
兇徒ニ附和隨行スル者、不應為重ニ問ヒ除族スル者、改正シ、雜犯律違令輕ニ問ヒ懲役三十日、人ノ官ニ陳告セント欲スルヲ知テ自首スルヲ以テ一等ヲ減シ、贖ヲ聽スヘキ處、除族スルヲ以テ更ニ贖金ヲ徴セス、眞下正直ハ族祿ヲ復シ、元卒當主ハ籍祿ヲ復シ、二三男ハ復籍ス
士族
眞下正直
外十人
戸長ニテ隨行スル者ハ違令重ニ問ヒ懲役四十日、其他士

〔立タヌヤウニスル。〕者。並ニ首ハ。絞。從ハ。流三等。其餘ノ附隨ハ。亦論スルヿ勿レ。

兇徒聚衆條例

第百五十一條　凡兇徒聚衆ノ從〔發頭人ニ從ヒシ者〕ニシテ。情〔其惡事ノウチナリシ〕輕キ者ハ。懲役三年。

第百五十二條　凡附和隨行〔從ニ似タレド。從ハモト首ノ發起人ト同意セシモノニテ。附和隨行ハタミ其場ニテ行タ者ナ

族卒ハ輕ニ問ヒ各三十日贖ヲ聽スヘキ所、除族スルヲ以テ、更ニ贖金ヲ徴セス、士族當主ハ族祿ヲ復シ、元卒當主ハ籍祿ヲ復シ、二三男ハ復族復籍ス、
元卒梶原兵治
戸長タルヲ以テ違令重ニ問ヒ、贖ヲ聽スヘキ處、除族ニ論決ノ後、告上詐不以實、懲役八十日ノ罪發スルヲ以テ前罪四十日ニ通計シ後數ニ充ヲ八十日、小澤德五郎ハ違令輕ニ問ヒ三十日後罪ヲ通計シ八十日ヲ贖罪セシムヘキ處除族スルヲ以テ更ニ贖金ヲ徴セス、當主ハ族祿ヲ復シ、二三男ハ復族ス、
士族副戸長渡邊直彦
同保長小澤德五郎
一寺住職ニテ還俗スル者、更贖金ヲ徴セス、寺職ヲ經テ、

リ。〕シテ。火ヲ放ツ者ハ。從ニシテ。火ヲ放ツ者ニ。二等ヲ減シ。懲役十年。其脅誘セラレテ。火ヲ放ツ者ハ。懲役三年。其餘。牆屋〔塀ヤ住居〕ヲ毀ツ者ハ。不應為重ニ問フ。〔條理ニ於テ。ナスベカラザルヿフ為ス罪ノ重キ方ニ。當テ捌ク〕其止場ニ在テ。勢ヲ助クル者〔兇徒ノ加勢スル者〕ハ。勿論ノ律〔綱領ニ論ズルヿ勿レト。アル律文ヲ受テ云フ。〕ヲ改

退隱スル者ニ引直ス、

親外二人光

○

事名東縣ヘ達書、七年五月十七日

従來卒身分改定ノ儀ニ付テハ、明治五年第廿九號ノ御布告ノ際、未タ之ヲ改定セス、既ニ卒ノ廢止ヲ除クノ外、一時舊籍ニ依テ、今ニ後上文御布告ニ復セシムルノミ、爾後上平民ヲ區別改定スルニ基キ、士族ト平民トノ間ニ當リ、當省ニ於テ、更ニ論セサルヲ以テ、別紙擬律ノ通改正相成候、此段及御達候也、可有之候、

光除共殿

令ノ輕キニ從ヒ、重ヲ分チ。贖罪スルヲ聽ス。○科輕キト。重キト見合セ。定メ。贖ハスルナリ。

第百五十三條　凡衆ヲ聚メ。訟ヲ搆ヘ。（人ヲ搆ルニ事ヲ官ニ）強逼（強情ニ申立ルニ）スト雖モ。良民ヲ擾害スルニ至ラサル者。首ハ。懲役十年。從ハ。一等ヲ減ス。從ニシテ情輕キ者ハ。二等ヲ減ス。

第百五十四條　凡地方官。

九年四月下四日第四十八號御布告ヲ以テ第百五十四條例廢止

處、隨行中、人ノ邏卒ヲ共殿スルニ衆ヒ、同ク殿ソトモ、拒テ以人ヲ捕ンテ殿ス者ニ非ルヲ以テ、人ヲ棒ヲ以テ鬪殿律ニ石ヲ傷ヲ成サ、擬ルニ者ヲ、擬シ、人ヲ殿ス者ニ後三十日、邏卒ヲ殿ツ者ニ懲役百日。輕キ付、凡鬪殿ニ二等ヲ加ヘ、二罪俱發、一ノ重キ禁錮五十日ニ處スヘキ。處、除族スルヲ以テ更ニ禁錮ニ處セス、復族ス、

田中多作

同上、違令ノ輕ニ問ヒ、懲役三十日、贖ヲ聽スヘキ處、除族スルヲ以テ更ニ贖金ヲ徵セス、復族ス、

岩田傳九郎

○埼玉裁判伺

武藏國埼玉郡柴山村枝郷

督無ニ失レ。民衆ノ騷擾ヲ致レ。（治メ方惡レキユ下々ノ驗動）又ヒ兇徒衆ヲ聚オコルナリ。潛匿（人知レヌ場所ニ隱レ居ルナリ。）スルヲ覺察セス。（心付カサヌナリ。）卻テ他管（他ノ支配）ニ覺知（其事ヲ見出スナリ。）セラルヽ者ハ。懲役百日。輕キ（其事ニテハナキナリ。）者ハ。懲役七十日。

夜無故入人家

農進藤平次郎儀、罪宗之器ノ通、盗犯ト誤認シ、父ヲ毆傷スル者ニ付、例第二百二十八條ニ依リ、懲役一年實、斷スヘキ哉、乍併當初該父ノ無狀ヨリシテ、偶致ニ至ルノ事、情狀最憫諒スヘキアルヲ覺ヲ更ニ減宥ノ法モ有之候裁、決兼候間、相伺候也

七年七月二十二日指令

暗夜家内ニ捜索スル者アリ、再三誰何スト雖モ、不答、由テ盗犯ナリトシ、追逐之ヲ毆傷シ、初テ其父ナルヲ知ル、本條別有罪名條、其罪本重カルヘクシテ犯スス知ラサル者ハ、凡人ニ依テ論ストアルナヘク、テ夜無故入人家條、故ナクシテ人家ニ入ル者ハ云ク、家主即時ニ殺死スル者ハ論スルヿ匆レト云ニ擬シ、其罪ヲ問

此條ハ。用モナキニ夜ル人ノ家ノ内ニ入ルヲ云フ。故ナキ廉ハ。何ノ用事ト云フモナキナリ。

凡夜故ナクシテ。人家ニ入ル者ハ。笞三十。家主。即時ニ殺死（其者ヲ）スル者ハ。論スルヿ匆レ。イカナル所存アリテ。奈何ナル事ヲ仕出スモ計ラレサレバナリ。其已ニ拘執ニ就ク（其者捕押ヘニナル。）ヲ擅ニ（家主自儘ニナリ。）殺傷スル者ハ。闘殺傷ニ。二等ヲ減ス。

ハス、

第百五十五條　夜無故入人家條例

凡黒夜（ヤミノヨ）田野ノ穀麥菜菓ヲ竊取（ヒソカニヌスムナリ）シ。或ハ白日（マヒル）人家ニ入リ。及ヒ市井（マチナカナリ）田野。人ノ看守（ルスヲ番ナリ）スル器物ヲ盜ム。事主。看守人。追捕毆打シテ。死ニ至ル者（盗主ヤ）。夜番ノ者ガ。其盗ム者ヲ追ヒツメ。捕押ヘテ。毆キ殺スハ。盗所ヲ離ルヽト。

○石川縣情ヲ知ラ盜贓ヲ受ルニ三犯ニ及ヒレ伺

七年二月十二日指令

強竊盜ノ贓タルコヲ知ラ、受クル者ハ、再犯ニ上ハ一等ヲ加ヘ、罪、懲役七年ニ止ム可シ。

○若松縣伺

盜贓タルヲ知ラス、典賣ノ牙保テスモノ、其贓ヲ追徵スルニ、盜犯資力アル者ナルニ。向ヒスルナリ。即時物ヲ持テ。手ヲ捕ヘ格鬪ヒツカミアリ。殺死スル者ハ。罪一人ニ拒捕律ニ依ル。

盜賊窩主

此條ハ。兇者ノ宿ヲスル者ノコヲ云フ。

凡強盜ノ窩主。造意スルハ。身同ク行ハスト雖モ。但タ賊ヲ分ツ者ハ。行フ者ト罪同。強盜ノ宿ヲスル者。強盜ノ宿言ヒカケテ。其泊ルニ。遣リ強盜タル者ノミヲ遣リテ。強盜ヲサセ。自分ハ。盜ミニ出ズ。盜者ヨリ。盜ミ得タル財物ノ。分配ヲ受ケ否。盜ミノ場所ニテナク。盜ミノ場所ナリト。賊ヲ得ルト。否。賊物ヲ得ルトモ。盜ミマミズ。空手ナリトモ。又ハ。問ハス。懲役二年。打捕ヘ殺テ。其已ニ拘獲ニ科セラレ者ノ。掛ケ縄ニ就ク。復タ。事後毆打レテ。擅ニ殺傷スル者。折傷以上ハ。鬪毆傷ニ。一等ヲ減ス。若シ盜犯。拒捕ス兇器ヲ持シ。拒捕ナリ。賊ヲ分ツ者ハ。行フ者ト罪同。

再犯以上ハ、本罪ニ一等ツヽ、十。

○加フルヲ云フ、

福岡縣伺

兄同居ノ子弟一己ノ意ヲ以テ他ニ竊盜ヲナシ、携歸ル贓物ヲ、其父情ヲ知テ販賣シ代價ハ父子倶ニ費用ナス、父本條盜贓タルヲ知テ、典賣ノ牙保ヲナシ、別ニ金ヲ受ル者ニ擬シ、處斷ス可然哉、但本文ノ如キ所業、再犯三犯ニ係ル者ハ、一等ツヽ、若シ累加スヘキ乎、若シ累加スヘキ乎、罪懲後何年ニ止ルヘキ哉、

七年十月十九日指令

伺ノ通、但シ三犯ノ罪重キ者ハ、重ニ從テ論ス、

○名束縣伺

兄弟アリ、兄ナル者、五等親以上ノ物品ヲ竊取シ、弟ナル者ニ典賣或ハ賣捐シ、暫時傭使セシムル者ハ、坐セス。

若シ竊盜ノ窩主、造意スルハ、身同ク行ハスト雖モ、但タ贓ヲ分ツ者ハ、首（造意ノ發起人）ト為シテ論ス、若シ行ハリナト為シテ論ス、（竊盜ヲ為サズ）又贓ヲ分タサル者ハ、從（發起人ニ隨從者）ト為テ論ス、

○臨時主意（リンジシユイ）

其情ヲ知ラスシテ、（盜人ト）ハ、知ラス、（暫時傭歇（ザンジヤトケツ）ス、）

存在シ、半ハ轉タ贓ノアル所ヲ知ラス、若クハ衣類等ニテ着古ス者、皆牙保ヨリ追徵シ可然哉、

七年五月三十日指令

第一條 伺ノ通、

現在ノ贓ハ、律例ニ照シ、追徵シ、其轉輾シテ所在ヲ知ラサル者ハ、費用トナシ、追徵スルヿ勿シ、但着古シタル衣類ハ追給ス、

○滋賀縣伺

本年石川縣御指令ニ、強竊盜ノ贓タルヿヲ知テ受ル者ハ、再犯以上ハ一等ヲ加ヘ、罪懲後七年ニ止ムヘキ可シ一等ツヽ、三犯以上七年ニ止ルヘキ儀ハ、一等ヲ加ル儀ト、累加スル儀ハ再犯ハ一等ヲ加ヘ、然カ又三犯以上ハ一等ヲ加ル儀ト、相心得可然哉、

七年六月二十四日指令

第一條 伺ノ通、

現在ノ贓ハ、律例ニ照シ、追徵シ、其轉輾シテ所在ヲ知ラサル者ハ、費用トナシ、追徵スルヿ勿シ、但着古シタル衣類ハ追給ス、

罪同。（宿主ト盜ミ發起ニ相談ハアレ共盜ミ出サズ謀リ分配ヲ受ケ行ハス。）

造意セス。同ク行ヒテ贓ヲ分タス。及ヒ同ク行ハスシテ贓ヲ分ツ者ハ。行フ者ト。科同。（自身強盜セシ者ト。）若シ同ク行ハス。又贓ヲ分タサル者ハ。徒二年。其窩主。共ニ謀テ。（若シ同ク行ヒテ。贓ヲ分タサル者ハ。）杖八。

兌換セシ店鋪、或ハ公商ヨリ買取ル贓ノ伺、

七年十二月二十三日指令、

盜賊ヲ知テ故ラニ買フ者ハ。買フ所ノ物ヲ計ヘ。坐贓ヲ以テ論（盜ミ物タルコヲ知リテ買ヘバ。其買タル物ヲ贓ト為シ。坐贓一律ス。知テ為ニ寄藏スル者（盜ミ物タルコヲ知リナガラ。預リ置ク者。）ハ。故サラニ買フ者ニ。一等ヲ減ス。知ラサル者ハ。並ニ坐セス。

竊盜ニ準シ。從ト為シテ論（眞ノ竊盜ニハ非ザレ𪜈。其部ニ引發起人ニテハナキ。隨從ノ科ト。ミナス。）其盜贓ヲ計ヘ。坐贓一律ス。知テ為ニ寄藏スル者（盜ミ物タルコヲ知リナガラ。預リ置ク者。）ハ。故サラニ買フ者ハ。並ニ坐セス。

○大坂裁判所、盜賊ヲ知ラス、又ハ贓ヲ分ツ者ハ。仍ホ從ト為シテ論ス。若シ行ハス。贓ヲ分タサル者ハ。笞三十。

七年十二月二十三日指令、

盜賊ヲ知テ故ラニ買フ者ハ。買フ所ノ物ヲ計ヘ。坐贓ヲ以テ論（盜ミ物タルコヲ知リテ買ヘバ。其買タル物ヲ贓ト為スト雖モ。坐贓一律ス。知テ為ニ寄藏スル者（盜ミ物タルコヲ知リナガラ。預リ置ク者。）ハ。故サラニ買フ者ハ。並ニ坐セス。

七年十二月廿七日指令、

盜賊ヲ知テ故ラニ買フ者ハ。買フ所ノ物ヲ計ヘ。坐贓ヲ以テ論（盜ミ物タルコヲ知リテ買ヘバ。其買タル物ヲ贓ト為スト雖モ。坐贓一律ス。知テ為ニ寄藏スル者（盜ミ物タルコヲ知リナガラ。預リ置ク者。）ハ。故サラニ買フ者ハ。並ニ坐セス。

○違式輕ニ問ヒ贖ヲ聽ス、

京都裁判所伺、

爰ニ甲ヨリ乙ナル者ヘ、金若干ヲ貸シ置ク處、返濟期限ヲ過ルニ依リ、甲督責ニ至リテ特ニ法アリ、牙保等賠償ノ資力ナキ者ハ、例百五十六條ノ通處分スヘシ、

○大分縣伺、

例等百五十六條、盜贓タルヲ知テ、典賣ノ牙保ヲ為スモノ云々、坐贓ヲ以テ一等ヲ減スト雖モ、右牙保ノ約ヲ為シ、未タ典賣セサル者ハ、何ノ責ニテ可ト然哉、

七年十二月廿七日指令、

盜賊ヲ知テ故ラニ買フ者ハ。買フ所ノ物ヲ計ヘ。坐贓ヲ以テ論（盜ミ物タルコヲ知リテ買ヘバ。其買タル物ヲ贓ト為スト雖モ。坐贓一律ス。知テ為ニ寄藏スル者（盜ミ物タルコヲ知リナガラ。預リ置ク者。）ハ。故サラニ買フ者ハ。並ニ坐セス。

○違式輕ニ問ヒ贖ヲ聽ス、

京都裁判所伺、

爰ニ甲ヨリ乙ナル者ヘ、金若干ヲ貸シ置ク處、返濟期限ヲ過ルニ依リ、甲督責ニ至リテ特ニ法アリ、牙保等賠償ノ資力ナキ者ハ、例百五十六條ノ通處分スヘシ、

○大分縣伺、

例等百五十六條、盜贓タルヲ知テ、典賣ノ牙保ヲ為スモノ云々、坐贓ヲ以テ一等ヲ減スト雖モ、右牙保ノ約ヲ為シ、未タ典賣セサル者ハ、何ノ責ニテ可ト然哉、

七等

○大坂裁判所、盜品タル其ヨリ牙保ヲ知リ、又牙保ヲナシ、別ニ金錢ヲ受ル者ハ、律上何ヲ以テ首ト為ス。其窩主。造意セス。同ク行ヒテ。贓ヲ分タス。及ヒ同ク行ハスシテ。贓ヲ分ツ者ハ。仍ホ從ト為シテ論ス。若シ行ハス。贓ヲ分タサル者ハ。笞三十。

其強竊盜。及ヒ畧賣。和誘ノ贓（強盜竊盜ノ盜ミ物。又ハ畧賣シ。又ハ承知シテ賣リタル人ヲ畧賣シ。又ハ承知シテ賣リタル人ノ身ノ代金。）ハ。各贓ニ計ヘ。竊盜ヲ為ス者ニ準シ。從ト為シテ論（眞ノ竊盜ニハ非ザレ𪜈。其部ニ引發起人ニテハナキ。隨從ノ科ト。ミナス。）其盜贓ヲ計ヘ。坐贓一律ス。知テ為ニ寄藏スル者（盜ミ物タルコヲ知リナガラ。預リ置ク者。）ハ。故サラニ買フ者ハ。並ニ坐セス。

七年十二月廿七日指令、

盜賊ヲ知テ故ラニ買フ者ハ。買フ所ノ物ヲ計ヘ。坐贓ヲ以テ論（盜ミ物タルコヲ知リテ買ヘバ。其買タル物ヲ贓ト為スト雖モ。坐贓一律ス。知テ為ニ寄藏スル者（盜ミ物タルコヲ知リナガラ。預リ置ク者。）ハ。故サラニ買フ者ハ。並ニ坐セス。

○違式輕ニ問ヒ贖ヲ聽ス、

京都裁判所伺、

爰ニ甲ヨリ乙ナル者ヘ、金若干ヲ貸シ置ク處、返濟期限ヲ過ルニ依リ、甲督責ニ至リテ特ニ法アリ、牙保等賠償ノ資力ナキ者ハ、例百五十六條ノ通處分スヘシ、

○大分縣伺、

例等百五十六條、盜贓タルヲ知テ、典賣ノ牙保ヲ為スモノ云々、坐贓ヲ以テ一等ヲ減スト雖モ、右牙保ノ約ヲ為シ、未タ典賣セサル者ハ、何ノ責ニテ可ト然哉、

七等

○大坂裁判所、盜品タル其ヨリ牙保ヲ知リ、又牙保ヲナシ、別ニ金錢ヲ受ル者ハ、律上何ヲ以テ首ト為ス。其窩主。造意セス。同ク行ヒテ。贓ヲ分タス。及ヒ同ク行ハスシテ。贓ヲ分ツ者ハ。仍ホ從ト為シテ論ス。若シ行ハス。贓ヲ分タサル者ハ。笞三十。

其強竊盜。及ヒ畧賣。和誘ノ贓（強盜竊盜ノ盜ミ物。又ハ承知シテ賣リタル人ヲ畧賣シ。又ハ承知シテ賣リタル人ノ身ノ代金。）ハ。各贓ニ計ヘ。竊盜ヲ為ス者ニ準シ。從ト為シテ論（眞ノ竊盜ニハ非ザレ𪜈。其部ニ引發起人ニテハナキ。隨從ノ科ト。ミナス。）其盜贓ヲ計ヘ。坐贓一律ス。知テ為ニ寄藏スル者（盜ミ物タルコヲ知リナガラ。預リ置ク者。）ハ。故サラニ買フ者ハ。並ニ坐セス。

金ヲ還付スルニ非レハ、直チニ追徴スル者ハ。竊盜ノ罪ニ得ス、若シ盜犯ヲ捕獲スルニ、贓ノ可キ資力ナケレハ、事主ニ賠償シテ罪スル。其科ヲ調テ。重キ方ニ拠クナリ。

第百五十七條　凡典舗。盜賊タルコヲ知ラスト雖モ。牙保ナクシテ。典買スレハ。物ヲ追シテ。本主ニ給ス。若シ牙保。及ヒ田舎ノ借ス者アレハ。價ヲ償ハシム。其償フコ能ハサル者ハ。直テニ典舗ヨリ

料ヲトル者ハ。竊盜ノ罪ニ引當テ。ソノ隨從者トス。其科ミナ調テ。重キ方ニ拠クナリ。

第百五十六條　凡盜賊タルコヲ知テ。典賣ノ牙保ヲ爲ス者。質入レノ牙保ハ。典賣スル人ニ立ツ。又ハ受ケ者ハ。典賣ノ數ヲ計ヘ。坐贓ヲ以テ論ス。贓ノ金高ヲ。坐ノ律ニ見合セテ。科ヲ定メ。一段ヲ減ス。若シ別ニ金ヲ受ケル者ハ。竊盜ニ準シ。從テ為シ。重キニ從テ論ス。

八坐〇

年ヲ一月以テ九日ヲ以テ論シ。贓ヲ計ヘ。坐贓ヲ以テ論ス。

本年東京裁判所ノ判情ヲ知ラス、雖モ。金ヲ兌換スルニ、盜犯ヲ捕獲スルニ、賠償ミナ調テ。重キ方ニ拠クナリ。

盜賊窩主條例

及フト雖モ、乙素ヨリ貧窮ニ偶テ詐欺シ、金融ノ途ナク、故ニ來ルヲ所ノ物品ヲ受ケル其甲ニ吐露シ、而シテ其物ヲ變賣シ、返濟スル金ヲ以テ之ヲ償ハシム。又ハ受ケ者ノ罪、律例ニ照シ坐贓ノ數ヲ計ヘ。典賣スル人ニ立ツ。又ハ受ケ者ハ。典賣ノ數ヲ計ヘ。坐贓ヲ以テ論ス。

第百五十六條　凡盜賊タルコヲ知テ。典賣ノ牙保ヲ爲ス者。質入レノ牙保ハ。典賣スル人ニ立ツ。又ハ受ケ者ハ。典賣ノ數ヲ計ヘ。坐贓ヲ以テ論ス。贓ノ金高ヲ。坐ノ律ニ見合セテ。科ヲ定メ。一段ヲ減ス。若シ別ニ金ヲ受ケル者ハ。竊盜ニ準シ。從テ為シ。重キニ從テ論ス。

耳ハ追徴セサル儀ニ有之乎、

八年一月十五日指令

掲示條款ニ背キテ兌換スル者ハ、例第百五十七條牙保ナクシテ典賣スル者ト同ク、追徴ス可シ、

○和歌山縣伺

例第五十七條、典舖盗贓タルフヲ知ラスト雖モ、若シ牙保及ヒ囬曆ヲ借ス者アレハ、價ヲ償ハシメ、其償フ能ハサル者ハ、直ニ典舖ヨリ追スト有之、爰ニ牙保及ヒ囬曆ヲ借ス者アリ、微カニシテ贓ヲ完償スルフ能ハス、僅カニ半數或ハ三箇一ヲ償フ時ハ、典舖ヨリ半數或ハ三箇二ヲ追シ可然裁、

公商公買ニ由ラスシテ、盗贓ヲ買取スル者、盗犯資カ

追ス。

質屋ハ。盗ミ物トシラズトモ受ケ人ナケレバ。質屋ヨリ取リ上テ。品主ニ還ス。モシ受人アルカ。又ハ通ヒ帳ヲ貸ス者アレハ。其受人。及ビ通ヒ帳ヲ貸ス者ヨリ。代金ヲ質屋ヘ渡シ。品物ヲトリ還スナリ。若シ其受人。又ハ通ヒ帳ヲ貸ス者。質代金ヲ償フヿ出來ザレバ。直ニ質屋ヨリ。品物ヲ取リ上ルナリ。

第百五十八條　凡恐喝詐欺。枉法。不枉法ノ贓〔或ヒハオドシカケテ取シ財。或ハ偽リダマシテ取シ財。或ヒハ捉ヲ枉テ取タル財。捉ハ枉ゲザレドモ。賄ヒニ取リタル財。〕タルフヲ知テ。受ル者ハ。坐贓ヲ以テ論シ。故買〔不正品トシリツヽワザト買取者〕スル者ハ。坐贓ニ一等ヲ減シ。寄藏〔預ル〕スル者ハ。又一等ヲ減ス。知ラサル者ハ。坐セス。

アリト雖モ、賣徳ハ追徴シ官沒ス可キ乎、將タ盗犯資カアル者ハ、別ニ賣徳ヲ追徴スルニ及ハス可然裁、

八年一月十七日指令

第一條　伺ノ通、但シ律例第五十七條云々ハ、百五十七條ノ誤リナリ、

第二條　盗犯資カアレハ、賣徳ハ追徴ニ及ハス、

○飾磨縣伺

前條果シテ評價者ノ筭計ヲ眞贓ト視ルトキハ、盗賊竊主條例中、情ヲ知テ盗品ヲ故買スル者ハ、坐贓ニ一等ヲ減スト有之處、若シ故買者物品ヲ轉賣シテ、所有相公カラサル時ハ、賊及ヒ事主ノロ供ヲ審明シ評價人ニ估計セシメ、假令估計者ノ筭定金、賊ノ賣却金高ヨリ、十圓乃至二十圓ノ増減

第百五十九條　凡盗贓タルフヲ知テ。故買スル者。再犯以上ハ。一等ヲ累加

有之ト雖モ、本犯ハ勿論、故買者モ亦右估計金高ニ依リ、罪ヲ定ノ可然哉、但賊物追徴方モ、本文估計高ニ

○八年一月二十七日指令

ヲ可然哉、

本文但書共、伺ノ通、

○京都裁判所伺

第五十三條凡盗賊タルヲ知ラスト雖モ、買取シ又ハ転売スルノ者ハ、仍ホ転贓ノ律ヲ得其情ヲ知ラサル者モ、亦並ニ一等ヲ累加シ、罪懲役二年半ニ止ル。

増加 明治六年六月廿五日第二百二十七號御布告

凡竊盗ノ窩主再犯以上ニ係ル者ハ、律ニ照シ、造意不造意、同行不同行、分賍不分賍ヲ分チ、並ニ犯数ニ計ヘ、竊盗ト同ク罪ヲ治ス。

盗ミ取ル者ハ、二度目ヨリツ、買ヒ相当ノ科ニ一段ヲ加ヘ、重ク答シ、假令ハ五十ノ罪ハ杖七十ト雖モ、累テ杖六十ノ科ハ杖六十ニ止ル。懲役三年ニ上ル。其知テ寄蔵シ及ヒ牙保スル者モ、亦並ニ一等ヲ累加シ、罪懲役二年半ニ止ル。

サル方ニ取計可然哉ノ御指令、伺ノ通トアリ、然ルハ公商公賈ニ由ラスシテ、甲情ヲ知ラス、盗賍ヲ買取シ、乙ニ転売スル處、其盗賍乙ニ現在シアルヲ以テ、乙ヨリ追徴スルト雖モ、甲其売却代金已ニ費用スト申供セハ、資カアリト雖モ、甲ヨリ又ハ乙ニ償ハシメサル乎、又ハ第百五十七條、典舗云々、其償ヲ能ハサル者ハ直ニ典舗ヨリ追ス、若シ期限ヲ過キ、典舗下見知者ヘ売拂ヒ、其代金費用スト申供セハ是亦追徴セサル乎、疑

義ヲ生ス、

八年五月二日指令

賍物乙ノ手ニ現在スレハ、甲売却代金ヲ費用スト雖モ、資カヲ以テ、転償セシムヘキ可シ、又ハ第百五十七條典舗云々ハ、

窃盗ノ宿窩ニテ其科ヲ讞シ、宿窩ノ露顕後ニ露顕スル同シ、又窃盗ノ科ニ同シ、其加ハル者ハ次第ニ一等ヲ減ス。但頭発シ若ハ造意ノ賊ヲ捕ヘ、賍物ヲ分チ、見做ス人ハ自ラ行ハサルト雖モ、其時主意ニ従ヒ、又賍物見做ヲ分シ、

伺ノ通、

○濱田縣伺

二人共ニ窃盗ヲ為シト謀ルニ其從タル者、謀ニ違ヒ、其身一人ニテ竊盗ヲ行ヒ、造意者ニ贓ヲ分ツヘキ約ノミニテ、未タ分タサル者ハ、行盗者ヲ以テ主ト為シ、造意者ヲ以テ、從トナシテ

為ス者。ヲ以テ。發頭人ト為ス其窩主造意セズ。俱ニ賊ヲ行ヒテ。財ヲ分タザルト。同ク行ハズシテ。贓ヲ分ツ者ハ。仍ホ從ト見做スベシ。若シ行ハズ。贓ヲ分タザル者等ヲ律文ニ引合セ。分別シテ。再犯ハ一等ヲ加ヘ三犯ハ又一等ヲ加ヘ其盗メル所ノ贓ノ數ヲ計ヘ例圖ニ引該テ。竊盗者ト同シ罪ニ論スルナリ。

共謀為盗

此條ハ共テ盗ヲナサント謀リ。其内行ハザル者アル時ノ捌ヲ云フ。

凡共ニ強盗ヲ為ント謀リ。

論シ可レ然哉

六年八月廿九日指令

伺ノ通、

〔強盗ヲナサン トモクロム。〕其一人。臨時行ハスシテ。餘ノ行フ者。謀ニ違ヒ。卻テ竊盗ヲ為セハ。〔其共ニ巧ミシ者ノ内ノ一人。臨時盗ミヲ為ス時。餘ノ者共モクロミ違ヒ。強盗ハ止テ。小盗ミヲスルナリ。〕共謀ノ造意者ハ。行ハスト雖モ。贓ヲ分テハ。竊盗ノ首ト為シ。〔造意シテ相謀セシ時。發起人ハ盗ミハセズ𪜈。贓ミモノヲ分チ取レバ。竊盗ノ内ノ發起人ト見做ス。〕餘人ハ。並ニ竊盗ノ從ト為ス。若シ造意者。行ハス。

ミレガ其内一人盜ヲ為ス時。心變リ。其ノ贓ノ者。モクロミテ。強盜ヲナセバナリ。造意者ハ。行ハスト雖モ。贓ノ分テハ。竊盜ノ首ト為ス。造意者。行ハス。又贓ヲ分タス。又ト餘人ノ行ハスシテ。贓ヲ分ツ者ハ。倶ニ竊盜ノ徒ト為シ。臨時主意シ。及ト共ニ強盜ヲ為ス者ヲ以テ。首従ヲ分タス論（其時ニ翻リ。思モ付テ。強盜ヲナス者発起人モ。共ニ強盜セシ者モ。皆同ク。強盜ノ律通リ仕

又贓ヲ分タサルハ。竊盜ノ従ト為シ。餘人ノ行ハス。又贓ヲ分タサル者ハ。並ニ笞四十。臨時主意（初ノ発起人ニテナキ。後ノ盜ヲナスキ人。）シテ。盜ヲ為ス者ヲ以テ。竊盜ノ首ト為ス。

其共ニ竊盜ヲ為ント謀リ。其一人臨時行ハスシテ。餘ノ行フ者。謀ニ違ヒ。郤テ強盜ヲ為セハ。（初ノハ小盜ヲ為サント巧

置スルヿ。
ヿ。
ス。

皇朝律例彙纂卷三 終